

324-252

= 1101

文學博士 三島中洲 閱

河野宇三郎 著



三教統論

第一篇 精神本來之面目
 第二篇 道德思想之基礎
 第三篇 孔佛基督教之統一

東京 博文館 藏版

44. 6. 28

不無入而
自得

印

...

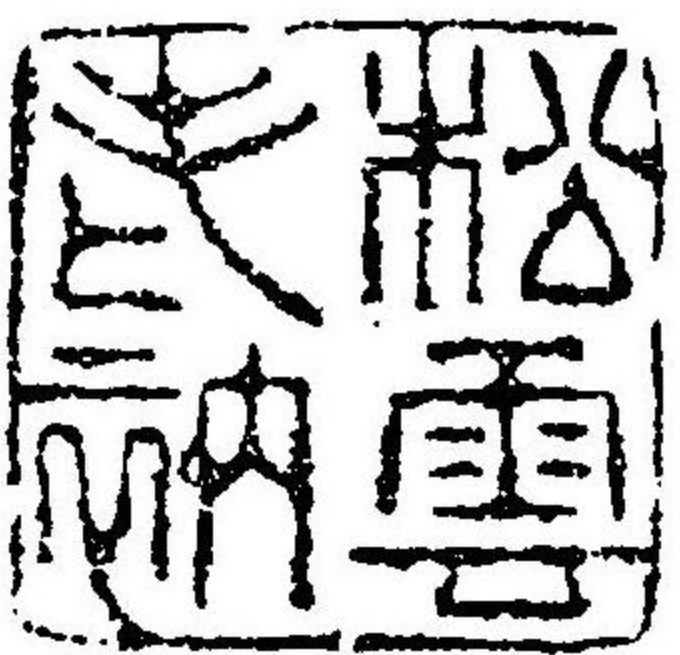
辛亥春

八十二翁中洲毅題



神
清
神
清

觀大治字畫



志公之友



志公之友

錄述之歷代大師之說
以左右序之

序



序

形下之學、日進不息。無線電信也、空中飛行器也、有奪
天工迫造化之概焉。而形上之學、墨守舊套、凝滯固定、
不敢推移者何也。蓋由于爲學之法相異焉耳。近者有
將取形下之學法、施諸形上之學、剷除朽腐、開拓新境、
博大精微、揭正辯妄、震蕩舊學之根柢、一新天下之耳
目者。吁嗟亦盛矣。然數千年之久、聖賢相繼起、研鑽累
世、隨修隨補、雖乃有未至者、亦不易之理、自存于其間。
惟距時遼遠、言異旨微。故今人不能察之耳。余意、當今
爲學者、宜以新學補舊學。新舊相待、而斯學始全。若偏

舊學、則惟舊學而已。僻新學、則惟新學而已。其所以爲弊、則相同也。頃者河野君著三教統一論、頗有以新補舊之趣焉。余乃喜弁一言於篇首云爾。

明治辛亥五月

岡村 司撰

自序

余嘗テ精神本來ノ面目ヲ論ズ。尋イデ道德思想ノ基礎ヲ論ズ。又孔佛基教ノ統一ヲ論ズ。今三篇ヲ併セテ之ヲ觀ルニ、一意脉絡貫通シテ相離スベカラズ。乃チ聯綴シテ一卷ト爲シ、名ケテ三教統一論ト曰フ。其ノ歸スル所ガ孔佛基三教ノ統一ニ在ルヲ以テナリ。

人常ニ我ト言フ。我トハ其ノ人ノ精神ガ自ラ我ト稱スルナリ。故ニ精神本來ノ面目ヲ知ルハ、其ノ我ヲ知ル所以ニシテ、之ヲ知ルハ人ノ急務ナリ。第一篇ヲ作ル。

人ノ精神作用ニ道德思想ノ活動セルコトハ、愚夫愚婦ト雖モ、皆之アリ。小兒ノ是非善惡ヲ争フ如キモ、皆之アルガ爲ナリ。何ヲ以テ其ノ精神作用ニ此ノ如ク道德思想ノ活

動スルアルカ。是レ道德ハ精神ヲ全ウセントスルニ由ルナリ。故ニ堅固ナル道德思想ノ基礎ヲ立ツルコトハ、亦人ノ急務ナリ。第二篇ヲ作ル。

道德上ノ教ニ、能ク人道ヲ修メ得ル所ノ德性ヲ發達セシムルニ足ル養分多キモノト、其ノ養分少キモノトアリ。孔教ノ仁愛ニ於ケル、佛教ノ禪定ニ於ケル、基督教ノ信仰ニ於ケル、其ノ養分ノ多キコト古今之ニ比ブベキモノナシ。而シテ三者相合スレバ、養分益多シ。故ニ三教ノ統一ハ急務中ノ急務ナリ。第三篇ヲ作ル。

抑、禪定ト信仰トハ、能ク仁愛ヲ全ウシテ、始メテ眞實ノ禪定、至誠ノ信仰タリ。是ヲ以テ仁愛ハ獨リ孔教ノ本旨ナルノミニ非ズシテ、亦佛教ト基督教トノ目的トスル所ナリ。而

シテ孔教ハ專ラ仁愛ヲ全ウスル所以ヲ教フ。一日之ヲ廢スレバ、德性饑渴シテ、不德其ノ隙ニ乘ジテ起ル。明治維新來、孔教漸ク衰へ、時々其ノ必要ヲ感ジテ、之ヲ興サントスルコト再三再四、而モ遂ニ振ハズ。今ヤ復之ヲ振興セントスル概アリト雖モ、既往ニ徵スルニ、亦一時ノ流行ニ非ザルナキカ。僅々四十餘年間ニ、屢之ヲ反覆シテ毎ニ沮止スルモノハ何ゾヤ。是レ或ハ動モスレバ世界ノ風潮ニ左右セラレ、ノ致ス所カ。將タ我ニ堅忍不拔ノ志ナキニ由ルカ。余ハ方今孔教ノ流行セントスルニ際シ、其ノ流行ノ無窮ニシテ益、旺ナルト共ニ、基佛兩教モ亦隨ツテ大ニ隆盛ナランコトヲ祈ルモノナリ。

明治四十四年五月上浣

河野宇三郎識

三教統一論目次

第一篇 精神本來ノ面目	一
第一章 精神ノ定義	一
第二章 社會ノ精神	三
第三章 個人ノ精神	六
第四章 生前ノ精神	九
第五章 死後ノ精神	一〇
第六章 精神ノ分解	三
第七章 精神下智情意	四
第八章 智情意下知感欲望心術言行	七
第九章 知感欲望心術言行ノ相互關係	二
第十章 知感ノ結合	三

第十一章 知感ノ結合ト欲望……………二二

第十二章 欲望ト心術言行……………二七

第十三章 心術言行ト知感……………二六

第十四章 諸感ノ調和……………二九

第十五章 諸感調和ノ要素健康、長壽、富、光榮、自由……………三一

第十六章 諸感調和ノ要素ト倫理道德……………三五

第二篇 道德思想ノ基礎……………四一

第一章 倫理ノ定義……………四一

第二章 倫理ノ八大別……………四四

第三章 倫理ノ二大目……………四六

第四章 倫理ノ一大綱……………五〇

第五章 倫理ト天然則……………五七

第六章 倫理ト人定法……………六六

第七章 倫理ト正邪善惡……………六〇

第八章 正邪善惡ト道德……………六四

第九章 道德ノ定義……………六五

第十章 道德ト倫理……………六九

第十一章 道德ノ四面觀……………七〇

第十二章 道德ノ一貫……………七二

第十三章 道德ノ兩極……………七五

第十四章 倫理道德ト孔佛基三教……………七五

第三篇 孔佛基三教ノ統一……………七六

第一章 孔佛基三教ノ鼎立ト精神……………七八

第二章 孔教ト仁愛……………八〇

第三章 佛教ト禪定……………八六

第四章 基教ト信仰……………九一

第五章 孔佛基三教ノ統一ト精神……………三三

目次終

三教統一論

河野宇三郎著

第一篇 精神本來ノ面目

第一章 精神ノ定義

名ハ實ノ賓ナリ。實ハ名ノ主ナリ。名ニ拘リテ實ヲ誤ル。是レ思想混亂ノ本、見解衝突ノ始ニシテ、毫釐ノ失、千里ノ差モ、概ネ名ヲ正サズシテ、實ヲ論ズルニ因ル。願フニ精神トハ如何ナル實相ニ名ケタルカ。

從來世人ノ精神觀ニ三大別アリ。身體ノ生前ニ於ケル精神、身體ノ現在ニ於ケル精神、身體ノ死後ニ於ケル精神是ナリ。然レドモ生前死後ノ精神ヲ云云スルハ、皆現在ノ精神ニ基

キテ、之ヲ推説セルモノナルガ故ニ、精神ノ實相如何ヲ知ラント欲セバ、先ヅ身體ノ現在ニ於ケル精神ヲ審ニスルヲ要ス。

身體ノ現在ニ於ケル精神トハ、知ル感ズル及ビ欲望心術言行ヲ爲ス五種ノ作用ニ就キテ、此ノ作用アレバ、必ズ此ノ作用ヲ爲ス本體アリトシテ、之ニ名ケテ精神ト稱セルナリ。而シテ人皆精神ハ無形物ナリトスルガ故ニ、無形物ニシテ能ク此ノ作用ヲ爲スモノハ、果シテ如何ナルモノナルカラ推究セバ、則チ精神ノ實相自ラ明ナルベシ。

人ノ身體ニ食物ノ消化、大氣ノ呼吸、血液ノ循環、老廢物ノ排泄等ヲ爲ス機關アルト共ニ、又知感欲望心術言行ヲ爲ス機關、則チ腦脊髓神經アリ。而シテ腦髓ハ之ガ最高府タルガ故ニ、知感欲望心術言行ヲ爲ス所ノ主機ハ腦髓ナレバ、腦髓即チ精神ナリト謂フモ、不可ナキニ似タリト雖モ、腦髓ハ有形物ナルヲ以テ、無形物ナリトスル所ノ精神ニ當ラズ。且腦髓アルモ、其ノ腦髓ニ此ノ作用ヲ爲ス所ノ能力ナクンバ、決シテ此ノ作用ヲ爲ス能ハザルガ故ニ、知感欲望心術言行ハ、腦髓ニ於ケル能力之ヲ爲スナリト謂ツベシ。而シテ能力ハ無形物ナルヲ以テ、所謂精神ハ此ノ能力ニ當ルノミ。是ニ由リテ余ハ精神ノ定義トシテ左ノ如ク斷決ス。

人ノ精神トハ、其ノ身體ノ最高府タル腦髓ニ存在セルモノニシテ、知感欲望心術言行ノ五種作用ヲ爲ス能力ナリ。

人ノ精靈ト曰ヒ、靈魂ト曰ヒ、魂魄ト曰フモノハ、皆此ノ精神ノ異名ニシテ、他物アルニ非ズ。他物アリト觀ズルハ是レ迷ノ始ナリ。

第二章 社會ノ精神

社會トハ人ト人ト互ニ生活的關係ヲ有スル團體ヲ曰フ。但シ此ノ關係ニ直接ナルアリ。間接ナルアリ。直接ノ關係ヨリ視レバ、其ノ範圍狹シト雖モ、間接ノ關係ヨリ視レバ、其ノ範圍極メテ廣シ。宜シク地球上ノ人類ヲ總括シテ、之ヲ社會ト謂フベキナリ。人或ハ曰ハン、甲地乙地往來相通ゼザル處ノ人ト人トハ、何ノ關係ヲモ有セズシテ、各別區ノ社會ヲ爲セリ。故ニ地球上ノ人類ヲ總括シテ、社會ト謂フハ不可ナリト。是レ普通ノ見解ナリト雖モ、唯、社會ヲ幅員ヨリ横ニ視タルモノニシテ、若シ之ヲ時間ヨリ縦ニ視テ、人類ノ祖先ニ溯リ、或ハ人類化生ノ最初ニ就キテ考ヘ來レバ、四海ノ人皆同胞ニシテ一體ナラザルハナシ。而ルニ其ノ或ハ時ニ相離レテ、兩地不通ノ處ニ散在スルノ故ヲ以テ、復我ガ社會ノ

人ニ非ズト思フハ誤レリ。況ヤ近時交通ノ路大ニ開ケ、世界ノ人互ニ往來シテ、宇内人類全體、連鎖的生活關係ヲ有シ、之ヲ幅員ヨリ横視スルモ、皆同胞タルノ事實益々相徴スベキモノアルニ於テヲヤ。故ニ今此ノ社會ヲ組織セル人類ノ祖先、乃至人類化生ノ最初ニ溯リテ、其ノ精神ノ社會ニ傳播セル由來ヲ審ニセバ、所謂社會ノ精神ナルモノ推シテ知ルベキナリ。

人類ノ祖先觀ニ二様アリ。一ハ父母ノ父母、祖先ノ祖先ト溯リテ、其ノ始祖ニ及ベバ、人類ノ始祖ハ同一ニシテ、此ノ一祖ヨリ蕃息シテ、今ノ社會ニ至リタリトスル所ノ觀念ナリ。一ハ各種ノ人類ニ皆特別ノ始祖アリテ、衆種ノ始祖ヨリ各々蕃息シテ、今ノ社會ニ至リタリトスル所ノ觀念ナリ。一祖説是カ。衆祖説是カ。其ノ是非未ダ明ナラズト雖モ、有人ノ始、無人ノ中ヨリ、其ノ人ヲ化生シタル素質ハ一ナリト曰フコトニ於テハ、疑フベキ所ナシ。然レバ則チ人ハ此ノ一素質ヲ元祖トシ、此ノ一元祖ノ下ニ於テ、世界ノ人類全體悉ク同胞ニシテ、一大社會ヲ組織セリト謂ツベシ。隨ツテ其ノ身體ニ於ケル精神モ、最初此ノ一素質中ニ在リシ唯一ノ精神ガ、其ノ身體ノ化生蕃息スルト共ニ、亦分派蔓延シテ今日アルニ至レルモノナルコト明ナリ。是ニ由リテ之ヲ觀ルニ、社會ノ精神ハ本來唯一ニシテ、億兆

ニ分派シ、個人ノ死生ニ由リテ、或ハ膨脹シ、或ハ收縮シ、其ノ廣狹ヲ爲ス範圍ハ、常ニ個人ノ死生ノ度ニ準ズルモノト謂フベキナリ。

難者曰ハク、唯一ノ精神分派シテ、億兆ノ精神トナレルニ、何ヲ以テ諸人ニ賢愚優劣等ノ不同アリ、又ハ互ニ相衝突闘争スル等ノ事アルカ。其ノ之アルハ、以テ各個人ノ精神ガ本來個個別別ノモノニシテ、唯一ノ分派シタルモノニ非ザルヲ知ルベキナリト。曰ハク、一個ノ人ニ二個ノ精神ナク、唯一個ノ精神アルノミトハ、何人モ自認スル所ナリ。而モ其ノ作用ヲ爲スニ方リテハ、同一人ニシテ兩知相矛盾シ、兩感相衝突シ、或ハ二個以上ノ欲望互ニ相反抗シ、二個以上ノ心術互ニ相闘争シ、腦髓ハ之ガ爲ニ其ノ戰場ト爲リ、隨ツテ言行モ亦支離滅裂、左軀右轄シテ、紛々タル亂態ヲ演ズルニ至ルコトアルニ非ズヤ。故ニ人ト人トノ間ニ衝突闘争等アルヲ以テ、社會ノ精神唯一説ヲ疑ハバ、個人ノ精神唯一説ヲモ疑ハザルヲ得ズ。而ルニ個人ニ就キテハ之ヲ疑ハズシテ、獨リ社會ニ就キテ疑フハ何ゾヤ。且社會ノ人ト人トニ賢愚優劣等ノ相異アルモ、同一人ニ於テモ亦此ノ相異アリ。即チ其ノ賢ナル時ノ精神ハ、嘗テ愚ナリシ時ノ精神ニシテ、其ノ晦メル時ノ精神ハ、嘗テ明ナリシ時ノ精神ナリ。而ルニ個人ニ就キテハ之ガ爲ニ精神ノ唯一説ヲ怪マズシテ、獨リ社會ニ

就キテハ之ガ爲ニ精神ノ唯一說ヲ疑フハ何ゾヤ。要スルニ人ト人トノ間ニ賢愚優劣等ノ差、衝突闘争等ノ事アルヲ以テ、社會ニ於ケル精神ノ本來唯一ナルコトヲ非認スルヲ得ズ。抑個人ニ於ケル精神ガ、或ハ既ニ明ニシテ、又晦ムコトアリ、或ハ既ニ定リテ、又惑ヘルコトアリ、或ハ自家矛盾衝突スル等ノ事アルハ、畢竟精神ノ修養未ダ足ラザルニ因ル。各人相互ノ間ニ於テ、賢愚優劣等ノ差著シク、衝突闘争等ノ事多キモ亦然リ。彼ノ甲ナル一個人ト乙ナル一個人トノ間ニ就キテ視ルモ、兩者共ニ其ノ精神修養セラレタル時ハ、其ノ賢愚優劣ノ差、衝突闘争ノ事少ク、其ノ一方ノ精神修養足ラザル時ハ、賢愚優劣ノ差、衝突闘争ノ事多ク、又兩者共ニ修養セラレザル時ハ、賢愚優劣ノ差甚ダ少クシテ、衝突闘争ノ事最も多キ等ハ、皆之ヲ證シテ餘アリ。故ニ若シ社會各人ノ精神修養足リタランニハ、殆ド賢愚優劣ノ差ナク、衝突闘争ノ事ナク、到ル所ニ於テ、自然ニ相融和諧合シ、亦以テ益、社會ニ於ケル精神ノ唯一無二ナルコトヲ自覺セン。

第三章 個人ノ精神

一素質凝結シテ人祖ヲ生ジ、人祖蕃息シテ億兆ノ身體ト爲リタルト同時ニ、其ノ一素質中

ナル唯一ノ精神モ、隨ツテ亦億兆ノ身體ニ分派シテ、以テ社會的生活ヲ爲スニ至リタルモノト認メザルヲ得ザルコト前述ノ如シ。故ニ個人ノ精神ハ社會ノ精神ノ一部分ニシテ、而シテ何人ノ精神モ其ノ本來ノ性質ハ毫モ相異ラザルコト、譬ヘバ何處ノ水モ、何處ノ火モ、其ノ性質相同ジキガ如キナリ。

精神ヲ論ズル者、動モスレバ其ノ本來ノ性質ト、其ノ發達ノ情態トヲ混同ス。若シ發達ノ状態ヨリ之ヲ觀レバ、各個人ノ精神ト精神トニ千種萬別ノ相異アリ。獨リ各個人間ニ此ノ相違アルノミナラズ、同一個人ノ精神ニモ亦之アリテ、今年ノ我ハ去年ノ我ニ非ズ。然レドモ本來ノ性質ハ諸人皆相同ジキヲ以テ、個人ニ於ケル精神ノ性質ヲ知ラバ、社會ニ於ケル精神ノ性質モ自ラ明ナルベシ。

夫レ人ニ於ケル精神本來ノ性質ニ、二種ノ區別シテ視ルベキモノアリ。即チ禽獸ノ精神作用ト同ジキ作用ヲ爲スモノト、同ジカラザル作用ヲ爲スモノトアリ。其ノ禽獸ノ精神ト同ジキ作用ヲ爲スモノハ、人ノ精神ニ於ケル獸性ニシテ、人ノ人タル精神ト稱スベキモノハ全ク此ノ獸性ヲ除去シタルモノナラザルヲ得ズ。是レ眞純ノ人性ナリ。若シ人ノ精神ヨリ此ノ人性ヲ除去セバ、殘餘ハ禽獸ノ精神ト同性質タル獸性ノミニシテ、特ニ人ノ精神ト稱

スベキモノナシ。何ヲ以テ之ヲ言フ。他ナシ。精神作用ナル知感欲望心術言行ハ、禽獸モ亦能ク之ヲ爲ス。故ニ人能ク如何ナ事ヲ爲スモ、單ニ知感欲望心術言行ノ事タルニ止ラバ、獸性的精神作用ノ發達シタル結果ニ過ギズ。唯、其ノ知感欲望心術言行ガ、倫理ニ合ヒタルニ於テ、始メテ獸性的精神作用ト相同ジカラザルヲ見ルノミ。是レ人性的精神作用ニシテ其ノ最モ能ク發達シタル人ニ至リテハ、其ノ知感欲望心術言行一トシテ倫理ニ遠フコトナシ。人ニ禽獸的人物ト眞人的人物トアル所以ハ此ニ存ス。然レドモ常人ハ此ノ人性ト獸性トヲ兼有ス。精神ノ治亂ハ畢竟此ノ人性作用ト獸性作用トノ衝突、又ハ獸性作用相互衝突ノ有無ノミ。而シテ此ノ如キ状態ノ下ニ發達セル各個人ニ於ケル精神ノ總體ハ、即チ社會ノ精神ニシテ、社會ノ治亂モ亦此ノ人性作用ト獸性作用トノ衝突、又ハ其ノ獸性作用ト獸性作用トノ相互衝突ノ有無ニ外ナラザルナリ。

此ノ如ク人ニ於ケル精神本來ノ性質ニ二種相混合セリト雖モ、實ニ人ノ人タル眞純ノ精神ト稱スベキモノハ、此ノ人性ノ謂ナラザルヲ得ズ。其ノ社會ノ精神ニ於テモ亦然リ。人類ニ對スル天賦ノ靈トシテ尊ブモノモ亦是ナリ。

第四章 生前ノ精神

何ヲカ生ト曰ヒ、何ヲカ生前ト曰フ。社會ヨリ之ヲ言ヘバ、人アルニ至リタル最初ハ即チ生ノ始ニシテ、最初以前ハ即チ生前ナリ。個人ヨリ之ヲ言ヘバ、妊娠セラレタルハ即チ生ノ始ニシテ、妊娠以前ハ即チ生前ナリ。今茲ニ謂フ所ノ生前ノ精神トハ、專ラ個人ニ就キテ之ヲ言フ。

凡ソ人トハ、其ノ身體ト精神トノ總稱ナルガ故ニ、人ノ身體ヲ離レテハ、人ノ精神ト謂フベキモノナキヲ以テ、吾人生前ノ精神モ、亦人ノ身體ニ就キテ之ヲ尋ヌベキノミ。而シテ人ノ身體ハ、父母ノ分身遺體ニシテ、精神モ亦之ニ伴ウテ分遺セルモノナルガ故ニ、吾人生前ノ身體ガ、父母ノ身體ナリシト共ニ、其ノ生前ノ精神モ、亦父母ノ精神ナリシナリ。抑、人ノ精神ハ、其ノ人ノ口舌手足、顔色容姿等ニ由リテ、外面ニ發動シ、他人ノ耳目等ヲ通過シテ、他人ノ腦髓ニ入り、其ノ精神ニ同化スルモノナルガ故ニ、何人ノ精神ニモ他人ノ精神ヲ混和セザルモノナク、父母ノ精神ニモ、亦必ズ他人ノ精神ヲ混和セルヲ以テ、嚴密ニ之ヲ言ヘバ、吾人生前ノ精神ハ、即チ吾人生前ニ於ケル社會ノ精神ナリト謂フ

ベシ。

人ノ生前ニ於ケル精神ハ、唯、此ノ如キノミ。隨ツテ其ノ現在ニ於ケル精神ハ、父母祖宗ノ精神ニシテ、又生前及ビ現在ニ於ケル社會ノ精神ナリ。故ニ祖宗考妣其ノ他一切ノ死者ヲ祭リテ、被祭者ノ靈魂、天上地下等ニ在リテ、來享スルガ如ク思フ者アルモ、其ノ實被祭者ノ靈ハ、初ヨリ祭者ノ精神内ニ在リ。是ヲ以テ、心誠ナラザレバ、盛ナル祭典ヲ舉行スルモ、祭ラザルガ如キナリ。

第五章 死後ノ精神

物ノ實質ニ變化アリト雖モ、物ノ元素ニ變化ナキハ、天然ノ原則ニシテ、此ノ原則ヨリ之ヲ觀レバ、物皆不死不生ニシテ、又無始無終ナリ。何ゾ獨リ人身ヲ組織スル元素ニ於テノミ終始死生ナルモノアラシヤ。然レドモ是レ唯、物素觀ニシテ、此ヲ以テ人ノ死生觀ヲ無視スルハ誤レリ。何トナレバ、人ノ死生觀ハ、人ノ身體ト云フ物體ニ於ケル實質ノ變化ニ對スル觀念ニシテ、物素觀ニ非ザレバナリ。

人ノ死ハ、人ノ身體ニ於ケル變化ノ最モ大ナルモノナリ。而モ社會ヨリ之ヲ觀レバ、尙變

化ノ小ナルモノニシテ、其ノ絶對的大變化ハ、社會全體ノ死ナリ。而シテ社會全體ノ死ガ果シテ幾億年後ニ在リヤ否ヤハ、臆測スベカラズ。世人概ネ皆思ヘタク、蓋シ天地ト共ニ殆ド窮リナカラント。是ヲ以テ、學者或ハ社會全體ヲ滅亡スルニ足ル事變ノ地球上ニ起ルベキコトヲ口ニスル者アリト雖モ、世人ハ實際社會全體ノ死滅ニ關シテ、憂懼スル者ナシ。之ニ反シテ、個人ノ死ニ就キテハ、十中ノ八九ハ、最モ憂懼スル所ニシテ、死後ノ精神如何ヲ想像スルニ至レルモ、主トシテ此ニ原ク。

佛家曰ク、汝何處ヨリ來リテ、何處ニ至ラントスルカト。是レ個人ニ就キテ其ノ生前ノ精神如何、其ノ死後ノ精神如何ト問フニ同シ。然レドモ人ハ生前ノ精神如何ト回顧スルヨリモ、寧ロ死後ノ精神如何ト想到スル者多シ。抑吾人如何ニ死後ノ精神ヲ知ラント欲スルモ、生前ノ精神ヲ知ラズンバ、到底死後ノ精神ヲ知ルベカラズ。故ニ死後ノ精神ヲ知ラント欲セバ、先ヅ生前ノ精神如何ト願ミルヲ要ス。

吾人ノ生前ノ精神ハ、既説ノ如ク吾人ノ生前ニ於ケル社會ノ精神ナリ。父母其ノ一部分ヲ以テ、之ヲ吾人ニ傳ヘ、吾人茲ニ生レテ、社會ノ精神ヲ吸收シテ、吾人ノ精神ニ同化スルト同時ニ、吾人ノ精神ヲ發揮シテ、社會ノ精神ニ融和セリ。然レバ則チ吾人死後ノ精神如

何ハ、推シテ知ルベキナリ。他ナシ。社會ニ憑リテ永ク存在ス。即チ後人ノ身體ヲ以テ靈場ト爲シ、後人ノ腦髓ヲ以テ神壇ト爲シ、社會全滅セザレバ亦滅亡セザルナリ。人ノ死後ニ於ケル精神ハ、唯、此ノ如キノミ。故ニ死者ノ追悼ヲ爲ス者ハ、須ク生者ノ害トナルコトヲ爲サザルベシ。往者ノ冥福ヲ祈ル者ハ、須ク來者ノ福利ヲ計ルベシ。近ヲ愛シ遠ヲ愛シ、抑又自ヲ愛スルハ、死者ニ對スル吊祭ノ最モ誠ナルモノナリ。

第六章 精神ノ分解

身體ノ解剖ハ、目以テ之ヲ見ルヲ得ルモ、精神ノ分解ハ、目以テ之ヲ見ルヲ得ズ。身體ノ解剖ハ、直ニ其ノ身體ニ就キテ之ヲ解剖シテ、其ノ作用ヲ説明シ得ルモ、精神ノ分解ハ、直ニ其ノ精神ニ就キテ之ヲ分解シテ、説明スルヲ得ズ。必ズヤ精神作用ノ迹ニ就キ、先ヅ其ノ作用ヲ分解シテ、精神作用ガ此ノ如ク分解シ得ラル、故ニ、精神ハ此ノ如ク分解シ得ラル、所ノ作用アル性質ヲ有スルモノナリト爲スベキノミ。何トナレバ、精神ハ無形物ニシテ、有形物ナル身體ノ如ク、先ヅ其ノ實體ヲ見テ名ケタルモノニ非ズシテ、一種ノ能力ガ人ノ腦髓ニ在リテ、爲ス所ノ作用ノ迹ニ就キテ、其ノ能力ヲ精神ト名ケタルモノナレバ

ナリ。而シテ精神作用ノ大別ハ既ニ述ベタル如ク、知ル、感ズル、及ビ欲望、心術、言行ヲ爲スノ五種ナリト雖モ、之ヲ細別スレバ左ノ如シ。

其ノ一 知

知ハ知覺、覺悟、觀念、概念、記憶、鑑別等ノ如ク、凡ソ事物及ビ理法ヲ認識スル所ノ精神作用ナリ。

其ノ二 感

感ハ爽快、不快、喜悅、憤怒、悲哀、娛樂、安泰、不安等ノ如ク、凡ソ事物及ビ理法ニ感應スル所ノ精神作用ナリ。

其ノ三 欲望

欲望ハ爽快、喜悅、娛樂、安泰等ヲ感ゼシムル所ノ事物ハ之ヲ保チ、其ノ理法ニハ之ニ從ハント欲シ、而シテ不快、不安、憤怒、悲哀等ヲ感ゼシムル所ノ事物ハ之ヲ却ケ、其ノ理法ニハ之ニ從ハザラント欲スルガ如キ精神作用ナリ。

其ノ四 心術

心術ハ欲望ガ知能ヲ使ツテ爲ス所ノ精神作用ニシテ、思辨、考慮、省察、工夫等一切ノ致

知、及ビ制裁、制欲、決心等ノ如キ是ナリ。

其ノ五 言行

言行ハ欲望ガ内ハ知能ヲ使ヒ、外ハ口舌、手足、耳目等ヲ用キテ爲ス所ノ精神作用ニシテ
語黙、操作、視聽等ノ如キ是ナリ。

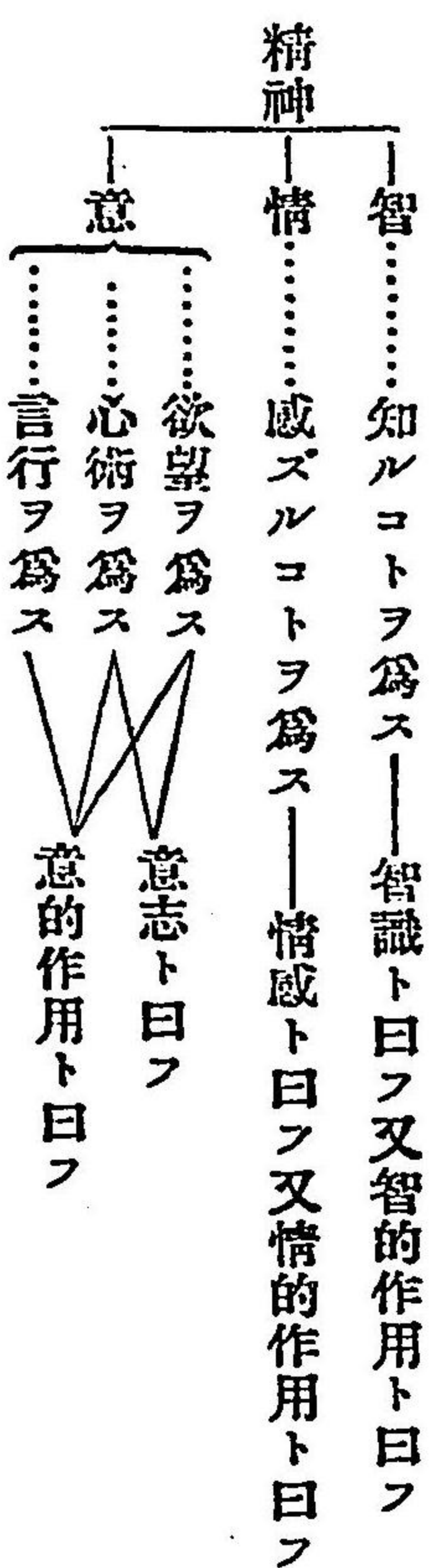
第七章 精神ト智情意

普通一般ニハ、精神ヲ大別シテ、智情意ノ三トシテ、之ガ説明ヲ爲ス。而ルニ余、精神ヲ
以テ知感欲望心術言行ノ五種作用ヲ爲スモノナリトシテ之ヲ説クハ、好シデ異説ヲ立ツル
ニ非ズ。止ヲ得ザルモノアレバナリ。他ナシ。人皆精神ト云ヒ、知情意ト云フモ、未ダ會
テ其ノ本體ヲ見タル者アラズ。唯知感欲望心術言行ノ五種作用ノ迹ニ就キテ、必ズ此ノ作
用ヲ爲ス所ノ本體アルベシトシテ、之ニ名ケテ精神ト曰ヒ、又其ノ幾多ノ作用ヲ三種ニ類
別スルト共ニ、其ノ作用ヲ爲ス所ノ精神ヲバ、假ニ三體鼎立視シテ、之ニ智情意ノ三名ヲ
附ケタルモノナルガ故ニ、直ニ精神ヲ智情意ノ三者ナリトシテ、説明セントスレバ、説明
ノ段階ヲ踰越シテ、精神ノ實相ヲ明ニシ難シ。是レ普通ナル智情意説ニ從ハズシテ、前述

ノ如ク五種作用ノ類別ニ據リテ、精神ノ本體ヲ説明セントスル所以ナリ。蓋シ精神ヲ究ム
ルコト此ノ如クニシ、而シテ更ニ智情意ノ區別ニ就キテ之ヲ考フレバ、智情意ノ名實モ亦
自ラ明ナルベシ。今圖式ヲ以テ之ヲ示セバ、即チ左ノ如シ。

本體

作用



從來欲望ヲ以テ情的作用ナリトシ、心術ヲ以テ智的作用ナリトスル者アリ。類別ノ混亂モ
亦甚ダシ。一言辯ゼザルヲ得ズ。今類ヲ以テ之ヲ視ルニ、爽快、不快、喜怒、哀樂、安泰、
不安ノ如キハ、均シク感ニシテ同類ナリ。須ク此等ヲ包括シテ、其ノ之ヲ爲スモノアリト
シテ、之ニ一種ノ名ヲ附スベシ。而シテ從來之ヲ情ト謂フ。故ニ都ベテ情的作用ト謂フベ
キモノハ皆此等ト類ヲ同ジクスル所ノ感ナラザルベカラズ。而ルニ欲望ハ全ク此等ト其ノ

類ヲ異ニス。即チ爽快、喜樂、安泰等ノ事物ハ之ヲ得ント欲シ、其ノ理法ニハ之ニ從ハント欲シ、而シテ之ニ反スル事物ハ之ヲ斥ケント欲シ、其ノ理法ニハ之ニ從ハザラント欲スル所ノ希望ニシテ感ニ非ズ。故ニ之ヲ喜怒哀樂等ノ感ト相并セテ情的作用ト謂フハ甚ダ異類ヲ混淆セリ。

又知覺、覺悟、觀念、概念、記憶、鑑別等ハ皆一種ノ認識ナリ。即チ知覺ハ吾人ガ直接ニ事物ニ對シテ、其ノ事物ニ於ケル實狀ヲ知ル所ノ認識ナリ。覺悟ハ吾人ガ直接ニ其ノ事物ニ於ケル理法ヲ知ル所ノ認識ナリ。觀念ハ此ノ直接ノ關係ヲ離レテ、事物ノ實狀、又ハ其ノ理法ヲ知ル所ノ認識ナリ。概念ハ觀念ノ抽象概括セラレタル認識ナリ。而シテ記憶ハ認識ノ潜伏セルモノニシテ再現スルモノナリ。鑑別ハ二個以上ノ認識ガ相對照シテ、事物及ヒ理法ノ異同ヲ區分スルモノナリ。故ニ此等ハ皆同類ナレバ、須ク此等ヲ包括シテ、其ノ之ヲ爲スモノアリトシテ、之ニ一種ノ名ヲ附スベシ。而シテ從來之ヲ智ト謂フ。隨ツテ都ベテ智的作用ナルモノハ、皆此等ト類ヲ同ジクスル所ノ認識タルニ限ルベシ。而ルニ心術ハ此等ト大ニ其ノ類ヲ異ニセリ。即チ思辯、考慮、省察、工夫等一切ノ致知、及ビ制欲、決心等ノ類ニシテ、皆欲望ガ知能ヲ使ウテ爲ス所ノモノナリ。故ニ心術ヲ以テ智的

作用ナリトスルハ、亦異類ヲ混淆スルコト甚ダシ。

夫レ欲望ヲ情的作用ト謂フベカラザルコト此ノ如シ。抑、欲望ヲ以テ智的作用トハ何人モ言ハザルナリ。又心術ヲ智的作用ト謂フベカラザルコト此ノ如シ。抑、心術ヲ以テ情的作用トハ亦何人モ言ハザルナリ。既ニ欲望及ビ心術ヲ情的作用トモ、智的作用トモ謂フベキニ非ズトスレバ、是レ皆意的作用ニ屬スベキモノナルコト自ラ明ナリ。何トナレバ、智情意説ヲ爲ス者ハ、必ズ之ヲ智情意ノ孰レカニ配當セザルベカラズシテ、智ト情トニハ之ヲ屬スベカラザルコト前述ノ如クナルヲ以テナリ。而シテ言行ハ學者ノ均シク意的作用ナリトセル所ナルガ故ニ、精神ヲ智情意ノ三段ニ大別スレバ、其ノ知ルコトヲ爲スモノヲ智ト謂ヒ、感ズルコトヲ爲スモノヲ情ト謂ヒ、欲望、心術、言行ヲ爲スモノヲ意ト謂フベキナリ。孔子曰ハク、名ヲ正サンカト。然リ名ヲ正サレバ實明ナラズ。

第八章 智情意ト知感欲望心術言行

精神ヲ智情意ノ三段ニ大別シテ、精神作用ヲ智情意ノ三者ニ配當スレバ、知ルヲ智的作用トシ、感ズルヲ情的作用トシ、欲望心術言行ヲ爲スヲ意的作用トスベキコト前述ノ如シ。

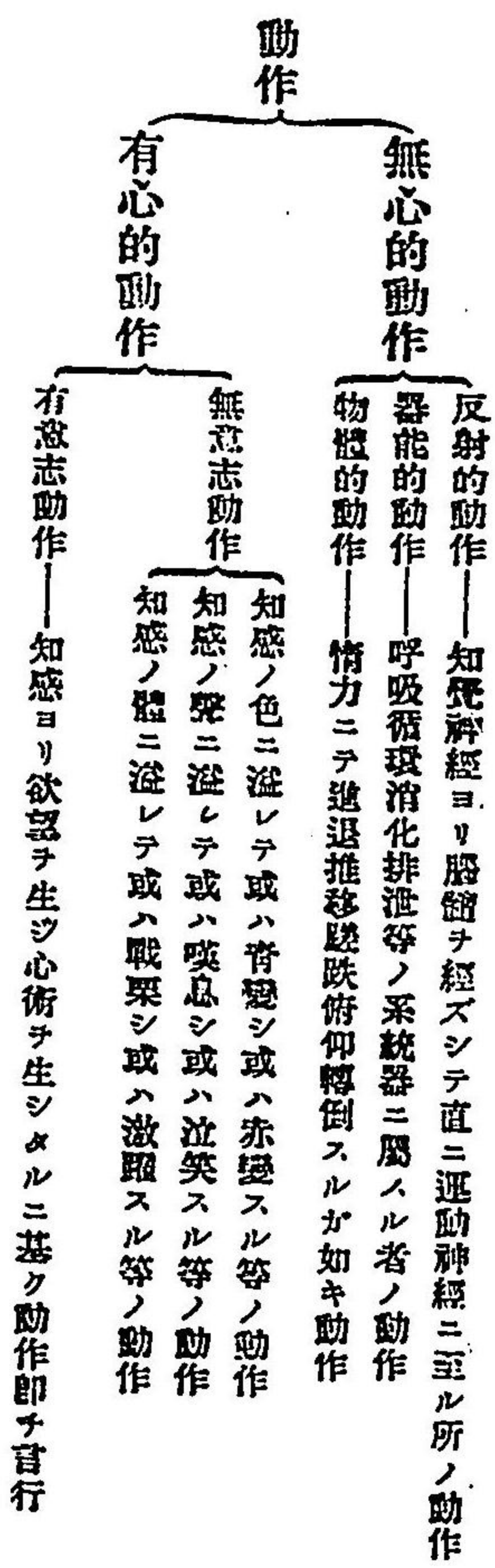
所謂智識ハ智ガ知ルコトニシテ、此ノ智的作用ノ謂ナリ。情感ハ情ガ感ズルコトニシテ、此ノ情的作用ノ謂ナリ。意志ハ意ガ欲望及ヒ心術ヲ爲スコトニシテ、此ノ意的作用中ヨリ言行ヲ除キタルノ謂ナリ。故ニ智的作用ハ智識ノミ、情的作用ハ情感ノミナリト雖モ、意的作用ハ意志ノミニ非ズシテ、意志ニ言行ヲ加ヘタルモノナリ。而ルニ世人或ハ智情意ノ三作用ヲ以テ、唯智識、情感、意志ノ三者ナリト思ヘルモノアリ。粗漏ト謂ツベシ。且其人ニシテ單ニ言行ヲ論ズル時ハ、常ニ之ヲ意的作用ナリトシ、而シテ智情意ノ三作用ヲ説ク時ニハ、唯、智識、情感、意志ナリトスル者アリ。益、粗漏ナリト謂ハザルヲ得ズ。蓋シ此ノ如クンバ、到底審ニ精神ノ實相ヲ視ルコト能ハザルベシ。須ク前章ニ於ケル圖式ニ示スガ如ク、明ニ此ノ區別ヲ立ツベキナリ。

又知感欲望心術ノ四者ハ、精神作用ノ内面ニ於ケルモノニシテ、言行ハ精神作用ノ外面ニ發シタルモノナレバ、其ノ作用ニ形而上、形而下ノ別アリト謂ツベシ。精神ガ無形物ナルヲ以テ、其ノ作用モ盡ク形而上ト思フハ誤レリ。而モ其ノ誤リ易キヲ以テ、或ハ言行ヲ口舌手足等ノ爲ス所ト思ヘル者アリ。是レ精神ガ口舌手足等ヲ使ウテ自ラ之ヲ言ヒ、之ヲ行ヒ、而シテ我ニ非ズ、口舌手足ナリト云フニ同ジ。畢竟知ラズ識ラズノ間ニ、其ノ責任ヲ

他ニ歸シテ、自ラ恬然タルモノナリ。此ノ如キ人ニ於ケル精神ハ、未ダ自ラ其ノ己ヲ覺ラザルノミナラズ、口舌手足等ハ精神ニ之ヲ用ヒテ言行セシメンガ爲ニ給セラレタル器械ナルコトヲモ悟ラザルモノナリ。且試ニ思ヘ。精神ノ眠レル時ハ、毫モ言行ヲ爲サルコト猶知感欲望心術ヲ爲サルガ如シ。彼ノ夢幻囈語等ノ如キハ、精神ノ半眠半醒ノ時ニ於ケル作用ニシテ、熟睡ノ時ニハ、決シテ此ノ事ナシ。亦以テ言行ハ精神自ラ之ヲ爲スコト、至ク知感欲望心術ニ於ケルニ同ジキモノタルコトヲ知ルベキナリ。

又世人往々曰ハク、心ニナキコトヲ言ヒヌ、心ニナキコトヲ行ヒヌト。是レ心ヲ離レテ別ニ言行アルガ如ク聞エテ、難解ノ辭令ナリ。何トナレバ、心トハ智識、情感、意志ノ總稱即チ精神ノ内面作用ニシテ、而シテ言行ハ精神ノ外面作用ナルガ故ニ、内外相連絡シ、如何ナル言行モ心ニ基カザルモノナケレバナリ。然レドモ其ノ語意ハ、例ヘバ。心ニ怯ル、所アルモ、又其ノ怯ヲ示サマラントスル所アリテ壯語ヲ爲シ、或ハ心ニ人ヲ辱シメントスル所アラザルモ、唯、一時ノ興ヲ得ンガ爲ニ人ノ恥ヅル諧謔ヲ弄シ、或ハ心ニ取ラザラントスル所アルモ、其ノ之ヲ我ニ與フル人ノ心ニ背クヲ憚リテ之ヲ取り、或ハ心ニ進マザル所アルモ、他ニ誘ハル、所アリテ遊ビタル等ノ如キコトヲ稱シテ心ニナキコトヲ言ヒ、心

ニナキコトヲ行ヒヌト曰ヘルナリ。是レ其ノ語意ハ通ズト雖モ、此ヲ以テ其ノ人ノ心ニ基カズト謂フベカラズ。是レ亦知ラザルベカラザルナリ、次ニ言行ト動作トノ異同ヲモ明知スルヲ要ス。他ナシ。言行ハ一種ノ動作ナリト雖モ、動作ハ獨リ言行ノミナラズ。即チ人ノ動作ニ無心的動作ト、有心的動作ト、又有心的動作ニ無意志動作ト有意志動作トアリテ、其ノ類三種ト爲ル。第一無心的動作、第二無意志動作、第三有意志動作、而シテ言行トハ唯、此ノ有意志動作ノミヲ稱ス。是レ其ノ異同ナリ。左ノ圖式ヲ以テ之ヲ視レバ、則チ自ラ瞭然タラン。



此ノ無心的動作、無意志動作、有意志動作ノ三者中、凡ソ産業、社交、教育、政治、警察、

軍旅其ノ他一切ノ倫理上對象トナル所ノ動作ハ、殆ド皆此ノ有意志動作、即チ言行ナリトス。而シテ言行ニモ亦三種ノ別アリ。其ノ一ハ善意志ノ言行、其ノ二ハ惡意志ノ言行、其ノ三ハ率意志ノ言行ナリ。略シテ善意志ノ言行、惡意志ノ言行、率意志ノ言行ト曰フ。其ノ善意志ノ言行トハ正善ト信シテ爲シタル言行ナリ。惡意志ノ言行トハ邪惡ト思ヒツ、爲シタル言行ナリ。率意志ノ言行トハ毫モ正邪善惡ノ思慮ナクシテ爲シタル言行ナリ。但シ善意志ノ言行トテ、其ノ言行ハ必ズシモ正善ナルニ限ラズ。是レ正善ト信シタルコトニモ誤信アルニ由ル。又惡意志ノ言行トテ、其ノ言行ハ必ズシモ邪惡ナルニ限ラズ。是レ邪惡ト思ヒタルコトニモ謬思アルニ由ル。而シテ率意志ノ言行ハ彼ノ從ニ心所欲、不踰矩。ト云フガ如キ成徳ノ人タルニ至ラザル以上ハ、日ニ惡言邪行多キコトヲ免レズ。是レ常人ニシテ正邪善惡ヲ擇ブ思慮ナクシテ言行スレバ。惡言邪行ニ傾キ易キニ由ル。苟モ精神即チ智情意ト、其ノ作用タル知感欲望心術言行上下ニ就キテ論議スル者ハ、先ヅ此等ノ區別ヲ辨ズベキナリ。

第九章 知感欲望心術言行ノ相互關係

凡ソ人ノ精神作用ハ、知ル所アルモ、必ズシモ感之ニ伴ウテ生ゼズ。感ズル所アルモ、必

ズシモ知之ニ伴ウテ生ゼズ。知感各、孤立スルコトアリト雖モ、大抵知ル所アレバ、感之ニ伴ウテ生ジ、感ズル所アレバ知之ニ伴ウテ生ジ、知感常ニ相結合ス。

知感結合スルヤ、必ズシモ欲望ヲ生ズルニ限ラザルモ、欲望ノ生ズルハ必ズ知感ノ結合ニ基ク。故ニ知感ノ結合ハ一切ノ欲望ヲ興起スル原因トナルモノナリ。

欲望生ズレバ、茲ニ其ノ欲望ハ知能ヲ使用シテ心術ヲ爲シ、又知能ト身體トヲ使用シテ言行ヲ爲シ、以テ諸感ノ調和ヲ期ス。嗚呼、精神作用ハ奇ナルカナ。先ヅ知感結合シテ欲望生ジ、其ノ欲望ハ其ノ知能ヲ使用シテ、其ノ諸感ヲ調和セントス。而シテ人間萬事ト爲リテ心術言行興ル。

所謂諸感ヲ調和トハ、憤怒ハ治リ、悲哀ハ慰ミ、不快消エ、不安去リ、其ノ他情ニ順ナラザル一切ノ感ナキニ至リ、喜バシキ、樂シキ、爽快ナル、安泰ナル等ノ情感ヲ保テル是ナリ。人ノ精神作用六千狀萬態ナリト雖モ、要スルニ此ノ諸感ノ調和ヲ致サントスル一點ニ歸ス。精神本領ノ極致此ニ在リ。左ニ項次之ヲ細説セン。

第十章 知感ノ結合

知感結合ノ状態ニ二様アリ。一ハ知ガ感ニ結合シ、一ハ感ガ知ニ結合スル是ナリ。前者ハ喜怒哀樂等ヲ感ズルニ隨ツテ其事物理法ニ對シテ、取捨避就等ノ手段ニ於ケル智識生スルヲ謂ヒ、後者ハ是非得失等ヲ知ルニ隨ツテ、其事物理法ニ對シテ喜怒哀樂等ノ情感生ズルヲ謂フ。此ノ如ク知ト感トハ、相前後シテ互ニ結合スト雖モ、其ノ結合ニハ常ニ主從ノ關係ヲ有ス。即チ感ハ知ノ主ト爲リ、知ハ感ノ從ト爲レルナリ。彼ノ喜怒哀樂等ヲ感ズルニ隨ツテ、其ノ事物理法ニ對シテ、取捨避就等ノ手段ニ於ケル智識ノ生ズルハ、是レ其ノ感ヲ調和セシムガ爲ニ生ズルモノナレバ、知ハ固ヨリ感ノ從ニシテ、感ハ知ノ主タルコト明ナリ。又是非得失等ヲ知ルニ隨ツテ、其ノ事物理法ニ對シテ、喜怒哀樂等ノ情感生ズルハ、是感ノ調和ハ知與リテカアルガ爲ナルニ由ラズンバアラズ。亦以テ知ハ感ノ從ニシテ、感ハ知ノ主タルコト明ナリ。是ヲ以テ知性ノ晦明ハ、感性ノ動靜如何ニ影響スルコト極メテ大ナルモノアリ。

第十一章 知感ノ結合ト欲望

唯、感ジタルノミニテ知之ニ伴ハズンバ、欲望興ラズ。唯、知リタルノミニテ感之ニ伴ハズンバ、亦欲望興ラズ。其ノ感ズルニ隨ツテ欲望ノ生ズルハ、先ヅ知ガ其ノ感ニ結合スルニ

由ル。其ノ知ルニ隨ツテ欲望ノ生ズルハ、先ヅ感ガ其ノ知ニ結合スルニ由ル。例ヘバ富嶽ノ秀麗ヲ見テ、其ノ美ニ感ズルモ、之ヲ其ノ庭園ニ移サント欲スルガ如キ欲望ヲ起ス者アラシ。是レ其ノ人ノ智識ガ之ヲ移シ得ル手段ニ想到セザレバナリ。然レドモ其ノ模形描畫等ヲ得ント欲スル者アルハ、其ノ美ニ感ズルト共ニ之ヲ得ル手段アルヲ知レバナリ。飢渴ヲ感ジテ飲食ヲ欲シ、病苦ヲ感ジテ醫藥ヲ望ムガ如キモ、飲食ノ飢渴ヲ治シ、醫藥ノ病苦ヲ癒スルコトヲ知レバナリ。而モ到底食藥ヲ得ルコト能ハズト覺悟スルコト明確ナル時ニ方リテハ、如何ニ飢渴病苦ヲ感ズルモ、食藥ヲ得ント欲スル欲望起ラザルナリ。故ニ眞個ノ絶望者ハ唯、或事物ノ爲ニ苦痛ヲ感ズルノミニシテ、其ノ苦感ヲ慰治スル手段ニ想到セザル者ニ限ルナリ。而シテ若シ其ノ絶望中聊カニテモ再ビ希望ヲ生ジタル時ハ、其ノ希望ノ生ズルニ先チテ其ノ治感ニ對スル手段ノ上ニ多少タリトモ智識ノ發シタルナリ。凡ソ此ノ如キノ類是ヲ唯、感ジタルノミニテ知ガ之ニ伴ハズンバ、決シテ欲望興ラズ、感ズルニ隨ツテ欲望ノ生ズルハ、先ヅ知ガ其ノ感ニ結合スルニ由ルト謂フ。又茲ニ人アリ。約束ニ違フコトノ不義、或ハ不利ナルコトヲ知了スルモ、其ノ之ニ違フコトヲ以テ不快ニモ不安ニモ感ゼザル時ハ、其ノ約束ヲ守ラント欲スルガ如キ志起ラザルベ

シト雖モ、其ノ不義不利等ヲ知ルト共ニ、之ヲ不快不安ニ感ズレバ、其ノ約束ヲ守ラント欲スルガ如キ志必ズ起ルナラン。人皆戦争ノ何物タルヲ知ルモ、其ノ勝敗ニ關シテ何ノ喜憂ヲ感ゼスンバ、戦勝ヲ希フノ欲望生ゼズ、又兩軍ノ殘害ニ對シテ悲哀憫痛ノ感起ラズンバ、戦ヲ未然ニ防ガント欲スル志モ生ゼザルベシト雖モ、其ノ戦争ニ對スル觀念ト共ニ、勝敗ニ關スル喜憂ヲ感ズレバ、戦勝ヲ希ヒ、兩軍ノ殘害ニ對スル悲哀ヲ感ズレバ、之ヲ未然ニ防ガント欲スル志生ズベシ。或ハ過去ノ失言失行ヲ回想シ、此ノ回想ニ伴ウテ慙愧悔恨等ヲ感ズレバ、其ノ罪過ヲ償ハント欲シ、或ハ再ビ此ノ如キ罪過ヲ爲サラント欲スル等ノ志生ズト雖モ、其ノ回想ニ伴ウテ何ノ感ズル所ナクンバ、戒慎セント欲スル志モ生ゼザルベシ。又或ハ未來ノ成功ヲ豫想シ、此ノ豫想ニ伴ウテ快樂ヲ感ズレバ、其ノ事ノ遂グラル、コトヲ欲スル希望生ズルモ、此ノ豫想ニ伴ヒテ何ノ感ズル所ナクンバ、毫モ其ノ事功ニ對スル希望起ラザルベシ。世人動モスレバ曰ハク、此ノ事ニ就キテハ毫モ愉快ヲ感ゼズ、寧ロ苦痛ヲ感ズルモ、唯、爲サルベカラザルヲ知ルガ故ニ、之ヲ爲サント欲スルノミト。學者或ハ之ヲ是認シテ理性ノ要求ト曰フ。然レドモ是レ未ダ深く心理ヲ究メザルノ言ナリ。今唯、之ヲ爲サルベカラザルヲ知ルガ故ニ、之ヲ爲サント欲スルノミナリト曰フモ、若シ之

ヲ爲サズンバ、不義或ハ不利ナルコトヲ認ムルト同時ニ、其ノ認識ニ伴ウテ之ヲ爲サルノ不快或ハ不安ノ感アルガ爲ニ、其ノ事ヲ爲サント欲シテ、其ノ事ヲ爲スニ至レルナリ。故ニ若シ其ノ事ノ當ニ爲サルベカラザルコトタルヲ知ルモ、其ノ之ヲ爲サズシテ毫モ不快不安等ヲ感ゼズンバ、必ズ其ノ事ヲ爲サント欲セザルベシ。凡ソ此ノ如キノ類、是ヲ唯知ルノミニテ感之ニ伴ハズンバ欲望ヲ生ゼズ、其ノ知ルニ随ツテ欲望ノ生ズルハ、先ヅ感ガ其ノ知ニ結合スルニ由ルト謂フ。

夫レ此ノ如ク、欲望興起ノ動機ハ知感ノ結合シタルモノニシテ、知感結合セザル時ハ、決シテ欲望興起セザルナリ。然レドモ主トシテ欲望ヲ興起スルモノハ感ニシテ知ニ非ズ。何トナレバ、知感ノ結合スルヤ、知ハ常ニ感ノ從ト爲リ、感ハ常ニ知ノ主ト爲レルコト、既説ノ如クナルヲ以テナリ。且欲望ハ知感ノ結合ニ因リテ興起スト雖モ、欲望ノ歸著スル所ハ、諸感ノ調和ヲ致サントスルニ在リ。彼ノ知ラザルコトヲ知ラント欲スルガ如キモ、之ヲ知ラザレバ不快不安等ヲ感ズルガ故ニ、之ヲ知リテ其ノ不快ヲ消シ、其ノ不安ヲ離レント欲スルニ在リ。亦以テ欲望ヲ興起スルモノハ感之ガ主ト爲レルコト明ナリ。且不合理ノ欲望ナラザル以上ハ、其ノ欲望ノ満足セラレタル時ハ、諸感輒チ調和シ、其欲望ノ満足セラレサル時ハ、諸感

長ヘニ調和セズ。又縦ヒ其欲望満足セラレザルモ、他ニ感ズル所アリテ、其ノ欲望ヲ廢棄セバ、感懷ニ介然タルモノナキコト、宛モ胃腸ノ洗滌セラレタルガ如キ心地シテ、諸感ノ不調和自ラ消滅スベシ。是レ亦欲望ヲ興起スルモノハ、諸感之ガ主ト爲レルコト益、明ナリ。之ヲ要スルニ、知感結合セザレバ、欲望興起セズ。欲望ノ興起ハ必ズ知感ノ結合ニ原ク。就中主トシテ欲望ヲ興起スルモノハ諸感ニシテ、諸感ノ調和ハ欲望ノ歸着點ナリト謂フベキナリ。

第十二章 欲望ト心術言行

知感結合シテ斯ニ欲望ヲ生ジ、欲望生ジテ斯ニ心術言行ヲ爲ス。而シテ大欲小欲、大望小望皆諸感ノ調和ヲ期シ、大術小術、大行小行、皆欲望ノ満足ヲ期ス。故ニ欲望ト心術言行トハ、常ニ目的ト方法トノ關係ヲ以テ相對立セリ。例ヘバ意ヲ誠ニセント欲シ、心ヲ正シクセント欲シ、乃至身ヲ修メ、家ヲ齊ヘ國ヲ治メ、天下ヲ平ニセント欲スル等ハ、是レ皆欲望ニシテ、心術言行ニ對スル目的トナレルナリ。而シテ其ノ意ヲ誠ニシ、心ヲ正シクスルコトヲ務メ、或ハ身ヲ修メ、家ヲ齊ヘ、國ヲ治メ、天下ヲ平ニスルコトヲ務ムル等ハ是

レ皆心術言行上ノ事ニシテ、其ノ欲望ニ對スル方法トナレルナリ。是レ善事ノミニ於テ然ルニ非ズ。惡事ニ於テモ亦然リ。即チ一切ノ心術言行ハ欲望ヲ満足センガ爲ニ之アルノミ。

第十三章 心術言行ト知感

心術言行ノ目的ナル欲欲ニ千種萬別アリト雖モ、其ノ欲望究竟ノ歸着點ハ唯一ニシテ、專ラ諸感ノ調和ヲ全ウセント欲スルニ在リ。隨ツテ其ノ欲望ヲ満足センガ爲ノ方法タル心術言行モ、歸スル所ハ亦專ラ諸感ノ調和ヲ全ウセントスルニ外ナラザルコト明ナリ。吾人ノ心術言行其ノ宜ヲ得バ、諸感ノ調和ヲ致シ、心術言行其ノ宜ヲ失ヘバ、諸感ノ不調和ヲ起ス所以ノモノ、偶然ニ非ザルナリ。

抑、心術言行ガ其ノ宜ヲ得ルト失フトハ、頗ル知能ノ晦明ニ原因ス。故ニ心術言行ガ適當ニ欲望ヲ満足シテ、能ク諸感ノ調和ヲ致スト否トハ、知能與リテカアリ。且知ルコト明ナラザレバ、其ノ知ルニ隨ツテ感ズルコト必ズ眞ナラズ。又不明ノ知ト不眞ノ感ト結合シテ生ズル所ノ欲望ハ決シテ正シカラズ。而シテ是レ皆諸感ノ調和ヲ害スルニ足ル。而モ其ノ本ハ知ルコト明ナラザルニ在ルヲ以テ、知能ノ晦明ハ欲望究竟ノ歸着點ナル諸感ノ調和ヲ全

ウスルト否トニ關スルコト益々大ナルモノアリ。然レドモ此ノ知能ヲ啓キテ昭明ヲ致シ、及ビ其ノ昭明ヲ保チテ晦暗ニ至ラザラシムルト否トハ、畢竟其ノ人ノ心術言行如何ニ因ルガ故ニ、心術言行ノ用ハ知能ヲ發揮シ、其ノ昭明ニ依リテ以テ諸感ノ調和ヲ全ウセントスルモノナリト謂ツベシ。之ヲ要スルニ、心術言行ニシテ其ノ宜ヲ得ザレバ、諸感決シテ調和セズ。諸感ノ調和ハ心術言行其ノ宜ヲ得ルノ度ニ準ズルナリ。

第十四章 諸感ノ調和

諸感ノ調和ヲ致スト否トハ、職トシテ其ノ人ノ心術言行如何ニ在リト雖モ、然レドモ其ノ調和不調和ノ原因ト爲ルモノハ、獨リ心術言行ノ得失ノミニ在ラズシテ、尙別ニ自然及ビ社會之ガ原因ト爲ル。故ニ諸感ノ調和ハ心術言行其ノ宜ヲ得ルノ度ニ準ズルトハ、自然及ビ社會ノ爲スコト同一ナル時ニ於テ云爾スベキノミ。若シ自然及ビ社會ノ爲スコト相同ジカラザル時ハ、同一ノ心術言行ニテモ、諸感或ハ調和シ、或ハ調和セザルコトアルナリ。何ヲカ自然及ビ社會ガ諸感ノ調和不調和ノ原因トナルト云フ。例ヘバ四時ニ於ケル寒暑ノ順不順、日夜ニ於ケル陰晴ノ過不及、其ノ他天災地妖ノ有無等ニシテ、苟モ諸感ニ影響ス

ルモノハ、是レ皆自然ガ原因ト爲リテ、諸感ヲ調和シ、或ハ調和ヲ破ルナリ。又他人ノ心術言行ノ正邪善惡、是非得失等、及ビ其ノ結果ガ吾人ニ喜怒哀樂、快不快、安不安ヲ感ゼシムルハ、是レ皆社會ガ吾人ニ於ケル諸感ノ調和不調和ノ原因ト爲レルナリ。故ニ自己ノ心術言行其ノ宜ヲ得バ、諸感即チ調和スト雖モ、自然ニシテ節度ヲ失ヒ、社會ニシテ綱常ヲ亂ル時ニ方リテハ、毎ニ自然ト社會トノ爲ニ之ヲ破ラレ、隨ツテ調和スレバ隨ツテ破ラレ、循環シテ殆ド底止スル所ナシ。彼ノ天ヲ怨ミ、人ヲ尤ムル者アルモ、亦故ナキニ非ザルナリ。

然レドモ天ヲ怨ミ、人ヲ尤ムルモ、何ノ益アラシ。是レ癡人ノ狂態ニ過ギズ。何トナレバ自然ニシテ其ノ度ヲ失ヒ、社會ニシテ其ノ常ヲ亂リ、以テ類ニ諸感ノ調和ヲ破ル時ニ於テモ、之ニ對シテ其ノ調和ヲ全ウスル方法ハ、亦唯自ら己ノ心術言行ヲシテ、益、其ノ宜ヲ得シムルノ一方アルノミナレバナリ。眞寔眞傑ガ人事ヲ盡シテ天命ヲ待チ、斃レテ後ニ止マントスル所以ハ、蓋シ此ニ在リ。人苟モ之ヲ知ラバ、縦ヒ四面八方ヨリ諸感不調和ノ事一身ニ廣至輻輳シテ、不快不安、悲哀憤怒ノ中ニ葬ラレントスルモ、尙其ノ當ニ爲スベキヲ爲シテ、他ヲ尤メザルベシ。彼ノ動モスレバ天ヲ怨ミ、人ヲ尤メテ、己ノ爲スベキコトヲ爲サザル

者ハ、畢竟之ヲ知ラザルニ由ル。「ソクラテス」曰ハク、人ハ知レバ必ズ行フト。是ヲ以テナリ。然レドモ其ノ眞味ハ之ヲ行ヒタル後ニ非ザレバ知ルヲ得ズ。故ニ陽明曰ハク、行ハザレバ則チ知レズト、二子賢ナリト雖モ、知感欲望心術言行ノ相互關係ヲ明ニ自覺セルニ非ズンバ、何ヲ以テ其ノ兩端ナル知行ノ二事ヲ以テ之ヲ説クコト、此ノ如ク能ク盡サンヤ。

第十五章 諸感調和ノ要素

何ヲカ諸感調和ノ要素ト爲ス。社會各人悉ク皆健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ備具スル是ナリ。但シ健康ハ無病ヲ以テ單位トシ、長壽ハ常命ヲ以テ單位トシ、富裕ハ恒産ヲ以テ單位トシ、光榮ハ侮辱セラレザルヲ以テ單位トシ、而シテ自由ハ行動云爲ヲ妨害セラレザルヲ以テ單位トシテ之ヲ稱ス。

何ニ由リテ社會各人ガ此ノ五福ヲ備具スルヲ以テ諸感調和ノ要素ト爲スカ。他ナシ。人ニシテ諸感ノ調和ヲ失フハ、唯、自己又ハ他人ノ健康長壽富裕光榮自由ヲ毀傷シ、或ハ毀傷セントスル恐アル時ニ限リテ、之ヲ認ムルノミナレバナリ。且試ニ思ヘ、一身ニ此ノ五福具リ、一家ニモ此ノ五福具リ、親戚朋友鄉黨邦國ノ人、乃至他國人ニモ悉ク皆此ノ五福具リ、

而シテ毫モ相毀傷スル恐ナキニ於テハ、如何ニ諸感ノ不調和ヲ感ゼント欲スルモ感ズルコト能ハザルベシ。是レ諸感調和ノ要素ガ此ノ五福ナルニ由ラズンバアラザルナリ。既説ノ如ク、一切ノ欲望究竟ノ歸着點ハ、諸感ノ調和ヲ全ウセント欲スルニ在リト雖モ、其ノ諸感調和ノ要素ハ此ノ五福ナルガ故ニ、欲望ハ此ノ五福ヲ致シテ、以テ諸感ヲ調和セント欲スルナリ。随ツテ欲望ヲ満足センガ爲ニ、其ノ方法トナレル心術言行モ、亦此ノ五福ヲ致シテ、以テ諸感ノ調和ヲ全ウセントスルモノナルコト明ナリ。故ニ所謂心術言行ノ得失トハ、畢竟此ノ五福ヲ致サンガ爲ニ、其ノ宜ヲ得タルカ失ヘルカト謂フニ止ル。精神作用ノ心術言行ニ於ケルヤ、複雑ナリト雖モ、心術言行ノ要點ハ、此ノ諸感調和ノ要素タル社會各人全體ノ五福ヲ計ルニ在リ。是ヲ以テ良教ハ必ズ之ヲ期シ、善政モ必ズ之ヲ期シ、正刑モ必ズ之ヲ期シ、義戰モ必ズ之ヲ期シ、農工商賈、其ノ他業ノ何タルヲ問ハズ、苟モ從事セル心術言行ニシテ正善ト稱スベキコトハ、其ノ期スル所皆是ナラザルハナシ。古來聖賢君子ノ爲シタルコトニテ、偉事大業多シト雖モ、亦一ニ之ヲ全ウセントシタルノミ。世人或ハ荒唐無稽ノ筆舌ヲ弄シ、此ノ要素ヲ度外ニシタル教ヲ施シテ、社會ニ安心快樂ヲ與ヘントスル者アリ。是レ喫啡啞ヲ注射シテ一時ノ苦痛ヲ忘レシメ、鴉片煙ヲ喫飲セシメ

テ半日ノ爽快ヲ感ゼシメントスルガ如キ詭教ナラザルハナシ。要ハ精神ヲ痲痺スルモノト謂フベキナリ。孔子曰ハク、苛政ハ虎ヨリモ猛シト。余以爲ラク、詭教ハ苛政ヨリモ害アリト。然レドモ今ヤ之ヲ信シテ、全ク此ノ要素ヲ度外視スル者少シ。而シテ其ノ之ヲ信ズル者ハ、概ネ皆其ノ未ダ之ヲ信ゼザル前ヨリ、自ラ此ノ要素ヲ度外視シ、或ハ輕視シテ、其ノ因果ノ報、苦痛ノ極ニ堪ヘズ、迷ヒテ遂ニ之ヲ信ズルニ至レル者ナルガ故ニ、其ノ教ヲ責メンヨリハ、寧ロ之ヲ信ズルニ至ル所以ヲ警ムベキナリ。

又世人或ハ唯、自己ノ健康長壽富裕光榮自由ニシテ完全ナランニハ、諸感即チ調和スルナラント思ヘル者アリ。然レドモ苟モ精神固有ノ性質ヲ全ウシテ長育シタル者ハ、是レ斷ジテ能ハザルコトナリ。既説ノ如ク、個人ノ精神ト社會ノ精神トハ、一體ニシテ二ナラザルヲ以テ、自己ノ禍福ニ就キテ快不快、安不安等ヲ感ズル精神ハ、又他人ガ福祉ヲ全ウシ、或ハ全ウセントスル事アルヲ見ル時ハ、必ズ快樂安泰ヲ感ジ、其ノ福祉ヲ毀損シ、或ハ毀損セントスル事アルヲ見ル時ハ、必ズ不快不安等ヲ感ズ。所謂同情是ナリ。夫ノ不正不善ハ社會ノ福祉ヲ害スルモノナルガ故ニ、其ノ不正不善ニ對シテ、此ノ同情興起セズ、寧ロ反情ノ發生スルハ當然ナルモ、正善ニ對シテ、同情興起セズ、將タ反情ノ發生スルガ如キハ、

幼稚ニシテ精神未ダ開ケズ、或ハ身體徒ニ成長シテ精神開ケズ、空シク凋落スル者ニ限ルナリ。是ヲ以テ精神ノ不開者ニ非ザル以上ハ、社會各人ニ其ノ福祉備具セルヲ認メズンバ、縦ヒ自己一身ニ福祉ヲ備具スルモ、決シテ諸感ノ調和ヲ全ウスルコト能ハザルベシ。亦以テ人ニ於ケル諸感調和ノ要素ガ、社會各人ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福タルコト知ルベキナリ。

然レドモ一身一家ニスラ、完全ニ此ノ五福ヲ備具スルコト極メテ難シ。國家乃至社會各人全體ニ此ノ五福ノ備具センコトヲ望ムハ、殆ド不可能ノ要求ナルニ似タリ。随ツテ何人モ長ヘニ諸感調和シテ不調和ナカランコトヲ欲スルモ、亦到底望ムベキコトニ非ズト謂フベキカ。抑、人ノ精神ハ必ズ是ヲ以テ人生究極ノ目的、即チ理想ト爲サルベカラザルガ如ク組織セラレタルハ何ゾヤ。是レ漸々其ノ理想ニ近ヅキ、遂ニハ他日何時カ必ず完全ニ實現セラルベキモノナラザルヲ得ンヤ。而シテ此ノ理想ヲ實現スルモノ、即チ人生究極ノ目的ヲ達スル方法トナルベキモノハ、唯、社會各人ノ心術言行其ノ宜ヲ得ルニ在ルノミ。吾人ノ心術言行其ノ宜ヲ得タル時ハ、其ノ一事一事毎ニ諸感隨ツテ調和スルモ、畢竟之ニ職由ス。然レバ則チ一ハ未來ニ於テ、子孫ヲシテ長ヘニ諸感ノ調和ヲ保チ得ベキ完全圓滿ナル社會

ヲ實現セシメンガ爲ノ基礎トシテ、又一ハ現在ニ於テ、一事一事ニ就キテ、自己ノ諸感不調和ナルヲバ之ヲ調和シ、其ノ調和ナルヲバ之ヲ保有センガ爲ノ方法トシテ、此ノ諸感調和ノ要素タル社會ノ福祉ヲ計リ、心術言行ヲシテ其ノ宜ヲ得シメ、他念ナキ人コソ、始メテ人事ヲ盡シ、天命ヲ待ツ者ト謂フベケレ。

第十六章 諸感調和ノ要素ト倫理道德

社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福備具ハ、個人ガ社會ニ在リテ諸感ノ調和ヲ保全スルニ必須ナル要素タルコト既說ノ如シ。而シテ此ノ五福ハ常ニ相藉リテ暫クモ離ルベカラザル關係ヲ有ス。是レ知ラサルベカラズ。

今個人ニ就キテ之ヲ觀ルニ、健康ノ者必ズシモ長壽ナラザレドモ、健康ナラザレバ長壽期シ難シ。健康長壽ノ者必ズシモ富裕ナラザレドモ、健康長壽ナラザレバ富裕致シ難シ。健康長壽富裕ノ者必ズシモ光榮アラザレドモ、健康長壽富裕ナラザレバ光榮全ウシ難シ。健康長壽富裕光榮ノ者必ズシモ自由ナラザレドモ、健康長壽富裕ニシテ光榮アル者ニ非ザレバ自由ノ範圍狭シ。又能ク長壽富裕光榮自由ヲ保テル者必ズシモ健康ナラズト雖モ、然レ

ドモ能ク長壽富裕光榮自由ヲ保ツ者ニ非ザレバ健康ハ決シテ保チ易カラズ。能ク富裕光榮自由健康ヲ保テル者必ズシモ長壽ナラズト雖モ、然レドモ能ク富裕光榮自由健康ヲ保ツ者ニ非ザレバ長壽モ亦保チ易カラズ。能ク光榮自由健康長壽ヲ保テル者必ズシモ富裕ナラズト雖モ、然レドモ光榮自由健康長壽ヲ保ツ者ニ非ザレバ富裕モ亦保チ易カラズ。能ク自由健康長壽富裕ヲ保テル者必ズシモ光榮アラズト雖モ、然レドモ能ク自由健康長壽富裕ヲ保ツ者ニ非ザレバ光榮モ亦保チ易カラズ。此ノ故ニ五福其ノ一ヲ損スレバ、并ニ他ノ四福ニ害アリ。五福其ノ一ヲ益スレバ、并ニ他ノ四福ニ利アリ。是ヲ以テ心術言行其ノ宜ヲ得テ、病苦アル所以ヲ離レ、善ク其ノ健康ヲ保ツハ、亦善ク長壽富裕光榮自由ヲ保ツ所以ナリ。心術言行其ノ宜ヲ得テ、死苦アル所以ヲ離レ、善ク其ノ長壽ヲ期スルハ、亦善ク富裕光榮自由健康ヲ期スル所以ナリ。心術言行其ノ宜ヲ得テ、貧苦アル所以ヲ離レ、善ク其ノ富裕ヲ計ルハ、亦善ク光榮自由健康長壽ヲ計ル所以ナリ。心術言行其ノ宜ヲ得テ、辱苦アル所以ヲ離レ、善ク其ノ光榮ヲ致スハ、亦善ク自由健康長壽富裕ヲ致ス所以ナリ。心術言行其ノ宜ヲ得テ、不自由苦アリ所以ヲ離レ、善ク其ノ自由ヲ全ウスルハ、亦善ク健康長壽富裕光榮ヲ全ウスル所以ナリ。

是レ個人ニ於テ獨リ然ルノミナラズ。社會ニ於テモ亦然リ。社會ノ一員心術言行其ノ宜ヲ得テ、善ク其ノ健康ヲ保ツコトヲ爲スト否トハ、社會ノ各人ガ其ノ健康ヲ保タントスル難易ニ影響スルコト大ナルノミナラズ、其ノ長壽富裕光榮自由ヲ致サントスル難易ニモ關スルコト大ナリ。社會ノ一員心術言行其ノ宜ヲ得テ、善ク其ノ富裕ヲ計ルコトヲ爲スト否トハ、社會ノ各人ガ其ノ富裕ヲ計ラントスル難易ニ影響スルコト大ナルノミナラズ、其ノ光榮自由健康長壽ヲ致サントスル難易ニモ關スルコト大ナリ。社會ノ一員心術言行其ノ宜ヲ得テ、善ク其ノ光榮ヲ増スコトヲ爲スト否トハ、社會ノ各人ガ其ノ光榮ヲ増サントスル難易ニ影響スルコト大ナルノミナラズ、其ノ自由健康長壽富裕ヲ致サントスル難易ニモ關スルコト大ナリ。社會ノ一員心術言行其ノ宜ヲ得テ、善ク其ノ自由ヲ得ルコトヲ爲スト否トハ、社會ノ各人ガ其ノ自由ヲ得ントスル難易ニ影響スルコト大ナルノミナラズ、其ノ健康長壽富裕光榮ヲ致サントスル難易ニモ關スルコト大ナリ。此ノ故ニ諸感調和ノ要素タル社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ

五福備具ニ利アリテ害ナキコトヲ爲サントスルニハ、必ず自己ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福備具ニ利アリテ害ナキコトヲ爲シ、五福其ノ一ヲモ損セザルヲ要ス。傳ニ曰ハク自ニ天子以至於庶人、壹是皆以修身爲本ト。是レ倫理道德ノ樞機ナリ。

然レドモ倫理ニ率ヒ、道德ヲ全ウスルコトハ、必ずシモ自己ノ福祉トナラズ。時ニ或ハ之ガ爲ニ反テ自己ノ健康ヲ害シ、或ハ天壽ヲ失ヒテ早世シ、或ハ貧困ニ陥リテ凍餓ニ苦ミ、或ハ世人ニ厭嫌セラレテ恥辱ヲ被リ、或ハ衆人ニ妨害セラレテ屈伏スルニ至ルコトアリ。何トナレバ、道德ハ自己ノ福祉ヲ忽ニスルモノトニ非ズト雖モ、唯、能ク社會ノ福祉ニ一致スルコトヲ爲シテ、以テ自己ノ福祉ヲ計ラントスルモノナルガ故ニ、若シ自己ノ福祉ヲ犠牲ニ供セズンバ、社會ノ福祉ヲ致スコト能ハザル時ニ際シテハ、復自己ノ利害ヲ顧ミザルモノニシテ、或ハ之ガ爲ニ危險ヲ冒シテ避ケズ、艱難ニ當リテ退カズ、或ハ往々他人ノ不道德的心術言行ニ反對シテ敵戰シ、嫌忌怨惡、罵詈譏誣、陷罪欺罔、脅喝排擠、追擊迫害一身ニ膺至シテ、其ノ殃禍ヲ釀成シ、一家ヲシテ塗炭ニ苦マシムト雖モ、尙止マザルコトアルモノナレバナリ。

司馬遷曰ハク、或云、天道無親、常與善人。若伯夷叔齊者、可謂善人者。非乎。積仁

潔行如此、而餓死。且七十子之徒、仲尼獨薦顏淵、爲好學。然回也厩空、糶糠不厭、而卒蚤夭。天之報施善人、其何如哉。盜跖日殺不辜、肝人之肉、暴戾恣睢、聚黨數千人、橫行天下、竟以壽終。是遵何德哉。此其尤大彰明較著者也。若至近世、操行不軌、專犯忌諱、而終身逸樂、富厚累世不絕。或擇地而蹈之、時然後出言、行不由徑、非公正不發憤、而遇禍災者、不可勝數。余甚惑焉。儻所謂天道是耶。非耶。ト是レ何ゾ天道ノ是非ヲ問ハン。道德的心術言行ハ不道德的心術言行ニ反對スルガ故ニ、道德ノ衰ヘテ不道德ノ盛ナル社會ニ於テハ、積善ノ家ニ或ハ反テ餘殃アリ、積惡ノ家ニ或ハ反テ餘慶アルコトハ往々免レザルコトニシテ、復疑フベキ所ナシ。然レドモ此ノ如キ社會ニ在リテハ、何人モ益諸感ノ調和ヲ失ヒテ互ニ相苦マン。所謂專犯忌諱、而終身逸樂ノ如キハ、唯、其ノ外見ノミ。何トナレバ、惡ハ惡ト戰ヒ、又善ト戰ヒ、善モ亦惡ト戰ヒテ、互ニ其ノ戰ニ惱ムノミナラズ、縦ヒ常ニ多ク邪惡ヲ爲ス者ト雖モ、他人ガ己ニ對シテ邪ヲ行ヒ、惡ヲ施スコトハ、喜バズ樂シマズ、不快ニ感シ不安ニ感シテ措クコト能ハズ、而シテ善人ハ且社會ノ爲ニ之ヲ憤リ、之ヲ哀レミ、之ヲ愛ヒ、之ヲ恐レテ止ムコト能ハザレバナリ。

孔子曰ハク、志士仁人無求生以害仁。有殺身以成仁ト。是レ誰カ然ラシムル。其ノ人

ノ精神自ラ之ヲ爲スナリト雖モ、其ヲシテ自ラ之ヲ爲スニ至ラシムル者ハ誰ゾ。即チ社會ナリ。而シテ社會ノ道德是ニ由リテ維持セラレ、社會ノ殃禍是ニ由リテ除去セラレ、社會ノ福祉是ニ由リテ保守セラレ、増加セラレ、而シテ社會其ノ德澤ニ浴ス。是志士仁人ガ自己ノ福祉ヲ犧牲ニ供スルモ、尙自ラ慰ムル所以ナリト雖モ、社會各人ガ自己ノ福祉ヲ以テ自ラ樂ムガ如ク、志士仁人モ亦自己ノ福祉ヲ以テ自ラ樂ムモノナルコトハ相同シ。而モ直接ニ間接ニ將タ明々ニ暗々ニ、其ノ福祉ヲ社會ノ犧牲ニ供シテ辭セザル所以ヲ思ハ、何人モ不道德ナル心術言行ヲ以テ、社會ニ立ツニ忍ビザルベシ。若シ社會各人ニシテ一朝沛然トシテ此ノ忍ビザル心ヲ興起セバ、今日ノ社會ハ昨日ノ社會ト、一宵ノ間ニ醜美相距ルコト、天地モ雷ナラザルニ至リテ、自他ノ道德ト自他ノ福祉ト共ニ、益々相全ウシ易クシテ諸感ノ調和長ヘニ相保ツコト復難カラザルベシ。嗚呼一夕ノ靜思感發ハ、百年ノ問學研究ノ基礎ナリ。

第二篇 道德思想ノ基礎

第一章 倫理ノ定義

倫理トハ、之ヲ衍言セバ人倫ノ理法ト曰フニ同シ。故ニ倫理ノ定義ヲ立ツルニハ、先ヅ人倫ヲ説キ、理法ヲ説キ、而シテ後ニ兩者ヲ合セテ、人倫ノ理法ヲ説クベキナリ。

其ノ一人倫 世界人類ハ皆同胞ナリ。複雑ナル連鎖的關係ヲ以テ、一大團體ヲ爲シテ生活セリ。此ノ團體ヲ社會ト曰ヒ、此ノ關係ヲ人倫ト曰ヒ、君臣父子兄弟夫婦朋友ノ五倫ハ、其ノ關係最モ重大ナルガ故ニ、特ニ之ヲ人ノ大倫ト曰フ。

其ノ二理法、或結果ノ前ニ溯リテ、其ノ原因ヲ究ムレバ、必ズ其ノ結果ヨリ其ノ原因ニ至ルマデノ間ニ、條目ノ見ルベキモノアリ。又或原因ノ後ヲ追フテ、其ノ結果ヲ尋ヌレバ、必ズ其ノ原因ヨリ其ノ結果ニ至ルマデノ間ニ、條目ノ見ルベキモノアリ。而シテ幾千萬遍其ノ事物ヲ反覆スルモ、同一ノ條目ノ結果ニハ必ズ同一ノ原因アリ。同一ノ條目ノ原因ニハ必ズ同一ノ結果アリ。此ノ條目之ヲ理法ト曰フ。

其ノ三人倫ノ理法、夫レ人倫トハ、之ヲ要スルニ社會ニ於ケル各人相互ノ關係ヲ曰ヒ、理法トハ、或原因ヨリ其ノ結果ニ至ルマデノ間ニ於ケル條目ヲ曰フ。故ニ人倫ノ理法ト謂フベキモノハ、社會各人ノ關係ヲ全ウスルニ必要ナル事項ノ原因ヨリ、其ノ結果ニ至ルマデノ間ニ於ケル條目ナリ。此ノ人倫ノ理法之ヲ約シテ倫理ト曰フ。

抑、社會各人ノ關係ヲ全ウスルニ必要ナル事項ハ、社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ全ウスルニ與リテカアル所ノ心術言行ニ外ナラズ。故ニ其ノ原因ヨリ其ノ結果ヲ生ズルニ至ルマデノ條目、即チ倫理ハ、社會全體ノ福祉トナルコトヲ爲サンガ爲ニ、人ノ心術言行ヲシテ必ズ從ハシメザルベカラザル條目ナリ。而シテ此ノ條目ハ人ノ作造シタルモノニ非ズシテ、社會アルト同時ニ、天然ニ之アリ。是レ所謂有レ物有レ則ナリ。且人ノ社會ニ在ルヤ、無能力者ニ非ザル以上ハ、何人モ此ノ條目ヲ守ラズシテ可ナリト言ヒ得ベキ理由ヲ有スル者ナシ。隨ツテ此ノ條目ハ、又之ヲ人ノ心術言行ニ對スル天然ノ規範的法則ト謂フモ不可ナシ。是ニ據リテ倫理ノ定義ヲ立ツルコト左ノ如シ。

倫理ハ、人ノ心術言行ニ對スル天然ノ規範的法則ニシテ、人ヲシテ之ニ準ヒ、社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ致サシメンガ爲ニ、存在セルモノニシテ、人ノ當

ニ實踐スベキ條目ナリ。

辯難

難者曰ハク、倫理ハ道德的理想ヲ標準トシテ、人ノ設立シタルモノナルガ故ニ、無論人造法ニシテ、天然則ニ非ズトハ、倫理學者ノ多數說ナリ。子何ゾ多數說ニ反スルト。曰ハク、多數說必ズ是ナルカ。少數說必ズ非ナルカ。蓋シ說者ノ多少ハ論ズルニ足ラズ。次ニ理想ヲ標準トシテ倫理ヲ設立スト曰フハ、猶倫理ナリト信ズル所、即チ倫理ナリト曰フニ異ナラズ。今倫理ヲ實踐スルニハ、其ノ倫理ナリト信ズル所ヲ實踐スル外ニ方法ナシト雖モ、所信必ズシモ眞實ナラズ。且縦ヒ茲ニ非常ナル聰明ノ人アリテ、其ノ所信ハ悉ク倫理ニ一致スルモ、倫理ト所信トハ別ナリ。而ルニ所信即チ倫理ナリト曰フガ如キハ、妄モ亦甚ダシ。蓋シ理想ヲ標準トシテ、倫理ヲ設立ストノ言ヲ爲ス者ノ意ニ於テモ、所信即チ倫理ナリトスルモノナラザルベキモ、其ノ言ニ從ヘバ、推理上此ニ歸著スルヲ如何セン。故ニ倫理ヲ以テ理想ヲ標準トシテ人ノ設立シタルモノナリト曰フハ、牽強附會ナリ。

難者又曰ハク、縦ヒ倫理ガ天然則ナリトスルモ、之ヲ認識スルニハ、必ズ理想ヲ以テ標準ト爲サルベカラズ。而ルニ子何ゾ茲ニ理想ノ内容ヲ提示セザル。曰ハク、然リ倫理ヲ認

識スルニハ理想ヲ標準トシテ之ヲ視ルヲ要ス。然レドモ理想ノ内容ハ第一篇ニ於テ之ヲ盡言セリ。今復茲ニ提示スルヲ要セズ。苟モ既説ノ如ク、諸感ノ調和ハ實ニ人生究極ノ目的、社會ノ福祉ハ實ニ諸感調和ノ要素タルコトヲ知ラバ、理想自ラ其ノ所ニ存立セザルベカラズ。曰ハク世人往々其ノ理想トスル所ヲ異ニス。其ノ異ル所ノ理想ヲ標準トシテ倫理ヲ探求セバ、諸人ノ倫理ナリト信認スル所亦異同ナキヲ得ズ。何人ノ理想ヲ眞實トシテ、其ノ異同アル所ヲ正スベキカ。曰ハク、果シテ理想ト稱スルニ足ルベキモノハ、必ズ實現シ得ラレ、且社會ノ福祉ニ一致スベキモノニシテ、若シ然ラズンバ、空想ニ非ザレバ、妄想ナリ。故ニ如何ナル理想ヲ標準トスルモ、其ノ結果ハ社會ノ福祉ヲ標準トスルト相同シ。而シテ倫理ハ社會ノ福祉ヲ計ランガ爲ニ實踐スベキ條目ナルガ故ニ、世人ノ理想トスル所ニ或ハ相異ルコトアリト雖モ、何ゾ之ガ爲ニ倫理ノ認識ニ異同ヲ生ゼン。

第二章 倫理ノ八大別

倫理ヲ大別スレバ、常則四種、變則四種ノ八大別ト爲ル

常則四種

- 一、他人ノ健康長壽富裕光榮自由ノ害トナルコトヲ爲サルベキコト。
- 二、自己ノ健康長壽富裕光榮自由ノ害トナルコトヲ爲サルベキコト。
- 三、自己ノ健康長壽富裕光榮自由ノ利トナルコトヲ爲スベキコト。
- 四、他人ノ健康長壽富裕光榮自由ノ利トナルコトヲ爲スベキコト。

變則四種

- 一、他人ノ害トナルモ、社會全體ノ利トナルコトハ爲スベキコト。
 - 二、自己ノ害トナルモ、社會全體ノ利トナルコトハ爲スベキコト。
 - 三、自己ノ利トナルモ、社會全體ノ害トナルコトハ爲サルベキコト。
 - 四、他人ノ利トナルモ、社會全體ノ害トナルコトハ爲サルベキコト。
- 右常則ハ辯ヲ要セズ。變則ニ就キテハ一言セザルヲ得ズ。今眼前或一事ヲ爲セバ、自己又ハ自己ガ親シム者ノ健康保ツベク、長壽保ツベク、富裕光榮自由亦保ツベシトスルモ、而モ或ハ此ノ事決シテ爲スベキニ非ズトシテ、堅ク忍ビテ必ズ爲サルガ如キ場合アルハ何ノ爲ゾ。且父母ヲモ不忠ナレバ之ヲ制シ、兄弟ヲモ不孝ナレバ之ヲ抑へ、生徒ヲモ非行甚ダシケレバ退校ヲ命ジ、子女ヲモ不良極レバ在家ヲ禁ジ、或ハ人ヲ監獄ニ嗔咽セシムルハ

何ノ爲ゾ。或ハ民ヲ戰場ニ横死セシムルハ何ノ爲ゾ。固ヨリ自己モ溝壑ニ轉ズルヲ忘レズ、首足ヲ異ニシ馬革ニ褻マル、モ、之ヲ甘ンシテ敢テ辭セザルコトアルハ何ノ爲ゾ。苟モ能ク此ノ問題ヲ解決セバ、倫理ニハ此ノ如キ悲惨ヲモ極メザルベカラザル變則アルコト知ルキナリ。是レ倫理ガ人ニ酷ナルニ非ズシテ、人ガ倫理ノ常則ヲ守ラザルガ故ニ、倫理ニ此ノ變則アルニ至レルナリ噫。

第三章 倫理ノ二大目

倫理ニハ身分ノ異同ニ由リテ千差萬別アリ。例ヘバ親ニ對シテハ子トシテ爲スベキ本分、子ニ對シテハ親トシテ爲スベキ本分ト曰フガ如キ是ナリ。但シ親ニ男女老壯、貧富貴賤ノ相異アリ。貧シキモ貴キアリ。富メルモ賤シキアリ。貧賤ナルアリ。富貴ナルアリ。疾病ノ者アリ。健康ノ者アリ。子女多キ者アリ。子女少キ者アリ。男子多キアリ。女子多キアリ。其ノ境遇ノ異同、事狀ノ變移枚擧ニ逸アラズ。是ヲ以テ等シク親子ナリト雖モ、其ノ父母ニ對シテ子女ノ爲スベキ本分モ、其ノ子女ニ對シテ父母ノ爲スベキ本分モ、殆ド各人各時之ヲ異ニス。又人ノ子ニモ男女強弱、能不能、材不材、少丁壯老等ノ差別アリ。内ニ居ル

者アリ。内ニ居ラザル者アリ。其ノ職業ニ公職アリ。私業アリ。私業ニ千種萬類アリ。公職ニモ千種萬類アリ。忙シキ時アリ。閑ナル時アリ。其ノ他其ノ身ヲ圍繞セル社會トノ關係ハ、到底筆舌ニ盡スベカラザル相異アリ。是ヲ以テ等シク親子ナリト雖モ、亦以テ各人各時其ノ親子ノ本分ヲ異ニス。民ノ國ニ對スル、臣ノ君ニ對スル、師弟朋友ノ相對スル、其ノ他如何ナル人が如何ナル人ニ對スルモ、其ノ身分ノ異同ニ由リテ、其ノ爲スベキ本分ノ相異アラザルハナシ。之ヲ倫理ノ千差萬別トス。而シテ此ノ本分、即チ人々各自ノ分限ヲ大別シテ、義務權利ト曰フ。故ニ義務權利ハ倫理ノ二大目ナリ。左ニ義務ト權利トノ語意、義務ト權利トノ定義、義務ト權利トノ先後、義務ト權利トノ歸納ノ四段ニ分チテ之ヲ述ベ、以テ倫理ノ内容ヲ細説セン。

其ノ一、義務ト權利トノ語意。從來義務權利ノ語ヲ廣狹ノ兩意ニ用フ。廣意ノ語ハ倫理上ヨリ稱スル所ノ義務權利ニシテ、狹意ノ語ハ法律上ヨリ稱スル所ノ義務權利ナリ。而シテ倫理上ヨリ稱スル所ノ義務權利ハ、吾人ガ社會ニ於ケル心術言行ノ全體ヲ規正スベキ準則ナリト雖モ、法律上ヨリ稱スル所ノ義務權利ハ、倫理上ヨリ稱スル義務權利ノ或部分ヲ制法者ニ由リテ認定セラレタルモノニシテ、倫理上ヨリ稱スル義務權利ノ一部分ナルベキ

モノナレバ、吾人ガ社會ニ於ケル心術言行ノ或事項ヲ限リテ、之ヲ規正スベキ準則タルニ止マル故ニ、法律上ノ義務權利ヲ全ウシタリトテ、未ダ人間ノ義務權利ヲ全ウシタルモノト謂フベカラズ。今茲ニ稱スル所ノ義務權利ハ、無論倫理上ヨリ稱スル廣意ノ義務權利ニシテ、法律上ヨリ稱スル狹意ノ義務權利ハ自ラ其中ニ包含ス。

其ノ二義務ト權利トノ定義。小圈ヲ大圈中ニ畫キテ、法律ハ倫理中ニ屬スベキモノナルコトヲ示シテ論ズルコト、法律ノ内容ハ權利義務ナリトシテ論ズルコト、ハ、動カザル定説ナリ。然レドモ法律ノ内容ガ權利義務ナルノミナラズ、倫理ノ内容モ權利義務ナルノミ。而シテ法律ハ倫理ノ圈中ニ在ルベキモノナルガ故ニ、法律上ヨリ稱スル義務權利モ、倫理上ヨリ稱スル義務權利モ、都ベテ義務權利ノ定義ハ、全然倫理ノ定義ニ一致スルモノナラザルヲ得ズ。故ニ從來義務權利ノ定義ヲ下セルモノ多シト雖モ、要スルニ左ノ如クナルニ外ナラズ。是レ倫理ヲ二分シテ視タルモノト謂ツベシ。

一、義務ハ社會各人ノ福祉ヲ増進シ、及ビ之ヲ侵害セザランガ爲ニ、履行スベキ人人各自ノ分限ナリ。

二、權利ハ義務者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムルコトヲ爲スベキ人人各自ノ分限ナリ。

倫理ハ社會各人ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ全ウセンガ爲ニ、實踐スベキ條目ニシテ所謂人ノ本分、即チ人人各自ノ分限ナルモノタルコトハ、既ニ詳説セルガ如シ。今此ノ義務權利ノ定義ヲ以テ、之ニ對照スルニ、兩者全ク相一致スルヲ認ム。即チ倫理ノ外ニ權義ナク、權義ノ外ニ倫理ナク、畢竟義務ト權利トハ、倫理ヲ二分シテ視タル所ノ名稱ナルコト知ルベキナリ。

其ノ三、義務ト權利トノ先後。先ヅ權利ナルモノアリテ後ニ義務ナルモノ生ジタルカ。先ヅ義務ナルモノアリテ後ニ權利ナルモノ出デタルカ。由來普通一般ノ説ニ於テハ、初ヨリ兩者相對立セルモノト爲シ、權利アル所ニ義務アリ。義務アル所ニ權利アリ。權利ナケレバ義務ナク、義務ナケレバ權利ナク、權利義務ハ同一物ノ表裏ニシテ、未ダ會テ先後アラズトセリ。然レドモ人或ハ曰ハク、權利先ニシテ義務後ナリト。又或ハ曰ハク、義務先ニシテ權利後ナリト。三者孰カ其ノ當ヲ得タル。

惟フニ義務權利ノ對立トハ、甲ノ權利ニ對シテ乙ノ義務アリ、丙ノ義務ニ對シテ丁ノ權利アリト曰フガ如ク、必ず相對者アリトノ謂ナリ。然レドモ權利ハ義務者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムルコトヲ爲スベキ分限ナルガ故ニ、權利者アル所ニハ、必ず之ニ對スル義務者

アルベシト雖モ、義務ハ必ズシモ權利者ニ對シテ履行スベキ所ノモノ、ミナラザルガ故ニ、義務者アリトテ、何ゾ之ニ對スル權利者アルニ限ランヤ。例ヘバ、釋迦基督孔子各、其ノ教ヲ弘ムルコトヲ務メタルハ、皆能ク其ノ義務ヲ盡シタルモノナリト雖モ、社會何人モ此ノ三聖ニ對シテ、此ノ如ク其ノ教ヲ弘ムルコトヲ爲サシムベキ權利ヲ有スル者アラザリキ。其ノ他古今ノ大事中ニモ、小事中ニモ、之ニ類スルモノ枚舉ニ遑アラズ。以テ義務者アリトテ、必ズシモ之ニ對スル權利者アルニ限ラザルヲ知ルベキナリ。蓋シ法律ノ如キハ、權利義務必ズ相對立セザルベカラズ。是レ法律ノ性質上兩者相對立セルモノニ非ザレバ、合理的法律トシテ成立セザレバナリ。故ニ法律上ノ見地ヨリ之ヲ視レバ、權利義務ハ同一物ノ表裏ニシテ先後ナシト曰フモ可ナリト雖モ、倫理ノ一部分タルベキ法律ニ於テ此ノ如クナルガ故ニ、倫理ノ全體ニ於テモ亦悉ク此ノ如クナルベシトスルハ、不合理ノ斷定ナリ。之ヲ要スルニ、倫理ハ之ヲ分テバ義務權利トナル。而シテ權利ニハ必ズ之ニ對スル義務アリト雖モ、義務ニハ之ニ對スル權利アルモノト、權利ナキモノトアリ。故ニ倫理上ヨリ之ヲ視レバ、權利義務ハ一概ニ相對立セリト謂フベカラズ。隨ツテ又未ダ兩者ニ先後ナシト謂フベカラズ。而シテ既ニ兩者ニ先後ナシト謂フベカラザレバ、權利先ナルカ義務先ナル

カ。兩者孰レカ先ナラザルヲ得ズ。

權利先ノ說ヲ爲ス者曰ハク、人ノ生ル、ヤ、其ノ初ニ於テハ無能力ナルガ爲ニ、何ノ義務ヲモ有セズト雖モ、他ヨリ侵害セラレザルベキ權利ト、保護セラレルベキ權利トヲ有ス。故ニ權利ハ先ニシテ義務ハ後ナリト。然レドモ何ノ義務ヲモ有セザルガ如キ無能力者ハ、亦何ノ權利ヲモ有スベキ理由ナシ。但シ社會ニハ如何ナル無能力者ニ對スルモ、何人モ之ヲ侵害スベカラズ、及ビ之ヲ保護スベキ義務ト、又他ヲシテ之ヲ侵害セザラシムベク、及ビ之ヲ保護セシムベキ權利トアリ。故ニ無能力者ノ侵害セラレズ、及ビ能ク保護セラル、ハ無能力者ノ權利ナルニ非ズシテ、全く社會ニ權利義務ノ行ハル、恩惠ナリ。換言セバ、社會ニ倫理ノ實踐セラル、徳澤ナリ。之ニ反シテ法律ガ或範圍ニ於テ無能力者ヲ以テ權利ノ主體ト爲セルガ如キハ、蓋シ立法者ガ此ノ無能力者ノ保障ヲ認定スルガ爲ノ便宜ヲ取リタルノ結果ナルノミ。而シテ既ニ之ヲ權利ノ主體ト爲セル以上ハ、又或範圍ニ於テ必ズ義務ノ主體トモ爲サルヲ得ザルモノアリ。例ヘバ財産相續等ニ於ケル權利ノ主體ト爲スト共ニ、納稅辨償等ニ於ケル義務ノ主體トモ爲スガ如シ。若シ此ノ點ヨリ之ヲ視レバ、無能力者モ必ズ權利義務共ニ之ヲ有スル者ト曰ハザルヲ得ズ。孰レニシテモ、人ノ甫メテ生マ

ル、ヤ、無能力ナルガ故ニ、權利アルモ義務ナク、權利ハ先ニシテ義務ハ後ナリトスルハ不當ナリ。

此ノ如ク權利義務ハ、法律以外ニ於テハ必ずシモ常ニ對立スルニ限リタルモノニ非ズシテ、一概ニ同一物ノ表裏、無先無後ナリト謂フベカラズ。抑、又權利ハ先ニシテ、義務ハ後ナリトモ謂フベカラザルモノトスレバ、先ヅ義務アリテ後ニ權利アルモノナルコトハ、自明ノ理ニシテ、義務先ナリトノ説其ノ當ヲ得タリト謂フベシ。且義務ハ社會各人ノ福祉ヲ増進シ、及ビ之ヲ侵害セザランガ爲ニ履行スベキ人人各自ノ分限ニシテ、權利ハ義務者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムルコトヲ爲スベキ人人各自ノ分限ナルガ故ニ、權利ハ義務中ノ一種特別ナルモノニシテ、義務ハ權利ヲ包含ス。此ノ點ヨリ之ヲ觀ルモ、權利ハ必ず義務ヨリ生ジタルモノニシテ、義務ハ先ナリ、權利ハ後ナリト認メザルヲ得ズ。

其ノ四、義務ト權利トノ歸納。義務ト權利トハ倫理ヲ兩分シテ視タル所ノモノナルガ故ニ、之ヲ演繹シテ千ノ權利、萬ノ義務アリトスルモ、之ヲ卷ケバーニ皆倫理ノ定義ニ歸納スルモノナラザルベカラズ。而ルニ世人倫理ノ定義ニ歸納スベカラザルモノヲ以テ、或ハ權利ト曰ヒ、或ハ義務ト曰ヘル者少カラズ。是レ此ノ歸納的觀念明確ナラザルニ原ク。

若シ然ラズンバ、權利義務ノ名ヲ藉リテ、不倫理ノ事ヲ逞シクセントスル惡徒タルベキナリ。

夫レ義務ハ社會各人ノ福祉ヲ増進シ、及ビ之ヲ侵害セザランガ爲ニ、履行スベキ人人各自ノ分限ナリ。而シテ權利ハ義務者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムルコトヲ爲スベキ人人各自ノ分限ナリ。故ニ義務ヲ盡サント欲セバ、必ず權利ヲ全ウセザルベカラザルヲ以テ、甲ノ權利ハ之ニ對スル乙ノ義務ヲシテ履行セシムベキ義務トモ謂フベクシテ、義務ハ權利ヲ包含シ、權利ハ義務ノ中ニ存在スルモノト謂フベシ。故ニ倫理ヲ二分スレバ、權利義務ナリト雖モ、義務中ニ權利ヲ包含シタル點ヨリ之ヲ視レバ、倫理即チ義務ニシテ、古人稱セル所ノ義ハ概ネ是ナリ。隨ツテ倫理又ハ義務ノ語ニ換フルニ、理義ノ語ヲ以テセル時少カラズ。而シテ其ノ同一ナルモノニ對シテ、或ハ理ト曰ヒ、或ハ義ト曰フ所以ハ、程子能ク之ヲ辯ゼリ。曰ハク、在物爲理。處物爲義。體用之謂也。亦以テ權利義務ナルモノハ、必ず倫理ノ定義ニ歸納セサルベカラザルモノナルコトヲ知ルベキナリ。

或人曰ハク、實ニ義務ハ即チ倫理、而シテ權利ハ義務中ナル一種ノ義務ナリト謂フベシ。而ルニ世人動モスルバ沒義ノ事ハ斷シテ不可ナリト爲シナガラ、棄權ノ事ハ或ハ以テ可ナ

リト爲シ、債權者ガ其ノ債權ヲ棄テ、債務者ヲ利シ、選舉者ガ其ノ選舉權ヲ棄テ、投票セザル等ノ事ニシテ、往々是認セラレ、ハ何ゾヤ。是レ若シ思想ノ矛盾ニ非ザレバ、或ハ倫理ニ違フモ不可ナシト爲スベキコトアルカ。曰ハク倫理ニ違フテ不可ナシト爲スベキモノアラズ。然レドモ所謂棄權ハ必ズシモ沒義ヲ不可トスル思想ト矛盾セズ。隨ツテ又必ズシモ倫理ニ違背セズ。今茲ニ債權者ガ債務者ヲ救フ力アリ。債務者ノ窮ヲ憫ミ、其ノ債權ヲ讓リテ債務者ヲ利スルハ、猶餘財ヲ出シテ人ノ難ヲ救フガ如シ。名ハ棄權ト雖モ、實ハ棄權ニ非ズシテ救難ナリ。若シ債權者ノ窮ハ債務者ノ窮ヨリモ甚ダシク、且債務者惡意ヲ以テ辨債セザルニ方リ、債權者之ヲ訴ヘントスルモ、得失償ハズ、或ハ費用足ラザルヲ思ヒテ、止ラ得ズ之ヲ放置スルコトアラバ、縦ヒ棄權ト稱スルモ、實ハ枉屈ナリト謂フベシ。選舉權ノ如キモ、或ハ公務ニ羈束セラレ、或ハ病氣喪葬旅行等ノ爲ニ選舉所ニ至ラザルコトアリ。是レ亦名ハ棄權ト雖モ、其ノ實ハ事宜ナリ。世ニ棄權ト稱シテ、其ノ實之ニ類スルモノ少カラズ。故ニ棄權ノ名ニ拘泥シテ、直ニ是ヲ以テ義務ニ違ヒ、倫理ニ背キタリトスルガ如キハ皆誤解ナリ。

第四章 倫理ノ一大綱

倫理ハ即チ義務權利ナリ。而シテ義務ニ小ナルモノアリ。大ナルモノアリ。權利ニモ小ナルモノアリ。大ナルモノアリ。就中無上ノ一大權利ハ、統治者ノ權利ニシテ、統治者ニ於ケル倫理ノ一大大綱ナリ。無上ノ一大義務ハ、統治者ノ權利ニ對スル被治者ノ義務ニシテ、被治者ニ於ケル倫理ノ一大大綱ナリ。

夫レ權利ハ義務者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムルコトヲ爲スベキ人人各自ノ分限ナルガ故ニ、義務ハ他人ノ權利ニ對スル義務ヨリ大ナルモノナク、他人ノ權利大ナルバ大ナルニ隨ツテ、之ニ對スル義務益大ナリ。是レ古來最大團體ニ於ケル統治者ノ權利ヲ以テ、人間無上ノ大權ト爲シ、此ノ統治者ノ大權ニ服從シ、及ビ之ヲ擁護スベキ義務ヲ以テ、人間無上ノ大義ト爲ス所以ナリ。

團體ノ最モ大ナルモノハ人類社會全體ナルガ故ニ、今若シ社會全體ヲ一括シテ統治スル權利ヲ有スル者アランニハ、權利ニ於テハ其ノ統治者ノ權利ヨリ大ナル權利ナク、義務ニ於テハ其ノ統治者ノ權利ニ服從シ、及ビ之ヲ擁護スルヨリ大ナル義務ナカルベシト雖モ、古

來未ダ曾テ社會全體ヲ一括シテ統治スル權利ヲ有スル者アラザレバ、將來ハ知ラズ、今日マデノ處ニテハ、此ノ人類社會ヲ大別シテ、各、一定ノ地域ヲ限リ、各、一定ノ人員ヲ以テ組織セル政治的團體、即チ國家ニ於ケル統治者ノ權利ハ、全ク人間無上ノ大權ニシテ、其ノ之ニ服從シ、及ビ之ヲ擁護スベキ被治者ノ義務ハ、全ク人間無上ノ大義ナリ。故ニ國家ニ於ケル被治者ニ就キテ之ヲ言ヘバ、倫理ノ一大大綱ハ、其ノ被治者タルノ義務ニシテ、總ベテ被治者ニ於ケル倫理ト稱スベキモノハ、皆其ノ一大大綱ニ一致スルモノナラザルベカラズ。而シテ統治者ニ就キテ之ヲ言ヘバ、倫理ノ一大大綱ハ、其ノ有スル所ノ統治權ニシテ、總ベテ統治者ニ於ケル倫理ト稱スベキモノハ、皆其ノ一大大綱ニ一致スルモノナルベキナリ。

倫理ハ社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ全ウセンガ爲ニ、人ノ當ニ實踐スベキ條目ナリ。而モ其ノ最大大綱ハ、國家ニ於ケル被治者トシテハ、其ノ統治者ノ權利ニ對スル義務ニシテ、又國家ニ於ケル統治者トシテハ、其ノ被治者ノ義務ニ對スル權利ナルガ故ニ、國家ノ統治者ハ此ノ無上ノ大權ヲ本トシテ凡百ノ倫理ヲ實踐シ、又國家ノ被治者ハ此ノ無上ノ大義ヲ本トシテ一切ノ倫理ヲ實踐シ、其ノ意ヲ誠ニシ、其ノ心ヲ正シク

シ、其ノ身ヲ修メ、其ノ家ヲ齊ヘ、而シテ各國各自善ク其ノ國ヲ治メ、以テカヲ天下ノ平和ヲ致スノ一點ニ協セ、互ニ人類社會全體ノ福祉ヲ計ルベキモノナリ。故ニ國民ノ意誠ナラズ、心正シカラズ、國家亂レテ治ラザレバ、他國ノ爲ニ統治セラル、ニ至ルハ當然ノ理勢ナリ。豈唯ニ然ルノミナランヤ。誠ヲ失ヒ正ヲ缺クコト甚ダシケレバ、眞理ハ必ズ其ノ民族子孫ヲ滅絶セン。

第五章 倫理ト天然則

物理、生理、心理、病理等ハ天然ニ存在スル法則ナリト雖モ、倫理ハ人ノ隨意ニ作造シタルモノニシテ、天然則ニ非ズト曰フ者アリト雖モ、他ノ天然則ト其ノ趣ヲ異ニスルノミニシテ、倫理モ亦一種ノ天然則ナリ。今若シ倫理ニシテ人ノ隨意ニ作造シタルモノナランニハ、之ヲ人ニ於ケル規範的法則ナリト曰フヲ得ズ。且倫理ハ既說ノ如ク、義務及ビ權利ト異名同實ニシテ、人人各自ノ本分ナルヲ以テ、到底人ノ作造シ得ベキモノニ非ズ。唯、人能ク之ヲ認知シ、之ヲ實行スルノミ。故ニ天然則ハ獨リ倫理ノミニ非ズト雖モ、倫理ハ即チ天然則ナリト謂ツベシ。本篇第一章ニ於テ、說既ニ之ニ及ベリ。復贅セズ。

第六章 倫理ト人定法

或人曰ハク、法律ハ人ノ制定シタルモノナルガ故ニ、若シ倫理ヲ以テ、天然則ナリトセンカ、法律ハ倫理中ノモノニ非ズト爲サルヲ得ズ。而モ法律ハ倫理中ノモノトセルコト、既ニ定論アレバ、法律ヲ人ノ制定シタルモノト爲ス以上ハ、倫理モ亦人ノ作造シタルモノニテ天然則ニ非ズト爲サルヲ得ズト。是レ倫理中ニ屬スベキ法律ヲ本トシテ、法律ヲ包含セル倫理ノ性質ヲ論ゼントスルモノニシテ、固ヨリ轉倒シタル觀念ナリ。夫レ法律ガ倫理中ノ一部分タルベキモノナルコトヲ知レバ、倫理ヨリ法律ノ生ズベキモノナルコトモ知ルベキナリ。故ニ倫理ノ性質ニ由リテ、法律ノ性質ヲ決スベシ。法律制定ノ言語文字ヲ以テ、倫理ノ何タルカヲ斷ズベカラズ。且法律ノ制定トハ、倫理ナル權利義務ノ或部分ヲ、法律ト制定セラレタリトノ意ナルベクシテ、其ノ權利義務ヲ作造セラレタリトノ意ナラザルベシ。故ニ倫理ガ一種ノ天然則ナル以上ハ、法律モ亦必ズ天然則ナラザルヲ得ズ。而ルニ法律ガ人ニ由リテ制定セラレタルノ故ヲ以テ、倫理ノ法律ト共ニ、人ノ作造セルモノナリトスルハ、人定制定等ノ文字言語ニ拘泥シテ、其ノ真相ヲ認ムル能ハザルモノナリ。但

シ倫理ニ非ザルモノヲ倫理ト思ヒ、非倫理的法律ヲ制定シテ法律ト爲シ、又ハ法律制定ノ當時ハ倫理的ナリシモ、時世移易スルニ隨ツテ、非倫理的トナリタル法律ヲ改正セザル等ノ事アラシカ、是レ所謂不善ナル法律ニシテ、之ヲ天然的法則ニ非ズト謂フハ不可ナキニ似タリ。

或人曰ハク、若シ法律ニ非倫理的法律アラシニハ、之ヲ守ラザルモ可カ。若シ強ヒテ之ヲ守ラバ、倫理ニ違ヒ人ノ人タル所以ヲ失フベシト。曰ハク、既説ノ如ク、倫理ノ大綱ハ統治者ニ在リテハ其ノ大權ニシテ、被治者ニ在リテハ其ノ大義ナリ。而シテ此ノ大義ハ絶對ニ此ノ大權ニ服從シ、及ビ之ヲ擁護スベキモノナルガ故ニ、如何ナルコトアリトモ、此ノ大權ノ犯スベカラザルハ、被治者ニ於ケル倫理ノ大綱ナリ。而シテ法律ハ統治者ノ命令ト同性質ノモノナルガ故ニ、假ヒ法律ニ非倫理的ナルモノアリトモ、堅ク之ヲ遵奉スベキハ被治者ニ於ケル倫理ナリ。何ゾ法律ヲ遵奉スルガ爲ニ倫理ニ違フコトアラシヤ。但シ之ヲ遵奉スルト共ニ、一方ニ於テハ、其ノ分限ニ應ジテ、其ノ非倫理的法律ノ改正セラルベキ適當ノ方ヲ盡スベキハ、亦被治者ニ於ケル倫理ニシテ、唯、遵奉ノミニ止ルベキニ非ザルナリ。之ヲ要スルニ、法律ハ實際ニ於テ、古來或ハ倫理ニ違ヘルモノアリト雖モ、其ノ性質ハ倫理ト

同一ニシテ、倫理的天然則中ヨリ政治上必要ナルモノヲ擧ゲテ、特ニ之ヲ守ルベク制定セラレタルモノナラザルベキヲ得ンヤ。

第七章 倫理ト正邪善惡

各種ノ事物ヲ持チ來リテ、各種ノ標準ニ照シ、以テ其ノ事物ノ價值ヲ定メ、或ハ高底大小ト曰ヒ、或ハ長短輕重ト曰ヒ、或ハ貴賤尊卑ト曰ヒ、或ハ正邪善惡ト曰フ。故ニ齊シク正邪善惡ト曰フモ、其ノ指稱スル所ノ事物ト、其ノ判斷スル所ノ標準トニ由リテ、其ノ正邪善惡ノ言意同ジカラズ。然レドモ普通稱スル所ノ正邪善惡ハ、人ノ心術言行ガ倫理ニ合ヘルト倫理ニ差ヘルトヲ謂フ。大善ハ大事ニシテ其ノ倫理ニ合ヘルヲ謂ヒ、積善ハ諸事ニシテ其ノ倫理ニ合ヘルヲ謂ヒ、大惡積惡ハ其ノ之ニ反對ナルヲ謂ヒ、比較的正善ハ比較的ニ能ク倫理ニ合ヘルヲ謂ヒ、比較的正善ハ比較的ニ多ク倫理ニ差ヘルヲ謂フ。而シテ其ノ正邪善惡ヲ證明スルモノニアリ。多數的證明、論理的證明、結果的證明是ナリ。

其ノ一、多數的證明。多數人が正善ナリト言ヘルコトハ、其ノ正善ト爲ス所ヲ證明スルニカアリ。多數人が邪惡ナリト言ヘルコトハ、其ノ邪惡ト爲ス所ヲ證明スルニカアリ。是

ノ故ニ、多數說ヲ以テ正邪善惡ヲ證明スルノ一手段ト爲スハ、古今相同ジ。然レドモ多數說必ズシモ無妄ナラザルコトハ、識者ノ夙ニ屢辯シテ明ナル所ナリ。故ニ十目ノ視ル所、十指ノ指ス所、固ヨリ畏敬セザルベカラズト雖モ、又自ラ反シテ縮クンバ、千萬人ト雖モ吾往カンノ慨ナカルベカラズ。何ゾ多數的證明ヲ以テ、直ニ眞實ノ證明ト爲スニ足ランヤ。

其ノ二、論理的證明。論理上正善ト決定シ、論理上邪惡ト決定シタルコトハ、頗ル眞實ノ證明ニ近シ。然レドモ論理ハ其ノ前提ヲ是認シテ、而ル後ニ決定スルモノナルガ故ニ、若シ其ノ前提ニ誤認アランニハ、其ノ證明ハ強制的證明トナリテ、亦眞實ノ證明タラザルベシ。隨ツテ論理的證明モ、未ダ以テ完全ナル證明ト謂フベカラズ。

其ノ三、結果的證明。正邪善惡ヲ證明スルモノハ、心術言行ノ結果ヨリ確實ナルハナシ。而シテ其ノ證明ニ外觀的證明ト、内觀的證明トノ二様アリ。即チ既說ノ如ク、倫理ハ人ノ心術言行ニ對スル規範的天則ニシテ、人ヲシテ之ニ率ヒ、社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ致サシメンガ爲ニ存在セルモノニシテ、人ノ當ニ實踐スベキ條目ナリ。而シテ正善トハ心術言行ガ倫理ニ合ヒタルノ謂ナルガ故ニ、心術言行ノ結果ガ社會全體ノ福祉ト爲リタルトキハ、全ク外觀的ニ其ノ正善ヲ證明セルモノニシテ、之ニ反對ノ結果ヲ生ジタ

ルトキハ、其ノ邪惡ヲ證明セルモノナリ。又既説ノ如ク、人欲ハ諸感ノ調和ヲ以テ究極ノ目的點ト爲シ、而シテ心術言行ハ其ノ欲望、即チ目的ヲ達スル爲ノ方法トナレルモノナルヲ以テ、心術言行其ノ宜ヲ得バ、其ノ事物ニ對スル諸感必ズ調和ス。而シテ所謂心術言行其ノ宜ヲ得ルトハ、心術言行ガ倫理ニ合ヒタルコト、即チ正善ナルコトナルガ故ニ、心術言行ノ結果ガ諸感ノ調和ト爲リタルトキハ、全く内觀的ニ其ノ正善ヲ證明セルモノニシテ、之ニ反對ノ結果ヲ生ジタルトキハ、其ノ邪惡ヲ證明セルモノナリ。

難者曰ハク、心術言行ノ結果ガ社會ノ福祉トナリタルト否トニ由リテ、其ノ正邪善惡ヲ證明セントスルモ、如何ナル心術言行ガ、果シテ如何ナル社會ノ禍福ヲ醸成シタルカハ、到底人智ヲ以テ悉ク知り得ベキニ非ズト。然リ一之ヲ認知シテ漏スナキコト能ハズト雖モ、其ノ能ク之ヲ認知セザルト否トハ、別問題ニシテ、其ノ證明ハ之ガ爲ニ其ノ眞實タルコトヲ失ハズ。

難者又曰ハク、茲ニ人アリ、酒色ニ耽リ、自ラ以テ快ト爲サバ、是レ亦倫理ニ合ヘルモノトシテ正善ナリト謂フベキカ。又事ニ當リテ苦痛ヲ感ズルコトハ、皆邪惡ナリト謂フベキカ。所謂内觀的證明説ニ據レバ、此ノ如ク謂フベキナリト。是レ淺薄モ亦甚ダシキ言ナリ。

凡ソ心術言行ノ結果ガ諸感ノ調和不調和トナリテ、其ノ心術言行ノ正邪善惡ヲ證明セル情態ニ二様アリ。一ハ心術言行ヲ爲スニ隨ツテ、漸々諸感ノ調和ヲ感ジ、而シテ其ノ心術言行ノ爲ニ、異時諸感ノ不調和トナルコト起ラズ、及ビ縱ヒ起ルモ、前事ヲ以テ之ヲ慰安スルニ足レバ、其ノ正善ヲ證明スルモノニシテ、之ニ反スルアレバ、其ノ邪惡ヲ證明スルモノナリ。酒色ニ耽リタル如キハ、縱ヒ一時自ラ快トスルモ、異時必ズ諸感ノ不調和トナルコトヲ惹起シ、前事ヲ以テ之ヲ慰安スルニ足ラズシテ、其ノ邪惡タリシコトヲ證明スルノ時必ズ來ルベシ。一ハ心術言行ヲ爲スニ方リテ、一時諸感ノ不調和ヲ感ズルコトアルモ、其ノ心術言行ガ永遠ニ諸感調和ノ原因ト爲リ、而シテ更ニ之ガ爲ニ不調和ヲ感ズルコト起ラズ、縱ヒ起ルモ、前事ヲ以テ之ヲ慰安スルニ足レバ、亦以テ其ノ正善ヲ證明スルモノニシテ、之ニ反スルアレバ、其ノ邪惡ヲ證明スルモノナリ。

之ヲ要スルニ、心術言行ガ倫理ニ合ヘルヲ正善トシ、倫理ニ差ヘルヲ邪惡トス。然レドモ心術言行ハ欲望ニ由リテ生ジ、欲望ハ知感ノ結合ニ由リテ生ズルモノナルガ故ニ、倫理ヲ標準トシテ心術言行ノ正邪善惡ヲ稱スル以上ハ、其ノ能ク倫理ヲ知り、倫理ニ感ジ、倫理ニ從ハント欲スルト否トハ、以テ知感欲望ノ正邪善惡ナルモノト謂フベシ。隨ツテ其ノ知

感欲望心術言行ヲ爲ス所ノ精神ノ正邪善惡モ、亦倫理ヲ標準トシテ之ヲ稱スベキナリ。

第八章 正邪善惡ト道德

道德ニ邪惡ナルモノナク、道德ハ正善ナルモノニ限ルナリトスルハ、世人ガ道德ニ對スル觀念ナリ。而ルニ動モスレバ邪道惡德等ノ語ヲ口ニシテ、道德ニ正邪善惡アリトスルモ、亦世人ガ道德ニ對スル觀念ナリ。噫、此ノ兩立セザル二個ノ觀念ヲ以テ相怪マザルハ、道德ノ實相未ダ世ニ明ナラズト謂ツベシ。

韓退之曰ハク、道與德爲ニ虛位。故道有君子、有小人。德有吉、有凶。然レドモ單ニ道德ト言ヘバ、人皆君子の吉祥ノモノニシテ、正道善德ト言フニ同ジキモノト了解シテ、道德ハ虛位ナルガ故ニ、單ニ道德ト言フノミニテハ、正善ナルカ、邪惡ナルカ、言意明ナラズト爲セル者ナシ。然レバ世人ガ道德ニ對スル觀念ニ、二個ノ兩立セザル撞着アリト雖モ、實際道德ニハ小人的不祥ノモノナクシテ、正善ナルモノニ限ルトハ、古今東西普遍ノ觀念ナリト謂ツベシ。

但シ人ノ信ジテ道トスル所ニ正シカラザルコトアリ。德トスル所ニ善カラザルモノアリ。

是レ所信ノ不正不善ニシテ、之ガ爲ニ道德ニ邪惡アリト謂フベカラズ。然レドモ邪道惡德、小人的道德ト言フガ如キ誤謬ノ思想ハ、蓋シ是ヨリ出デタルカ。

抑、所謂正善トハ、倫理ヲ知り、倫理ニ感シ、倫理ヲ欲シ、而シテ倫理ヲ標準トシテ作爲シタル心術言行ガ倫理ニ合ヒ、其ノ結果、之ヲ外ニシテハ社會ノ福祉ト爲リ、之ヲ内ニシテハ諸感ノ調和ト爲ルベキコトヲ稱スルニ、又何ヲ以テ道德ヲモ正善ナルモノトスルカ。將タ道德トハ如何ナルモノカ。先ヅ其ノ定義ヲ立ツルヲ要ス。

第九章 道德ノ定義

道德ノ定義精確ナラズ、曖昧模糊ノ中ニ道ト曰ヒ、德ト曰ヒ、甲乙丙丁各、其ノ見解ヲ異ニセルハ、道德上ノ一大缺點ナリ。然レドモ幸ニ道德ニ對スル思想ノ一致點トシテ見ルベキモノ、古今内外ニ通ジ、顯然トシテ明ナルアリ。即チ左ノ三者ナリトス。

- 一、人ハ時處位ノ如何ヲ論ゼズ、絶對ニ道德的ナルベシ。如何ナル場合ニ於テモ、不道德ニシテ可ナリトスル除外例一モアルコトナシ。
- 二、道德ハ絶對ニ正善ナルモノニシテ、邪道惡德ナド、曰フガ如キモノハ眞ノ道德ニ非

ズ。眞ノ道德ハ正善ナルニ限ルモノナリ。

三、道德ノ内容ハ絶對ニ社會全體ノ福祉ヲ致ス所ノ事物ニシテ、社會ノ福祉ヲ侵害毀傷スル事物ハ道德ニ非ズ。

右三者ハ古今ニ互リ、内外ニ通ジタル道德的思想ノ一致點ニシテ、此ノ世界思想ノ一致點ハ道德ニ於ケル定義ノ基礎トナルベキモノナラザルヲ得ズ。故ニ古來道德ノ定義ヲ下シタルモノニシテ、此ノ一致點ニ一致セザルモノハ、皆思想ノ矛盾トシテ斥クベキモノナリ。人或ハ曰ハシ。道德ニ對スル此ノ世界思想ノ一致點ハ、直ニ以テ道德ノ定義ト爲スベキナリト。然レドモ道ト徳トノ相異ルコトハ、何人モ認ムル所ニシテ不同ナル二個ノ事物ニハ同一ノ定義ヲ下スベカラズ。故ニ此ノ思想ノ一致點ヲ以テ、直ニ道德ノ定義ト爲スハ不可ナリ。須ク此ノ思想ノ一致點ヲ基礎トシテ、道ハ道ニ就キテ定義ヲ下シ、徳ハ徳ニ就キテ定義ヲ下シ、而シテ此ノ一致點ニ一致スルモノヲ以テ、眞正ノ定義ト爲スベキナリ。

我が國 皇祖 皇宗、徳ニ據リ道ヲ弘メ給ヒ、臣民之ヲ奉ジテ、國教此ニ其ノ基ヲ興シ、其ノ後儒教入り、佛教入り、諸子百家ノ教又入りテ之ニ加リ、近世基督教入り、泰西ノ諸學亦入りテ更ニ之ニ加リ、是ニ於テ宇内道德ノ學術盡ク我が國ニ集リ、世界萬邦ヲ回視ス

ルニ、未ダ曾テ此ノ如ク盛ナルモノアラズ。而シテ我が國ノ學者能ク之ヲ折衷シテ、天下ノ道德說ヲ完成セントスル概アリ。然レドモ道德ノ定義未ダ一致セズ、諸說尙紛々タルモノアリ。道德思想ノ基礎之ガ爲ニ確立セズ。恨事之ヨリ大ナルモノナシ。就中今立言比較的分明ニシテ、且廣ク我が國ニ行ハレ、深ク人心ニ印染セルモノヲ舉グレバ、左ノ二者トス。之ヲ道德ニ對スル世界思想ノ一致點ニ鑑ミ、之ヲ道德ノ定義トシテ當否果シテ如何。

一、道ハ路ナリ。人ノ進行スベキ路途トモ謂フベキモノハ倫理ニシテ、倫理ハ人ノ道ナリ。徳ハ得ナリ。道ヲ行ヒテ之ヲ己ニ收得シタル是レ徳ナリ。

二、道ハ方法ナリ。正善ナル方法之ヲ人ノ道ト爲ス。徳ハ習慣ナリ。正善ナル習慣之ヲ人ノ徳ト爲ス。

今之ニ就キテ按ズルニ、倫理ハ社會全體ノ福祉ヲ致サンガ爲ニ、人ノ當ニ實踐スベキ規範的天則ニシテ、時處位ノ如何ヲ問ハズ、常ニ人ノ前後左右ニ在リト雖モ、是レ一種ノ理法タルニ過ギザレバ、倫理其ノモノハ毫モ社會ノ福祉ヲ致スモノニ非ズ。唯、人之ヲ實踐スル度ニ準シテ社會ノ福祉ヲ致スノミ。故ニ倫理即チ人道ナリト曰フハ、道德ニ對スル世界思想ノ一致點ニ一致セズ。且人ノ正邪善惡ハ、倫理ヲ標準トシテ其ノ之ニ合ヘルヲ正善トシ、

其ノ之ニ差ヘルヲ邪惡トセルモノナルガ故ニ、道德ヲ以テ正善ナルモノト爲ス以上ハ、必ズ倫理以外ニ於テ道德ト稱スベキ事物ナキヲ得ズ。而ルニ倫理ヲ以テ人道ナリトスルハ、亦道德ニ對スル世界思想ノ一致點ニ矛盾セリ。要ハ倫理即人道ト謂フベカラザルナリ。又德トハ道ヲ行ヒテ之ヲ己ニ收得シタルヲ言フナリトスルニ至リテハ、德ノ定義トシテ竟ニ其ノ要領ヲ得ズ。樂記ニ曰ク、樂者通ニ倫理ニ者也。云云。知樂則幾於禮。禮樂皆得、謂之有德。德者得也ト。鄉飲酒義ニ曰ハク、禮以體長幼、曰德。德得於身也。故曰、古之學術道者、將以得身也ト。朱子曰ハク、德之爲言得也。行道、而有得於心也ト。德トハ道ヲ行ヒテ之ヲ己ニ收得シタルモノナリト定義セルハ、此等ノ古說ニ據レルナラント雖モ、其ノ道ヲ行フテ得タルモノ、即チ德ナリト言フノミニテハ、如何ナルモノヲ得タルカ、其ノ德ナルモノ、實質明カナラズ。故ニ曰ハク、是レ德ノ定義トシテ不得要領ナリト。其ノ縦ヒ道德ニ對スル世界思想ノ一致點ニ矛盾スル所ナシトスルモ、不得要領ノ言ハ定義ト爲スニ足ラズ。

次ニ道ハ正善ナル方法ニシテ、德ハ正善ナル習慣ナリト定義セル所以ヲ考フルニ、完全ナル定義トハ爲シ難キモ、從來道德ノ定義トセル中ニ於テ、最モ完全ナルニ近シト信ズ。所

謂正善ナル方法トハ、即チ正善ナル心術言行ニシテ、正善ナル習慣トハ、即チ正善ナル知感欲望心術言行ノ習慣ナリ。何トナレバ、人事ニ於テ方法ト謂フベキモノハ、唯、心術ト言行トアルノミニシテ、習慣ト謂フベキモノハ、唯知感欲望心術言行上ノコトノミナレバナリ。故ニ此ノ正善ナル方法、即チ正善ナル心術言行ト、正善ナル習慣、即チ正善ナル知感欲望心術言行ノ習慣トヲ審ニスルハ、其ノ定義ノ頗ル完全ナル所以ヲ視ルニ最モ必要ナリ。

一、知感欲望心術言行ノ關係ハ、知レバ感シ、感ズレバ知リ、知感結合シテ欲望生シ、心術言行生シ、而シテ心術言行ハ欲望ヲ達スル爲ノ方法トナリ、欲望ハ心術言行ヲ爲ス所以ノ目的トナリ、而シテ知能ノ光明ハ、又此ノ目的ヲ達スルニ必要ナル燈臺トナリテ、諸感ノ調和ハ其ノ目的點トナレルナリ。

二、諸感調和ノ要素ハ、社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ニシテ、此ノ要素ヲ毀損スルコトハ、直接ニ間接ニ諸感ノ調和ヲ破ル原因トナラザルナク、此ノ要素ヲ備具スル度ニ應ジテ、直接ニ間接ニ諸感ノ調和ヲ致サルハナシ。而シテ之ヲ致スハ、心術言行ガ倫理ニ一致スル度ニ準ズ。

三、倫理ハ、社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ致サンガ爲ニ、實踐ヲ要ス

ル規範的天則ニシテ、而シテ社會ノ福祉ハ諸感調和ノ要素ナルガ故ニ、倫理ニ合ヒタル心術言行即チ倫理ノ實踐ハ、外社會ノ福祉ヲ致シ、以テ内諸感ノ調和ヲ全ウセントスルコトニ於テ、絶對ニ正善ナル方法ナリ。

四、倫理ノ實踐、即チ心術言行ガ倫理ニ適合スルニ隨ツテ、心術言行ニ合倫理的習慣ヲ生ジ、延イテ欲望上ニモ、知感上ニモ合倫理的習慣ヲ生ズルニ至ル。而シテ此ノ習慣ハ、益、能ク倫理ヲ實踐シ、益、能ク社會ノ福祉ヲ致シ、以テ益、能ク諸感ノ調和ヲ全ウシ易カラシムルガ故ニ、倫理實踐ノ習慣ハ、之ヲ外社會ノ福祉上ヨリ觀ルモ、内諸感ノ調和上ヨリ觀ルモ、絶對ニ正善ナル習慣ナリ。

五、外社會ノ福祉上ヨリ觀ルモ、内諸感ノ調和上ヨリ觀ルモ、絶對ニ正善ナル方法、及ビ其ノ方法ヲ全ウシ得ル習慣ハ、何人モ要スル所ニシテ、其ノ己ニ之ナキヲ欲スル者アラザルハ、猶不道德ニシテ可ナリトスベキ除外例ノ事アリト言フ者ナキガ如シ。

是ニ由リテ之ヲ考フルニ、正善ナル方法之ヲ人ノ道ト曰ヒ、正善ナル習慣之ヲ人ノ徳ト曰フハ、實ニ道德ニ對スル世界思想ノ一致點ニ一致ス。故ニ曰ハク、此ノ定義ハ從來道德ノ定義トセルモノ、中ニ於テ、最モ完全ナルニ近シト。然レドモ正善ナル方法トハ、實ニ此ノ如

ク倫理ノ實踐ナルニ、其ノ之ヲ揭示セザルハ、道ノ定義トシテ粗漏ナリト謂ツベシ。又徳ヲ以テ單ニ正善ナル習慣ナリトスルハ、更ニ一層ノ缺點ヲ認ム。何トナレバ、人ノ精神ニ正善ナル習慣ヲ作り得ル所ノ能力、即チ倫理實踐ノ習慣ヲ作り得ル所ノ能力アルニ非ザレバ、決シテ此ノ習慣ヲ作り得ルニ至ルコト能ハサルベキニ、此ノ能力ヲ其ノ定義ノ根本ト爲サザレバナリ。故ニ余ハ此ノ定義ニ補フテ、左ノ如ク改定スルヲ適當ナリト信ズ。

一、道ハ天然ノ規範的法則ナル倫理ノ實踐ニシテ、社會ノ福祉ヲ計リ、諸感ノ調和ヲ致スニ、正善ナル方法トナルコトナリ。

一、徳ハ人ノ天ヨリ得テ其ノ精神ニ有スル倫理實踐ノ能力ニシテ、正善ナル習慣ニ由リテ發達シ得ルモノナリ。

更ニ之ヲ約言スレバ、

一、道ハ倫理ノ實踐ナリ。

二、徳ハ倫理實踐ノ能力ナリ。

辯難

難者曰ハク、從來倫理即道德、道德即倫理ト思ヘル者多シ。是ヲ以テ、法律ノ如キモ道德ノ圈

中ニ在ル小圈ナリトシテ之ヲ説キ、法律ハ倫理ノ圈中ニ在リト言フト言意相通ゼリ。而ルニ子ハ倫理ト道德トヲ分チテ區別スルハ此ノ倫理道德思想ヲ亂ルモノナラザルカ。曰ハク倫理ト道德トハ其ノ初ヨリ其ノ區別アリ。余何ソ之ヲ區別センヤ。而モ此ヲ同視セル者ハ自ラ其ノ思想ヲ混亂セルナリ。余何ゾ之ヲ亂ランヤ。且言意通ズルモノ其ノ言必ズシモ正シカラズ。法律ヲ道德ノ圈中ニ在リト言フガ如キモ、之ヲ倫理ノ圈中ニ在リトノ意トシテ見ルガ故ニ、其ノ言意始メテ通ズルノミ。

難者又曰ハク、道ト徳トハ自ラ其ノ區別アリ。然レドモ人道ト倫理トハ一ナリ。故ニ道ニ志スト云ヒ、道ヲ行フト云フガ如キハ、倫理ニ志シ、倫理ヲ行フトコトナラズヤ。中庸ニ云フ、天下之達道五。所以行_レ之者三。曰、君臣也。父子也。夫婦也。昆弟也。朋友之交也。五者天下之達道也。知仁勇三者天下之達徳也ト。是ヲ以テ之ヲ觀ルモ、人道ハ倫理ナリト。曰ハク道ニ志ストハ倫理ノ實踐ニ志スナリ。道ヲ行フトハ倫理ノ實踐ヲ爲スナリ。倫理ニ志シ、倫理ヲ行フト言フト語意同シカラズ。但シ倫理ノ實踐ニ志スト倫理ニ志スト、及ビ倫理ノ實踐ヲ爲スト倫理ヲ行フトハ、其ノ心術言行一ニシテ二ナラズ。是レ人ノ誤リテ人道ト倫理トヲ同視スル所以ナリ。又所謂五者天下之達道也トハ、此ノ五大倫ヲ全ウスルコトヲ爲スハ、

天下ニ於ケル達道ナリトノ意ナリ。古人多ク言語ヲ省略ス。是レ知ラザルベカラズ。若シ其ノ字面ノミニ就キテ之ヲ見バ、君臣也。父子也。夫婦也。昆弟也。朋友之交也ハ、唯、人倫中最モ重大ナル人倫ナリト謂フベキモノナリ。決シテ之ヲ人倫ノ理法即チ倫理ナリト謂フベカラズ。況ヤ之ヲ倫理ノ實踐即チ人道ト謂フベケンヤ。故ニ朱子之ヲ解スルニ補フテ曰ハク、父子有_レ親。君子有_レ義。夫婦有_レ別。長幼有_レ序。朋友有_レ信是也ト。然レドモ有_レ親有_レ義有_レ別有_レ序有_レ信ハ、倫理實踐ノ事即チ人道ニシテ、倫理ト同シカラズ。而ルニ朱子ハ此ノ倫理ト人道トノ區別ヲ確立セズシテ、達道者天下古今所_レ共由_レ之路トセリ。是レ亦後人ノ誤リテ倫理ト人道トヲ同一視スル所以ナリ。蓋シ朱子モ亦然ランカ。須ク達道トハ、天下古今ヲ通シテ人ノ共ニ行フ所ノ倫理實踐ナリト改ムベシ。朱子又曰ハク、達徳者天下古今所_レ同得_レ之理也ト。是レ徳ヲモ倫理ト同一視スル者アル所以ナリ。須ク改メテ達徳トハ、天下古今ヲ通シテ人ノ皆有スル倫理實踐ノ能力ナリト爲スベシ。左ニ倫理道德ノ定義ヲ明ニセンガ爲ニ、我が國人ノ古來道德思想ノ基礎ヲ固ムルニ與リテカアリシ學、庸、語ノ三書中ヨリ引例シテ之ヲ説カン。

凡例

大學之道在明明德。在親民。在止於至善。

明德ノ明ハ唯、徳ヲ形容スル爲ニ冠シタルニテ、俊徳、盛徳、懿徳、善徳ト謂フガ如シ。而シテ徳ハ倫理實踐ノ能力ナルガ故ニ、明德ヲ明ニスルトハ、此ノ能力ヲ發達弘充スルコトナリ。其ノ方法ハ常ニ倫理ヲ實踐スルニ在リ。親民トハ博ク民人ヲ親愛スルコトナリ。其ノ方法モ亦常ニ倫理ヲ實踐スルニ在リ。故ニ明明徳ノ事ハ即チ親民ノ事、親民ノ事ハ即チ明明徳ノ事ニシテ、目的ハ二ナリト雖モ、其ノ方法ハ一ニシテ一舉兩得トナルナリ。至善トハ完全ニ倫理ニ合フコトニシテ、止於至善トハ、倫理ヲ實踐シテ徳ヲ明ニシ民ヲ親ムコトガ完全無缺ナルヲ言フ。故ニ從來此ノ三者ヲ大學ノ三綱領ト稱スルモ、其ノ實ハ明明徳ト親民トノ二個ノ目的ノ下ニ倫理實踐ナル一個ノ方法ヲ執ルニ在リ。故ニ大學之道モ要スルニ亦倫理ノ實踐ナリ。

古之欲明明徳於天下者、先治其國。欲治其國者、先齊其家。欲齊其家者、先脩其身。欲脩其身者、先正其心。欲正其心者、先誠其意。欲誠其意者、先致其知。致知在格物。

明德即チ倫理實踐ノ能力ハ己ニ在リ。其ノ之ヲ明ニスルハ、自己ノ能力ヲ發揮シテ、其

ノ己ヲ全ウスル所以ナリト雖モ、其ノ事ハ倫理ノ實踐ニシテ、親民ノ事ナルガ故ニ、古之欲明明徳於天下者トハ、其ノ己ニ有スル倫理實踐ノ能力ヲ發揮シ、社會人類ニ對シテ倫理ヲ實踐シ、以テ世界ノ平和ヲ致サント欲セシ者ハト言フニ同シ。

所惡於上、母以使下。所惡於下、母以事上。所惡於前、母以先後。所惡於後、母以從前。所惡於右、母以交於左。所惡於左、母以交於右。此之謂絜矩之道。絜矩之道トハ、絜矩シテ倫理ヲ實踐スルコトナリ。

君子先慎乎徳。

慎乎徳トハ、慎ミテ倫理實踐ノ能力ヲ存養スルコトナリ。

君子有大道。必忠信以得之。驕泰以失之。

大道トハ、重大ナル倫理ノ實踐ナリ。

生財有大道。生之者衆、食之者寡、爲之者疾、用之者舒、財恆足矣。

生財有大道トハ、生之以下ノ四事ハ生財上ニ於ケル倫理實踐ノ重大ナルコトナルヲ以テナリ。

右大學ヨリ引ク

天命之謂性。率_レ性之謂道。脩_レ道之謂教。

此ニ稱スル性トハ、下文ニ君子尊_レ德性、而道_ニ問學トアル徳性ニ同ジ。而シテ徳性トハ即チ徳ノ謂ナルガ故ニ、天命之謂性。率_レ性之謂道トハ、猶ホ天命之謂徳。率_レ徳之謂道ト曰フガ如シ。夫_レ徳性即チ徳ハ人ノ天ヨリ得テ其ノ精神ニ有スル倫理實踐ノ能力ナルヲ以テ、此ノ能力ハ天ノ下シタル命令ナリトスルモ不可ナシ。故ニ徳性トハ何ゾヤノ意ニ對シテ、天命之謂性ト曰ヒ、次ニ人道トハ何ゾヤノ意ニ對シテ、率_レ性之謂道ト曰ヘリ。是_レ倫理ノ實踐、即チ倫理ニ從フヲ以テ道トセル定義ト一致セザルニ似タリ。然レドモ徳性ハ倫理實踐ノ能力ナルガ故ニ、倫理ニ從フモノハ徳性ニシテ、其ノ徳性ニ率フコトハ即チ倫理ニ從フコト、ナルナリ。是ヲ以テ、倫理ヲ實踐スル之ヲ道ト謂フモ、徳性ニ率循スル之ヲ道ト謂フモ、立言異ルノミニシテ、事實ハ相同ジ。次ニ教育トハ何ゾヤノ意ニ對シテ、脩_レ道之謂教ト曰ヘリ。是_レ教育ノ本旨ガ倫理實踐ノ能力(徳)ヲ以テ倫理實踐(道)ヲ全ウセシメントスルニ在レバナリ。

然レドモ天命之謂性ト曰フハ穩當ナラズ。何トナレバ、徳性ハ天賦ナリト雖モ、倫理ヲ實踐セシメンガ爲ニ賦與セラレタル能力ナレバナリ。又率_レ性之謂道ト曰フモ穩當ナラ

ズ。何トナレバ、徳性ニ率フト曰ヘバ、徳性以外ニ徳性ニ率フモノアルガ如ク聞ユルニ、其ノ實、徳性以外ニ徳性ニ率フモノナク、徳性ニ率フモノハ亦徳性ノミナレバナリ。且倫理ハ天然ノ規範的法則ナル故ニ、法律ヲ統治者ノ命令ト同一ナリトスル如ク、倫理コソ天ノ命令ナリトスルヲ適當ト曰フベキナレ。而シテ倫理實踐ノ能力即チ徳性ガ倫理ヲ實踐スル是_レ人道ナル故ニ、徳性ニ率フ之ヲ道ト謂フト曰フヨリモ、倫理ニ率フ之ヲ道ト謂フト曰ヘバ、最モ適當スルナリ。

道也者不可_レ須臾離_レ也。可_レ離非_レ道也。

道ハ倫理ノ實踐ニシテ、人ノ人タル所以ナリ。故ニ苟モ人ノ人タル所ヲ全ウセント欲セバ、倫理ノ實踐ハ須臾モ離ルベカラズ。其ノ離レ得ベキモノハ倫理ノ實踐ニ非ザルコトナルヲ以テ、須ク之ヲ離レテ實踐セザルベシトノ意ナリ。

喜怒哀樂之未_レ發、謂_ニ之中。發而皆中_レ節、謂_ニ之和。中也者天下之大本也。和也者天下之達道也。

所謂和ハ喜怒哀樂等諸感ノ發動シテ、皆其ノ節ニ中ルコトヲ稱セル故ニ、此ノ中節ノ二字ヲ審ニセバ、所謂達道ハ自ら知ルベキナリ。其ノ茲ニ言ヘル節トハ倫理ニシテ、中ト

ハ適合スルコトナレバ、中節トハ倫理ニ適合スルコトナリ。都テ人道ハ倫理ノ實踐、即チ合倫理的の心術言行ノ事ナレドモ、合倫理的の心術言行ノ習慣ハ延イテ合倫理的の喜怒哀樂等ノ習慣ヲ生ズルニ至ルモノナレバ、喜怒哀樂等ノ諸感ガ發動シテ、皆倫理ニ適合スルハ、即チ中節スルハ、常ニ能ク倫理ヲ實踐シタル結果ナリ。而シテ中節ノ喜怒哀樂ハ、天下古今ノ共ニ合倫理的の喜怒哀樂トシテ同情ヲ表スルモノナルガ故ニ、和也者天下之達道也ト曰ヘルモ、其ノ實ハ常ニ能ク此ノ和ヲ保チ得ルニ足ル所ノ倫理ノ實踐ハ天下ノ達道ナリトノ意ナリ。又喜怒哀樂之未發、謂之中ト稱スル中ハ、喜怒哀樂等ノ諸感未ダ發動セザル時ノ情態ヲ指ス。然レドモ凡人ノ喜怒哀樂セザル時ノ如キ情態トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニス。即チ中也者天下之大本也ト曰ヘル所ノ中ニシテ、其ノ發動スルヤ皆節ニ中リ得ル所ノ素養アルモノナリ。此ノ如ク常ニ能ク倫理ヲ實踐シタル結果トシテ致シ得タル所ノ中和ハ、更ニ之ガ原因ト爲リテ如何ナル結果ヲ生ズルガ。所謂天地位焉。萬物育焉。是ナリ。

道之不行也、我知之矣。知者過之、恐者不及也。道之不明也、我知之矣。賢者過之、不肖者不及也。

倫理實踐ノコト、世ニ行ハレズ、又タ明ナラザルハ、其ノ或ハ過ギ、或ハ及バザレバナリ。

君子和而不流、強哉矯。中立而不倚、強哉矯。國有道不変、塞焉、強哉矯。國無道至死不変、強哉矯。

國有_レ道トハ、國ニ倫理ノ實踐ガ勢力アル時ヲ言ヒ、國無_レ道トハ、國ニ倫理ノ實踐ガ勢力ナキ時ヲ言フ。

君子之道費而隱。

費ハ廣大ナリ。隱ハ潛晦ナリ。君子ガ倫理ヲ實踐スルヤ其ノ規模廣大ナリト雖モ、衣_レ錦尙_レ綱ノ如クスルヲ以テ其ノ善迹潛晦シテ幽微ナリ。

道不_レ遠_レ人。人之爲_レ道而遠_レ人、不可_レ以爲_レ道。

道ハ人ノ人タル倫理ノ實踐ナリ。故ニ道不_レ遠_レ人トナリ。若シ倫理ノ實踐ナリト信ジテ爲シタル事ガ、人ノ人タル事ニ遠カランニハ、其ノ倫理實踐ナルモノハ似テ非ナルモノタルベシ。故ニ人之爲_レ道而遠_レ人、不可_レ以爲_レ道トナリ。

忠怒違_レ道不_レ遠。施_レ諸己而不願、亦勿_レ施_レ於_レ人。

忠怒ハ倫理實踐上重要ナル事項ナリ。凡百ノ倫理之ニ基キテ能ク實踐セラル、ニ至ル。故ニ忠怒違フ道不遠トナリ。

君子之道四、丘未能一焉。所求乎子、以事父未能也。所求乎臣、以事君未能也。所求乎弟、以事兄未能也。所求乎朋友、先施之未能也。

此ノ四個ノ事項ハ即チ忠怒ニシテ、紳士ノ紳士タル倫理實踐上重要ナル事項ナリ。故ニ君子之道四トシテ之ヲ列擧セリ。

君子之道辟如行遠必自邇。辟如登高必自卑。

紳士ノ紳士タル倫理ノ實踐ハ、必ズ卑近ノ事ヨリ高遠ノ事ニ及ブトナリ。大學ニ所謂、古之欲明明德於天下者、先治其國。欲治其國者、先齊其家。欲齊其家者、先脩其身。自天子以至於庶人、壹是皆以脩身爲本トノ如キ是ナリ。

舜其大孝也與。德爲聖人、曾爲天子、富有四海之内、宗廟饗之、子孫保之。故大德必得其位。必得其祿。必得其名。必得其壽。

德ハ倫理實踐ノ能力ナリ。大德ハ倫理ヲ實踐シテ大事ヲ爲ス所ノ能力ナリ。故ニ大事ヲ爲スコト能ハズンバ、其ノ倫理實踐ノ能力ハ完全ナリト雖モ、尙小德タルコトヲ免レズ。

然レドモ縦ヒ小德ナルモ、不德ニシテ大事ヲ爲スニハ勝ルコト萬萬ナリ。

武王未受命、周公成文武之德。

周公成文武之德トハ、周公能ク文王武王ノ倫理實踐ノ能力ヲ承繼シテ、治國ノ大道ヲ完成シタリトナリ。然レドモ武王ノ紂王ヲ伐チテ、其ノ國家ヲ奪ヒテ之ニ代リタルハ、實ニ伯夷叔齊ノ言ヘル如ク、暴ヲ以テ暴ニ易ヘタルナリ。之ヲモ受命ト謂フベクンバ、盜跖ノ類モ亦受命ト謂ツベシ。而シテ周公實ニ助ケテ之ヲ成セリ。何ゾ成文武之德ト謂フベケンヤ。但シ此ノ缺點ヲ除キテ視レバ、周公成文武之德ト謂フモ不可ナカルベシ。爲政在レ人。取レ人以レ身。脩レ身以レ道。脩道以レ仁。修身ノ事ハ即チ倫理ノ實踐ナリ。故ニ曰ハク、脩身以レ道ト。而シテ倫理實踐ノ要ハ仁愛ヲ全ウスルニ在リ。故ニ曰ハク、脩道以レ仁ト。

脩身則道立。

身ヲ脩ムルニ道ヲ以テス。故ニ曰ハク、脩身則道立ト。道立トハ、倫理ノ實踐ガ完全ニ成立スルヲ言フ。是レ亦自天子以至於庶人、壹是皆以脩身爲本トスル所以ナリ。在下位ニ不獲乎上、民不可得而治矣。獲乎上有道。不信乎朋友、不獲乎上矣。

信乎朋友有道。不順乎親、不信乎朋友矣。順乎親有道。反諸身不誠、不順乎親矣。誠身有道。不明乎善、不誠乎身矣。

治民上ニ於ケル倫理ノ實踐ニシテ足ラズト雖モ、下位ニ在リテハ、上ニ任用セラル、コトヲ爲スハ、其ノ第一要項ナリ。其ノ上ニ任用セラル、コトニ於ケル倫理ノ實踐ハ、獨リ朋友ニ信用セラル、コトヲ爲スベキノミニ止ラズト雖モ、朋友ニ信用セラル、コトヲ爲スハ、上ニ任用セラル、コトニ於ケル倫理實踐上ノ要項ナリ。其ノ朋友ニ信用セラル、コトニ於ケル倫理ノ實踐ハ、獨リ親ニ順ナルコトヲ爲スベキノミニ止ラズト雖モ、親ニ順ナルコトヲ爲スハ、朋友ニ信用セラル、コトニ於ケル倫理實踐上ノ要項ナリ。而シテ親ニ順ナルコトニ於ケル倫理實踐上ノ要項ハ、其ノ身ノ行ヲ誠ナラシムルニ在リ。其ノ身ノ行ヲ誠ナラシムルコトニ於ケル倫理實踐上ノ要項ハ、善ヲ明知スルニ在リ。是レ本文ノ意ナリ。

誠者天之道也。誠之者人之道也。誠者不勉而中、不思而得、從容中道。聖人也。誠之者擇善而固執之者也。

誠トハ自然的ニ倫理ノ實踐セラル、コトナリ。故ニ曰ハク、誠者天之道也。誠者不勉而中、不_レ思而得、從容中_レ道。聖人也ト。而シテ其ノ自然的ニ倫理ノ實踐シ得ラル、ニ至ラシムルハ、人能ク勉強シテ倫理ヲ實踐スルニ由ル。故ニ曰ハク、誠之者人之道也。誠之者擇_レ善而固執_レ之者也ト。至誠之道可_ニ以前知_一。

至誠ノ倫理實踐、即チ至誠ノ合倫理的心術言行ハ、何事モ能ク前知シ得ベシトナリ。誠者自成也。而道自道也。

誠ハ勉強セズシテ自然ニ倫理ノ實踐ヲ成スナリ。道ハ勉強シテ自分ヲ倫理ノ實踐ニ道クナリ

大哉聖人之道。洋洋乎發育萬物、峻極_レ于天。

聖人ノ倫理實踐ニ於ケルヤ、其ノ功果此ノ如ク大ナリ。

苟不_ニ至德_一、至道不_レ凝焉。

至大ナル倫理實踐ノ能力ナラズンバ、至大ナル倫理實踐ノ事業成ラズトナリ。

君子尊_ニ德性_一、而道_ニ問學_一。

眞ノ紳士ハ己ニ有スル倫理實踐ノ能力ヲ尊重シテ、之ヲ發達センガ爲ニ倫理ヲ實踐シ、

而シテ尙且之ヲ人ニ問ヒ、人ニ學ブコトニ道フトナリ。是レ眞ニ能ク自尊シ、又眞ニ能ク自卑スルモノト謂ツベシ。

恐而好ニ自用、賤而好ニ自尊、生乎今之世、反古之道、如此者、裁及其身ニ者也。

生乎今之世、反古之道トハ、倫理ハ時ト處ト位トノ三者ノ移易スルニ隨ツテ異ルモノナルニ之ヲ知ラズシテ、今世ニ生レナガラ、徒ニ古代ノ倫理實踐上ノ事ニ反リ從フトナリ。

君子動、而世爲天下道。

此ニ稱スル道ハ模範ノ意ヲ兼ネテ言ヘリ。即チ君子ノ動作ハ世々天下諸人ノ倫理實踐上ノ模範ト爲ルトナリ。

君子之道闡然而日章。小人之道の然而日亡。君子之道淡而不厭、簡而文、溫而理、知之近、知風之自、知微之顯。可與入德。

君子ノ倫理ヲ實踐スルヤ、眞實餘リアリテ、人ニ示サントスル所ナキヲ以テ、其ノ善迹隱微ニシテ聞然タルモ、而モ日ニ自ラ章顯ス。小人ノ倫理ヲ實踐スルヤ、眞實足ラズシテ、人ニ示サントスル所アルヲ以テ、其ノ善迹鮮明ニシテ的然タルモ、而モ日ニ自ラ亡

滅ス。何ヲ以テ亡滅スルカ。眞實足ラザルガ故ニ、其ノ倫理ノ實踐繼續セザレバナリ。何ヲ以テ章顯スルカ。眞實餘リアルガ故ニ、其ノ倫理ノ實踐繼續スレバナリ。

右中庸ヨリ引ク

君子務本。本立而道生。孝弟也者、其爲仁之本與。

萬事根本立テテ後ニ生成ス。倫理實踐モ亦然リ。故ニ曰ハク、本立而道生ト。

慎終追遠、民德歸厚矣。

慎終追遠ハ倫理ノ實踐即チ人道ナリ。聞見スル者其ノ倫理ノ實踐ニ感化ス。倫理ノ實踐ニ感化スレバ、其ノ倫理實踐ノ能力啓發シテ、其ノ能力厚重ト爲ル。而シテ此ノ能力即チ德ナルガ故ニ曰ハク、民德歸厚矣ト。

父在觀其志、父沒觀其行、三年無改於父之道、可謂孝矣。

此ニ稱スル所ノ道ハ、唯父ノ爲シ來リタル事トノ意ニシテ、他ノ場合ニ稱スルモノト同シカラズ。

禮之用和爲貴。先王之道斯爲美、小大由之。有所不行、知和而和、不以禮節之、亦不可行也。

禮ハ義中ノ一種特別ナル義ニシテ亦倫理ナリ。故ニ朱子曰ハク、禮者天理之節文、人事之儀則也ト。所謂經禮三百、曲禮三千ハ、此ノ天理之節文、人事之儀則中ヨリ抽出制定セルモノニシテ、猶ホ倫理中ヨリ抽出シテ法律ヲ制定セルガ如シ。是ヲ以テ制定シタル禮ニシテ、時世ニ適當セザルモノハ、猶ホ時世ニ適當セザル法律ノ如ク害アリテ、不法ノ法ト相并ベテ非禮ノ禮ト謂フモ不可ナシ。夫レ此ノ如ク禮モ亦一種ノ義、即チ一種ノ倫理ナルガ故ニ、禮之用和爲貴。先王之道斯爲美、小大由之トハ、倫理中ナル禮ノ應用即チ實踐ハ、和ヲ貴シトスルヲ以テ、先王ノ之ヲ實踐スルヤ、斯ノ和ヲ美トシテ、小禮大禮、事皆斯ノ和ニ率由セリトナリ。

爲レ政以レ德、譬如北辰居其所而衆星共之。

倫理實踐ノ能力ノ爲政上ニ於ケル價值ヲ言ヘルナリ。

道レ之以レ政、齊レ之以レ刑、民免而無レ恥。道レ之以レ德、齊レ之以レ禮、有レ恥且格。

何ノ國カ政刑ナカラン。何ノ世カ政刑ナカラン。政刑ハ國家ニ必要ナリ。然レドモ唯、民ヲ導クニ政ヲ以テシ、之ヲ齊フルニ刑ヲ以テスルノミニテハ、民其ノ法ヲ免ル、ヲ以テ賢トシテ、無道不德ヲ恥デザルニ至ル。若シ此ノ政刑ニ先チテ、之ヲ導クニ何人モ有スル

倫理實踐ノ能力ヲ以テシテ、之ヲ齊フルニ何人モ感應スル倫理中ノ禮儀ヲ以テセバ、民隨ツテ其ノ無道不德ヲ恥ヂテ、且正格ナルニ至ルトナリ。

儀封人請見曰、君子之至レ於斯也、吾未嘗不レ得レ見也。從者見之。出曰、二三子何患レ於喪乎。天下之無道也久矣。天將以レ夫子爲木鐸_ト乎。

天下之無道也久矣。天將以レ夫子爲木鐸トハ、天下ニ於ケル一般人が倫理ノ實踐ヲ爲スナキコト久シ。此ノ故ニ天ハ今孔子ヲ以テ木鐸ト爲シテ諸人ヲ導キ、天下ニ倫理ノ實踐盛ナルニ至ラシメントストナリ。

富與貴是人之所レ欲也。不レ以レ其道、得レ之レ不レ處也。貧與賤是人之所レ惡也。不レ以レ其道、得レ之レ不レ去也。君子去レ仁、惡乎成名。君子無レ終食之間違レ仁。造次必於レ是。顛沛必於レ是。

不レ以レ其道、得レ之レ不レ處也。不レ以レ其道、得レ之レ不レ去也トハ富貴ノ位置ヲ得テモ、之ニ處ルニ其ノ倫理實踐ノ事ニ違ハザルヲ得ザル時ハ、之ヲ去リテ之ニ處ラズ。又貧賤ノ位置ヲ得ルモ之ヲ去ルニ其ノ倫理實踐ノ事ニ違ハザルヲ得ザル時ハ、之ニ處テ之ヲ去ラズトナリ。

朝聞レ道、夕死可矣。

是ハ完全明確ニ倫理實踐ノ事ヲ知ラント欲スル切望ノ意ヲ表見シタルナリ。
士志於道、而恥惡衣惡食者、未足與議也。

志於道トハ倫理ノ實踐ニ志スナリ。

君子懷德。

君子ハ倫理實踐ノ能力ヲ尊ブガ故ニ、其ノ能力ヲ存養スルコトヲ思念スルナリ。是レ君子尊ニ德性ト言異ニシテ意ハ同シ。

道不行、乘桴浮于海。

是レ倫理實踐ノ事行ハレザルヲ嘆息シタルナリ。

子謂子産、有君子之道四焉。其行已也恭。其事上也敬。其養民也惠。其使民也義。

子産有君子之道四焉トハ、下ニ陳ブルガ如キ君子ノ君子タル倫理實踐ノ事四アリトナリ。使民也義トノ義ハ、義務ノ意ニ非ズシテ適宜ノ意ナリ。

齊武子邦有道則知。邦無道則愚。其知可及也。其愚不可及也。

邦有道則知。邦無道則愚トハ、邦ニ倫理實踐セラル、コトアル時ハ知者ト爲リ、邦ニ倫理實踐セラル、コトナキ時ハ愚者ト爲リ居ルコトナリ。

冉求曰、非不説子之道、力不足也。子曰、力不足者、中道而廢。今女畫。

非不説子之道トハ、先生ノ教ヘラル、倫理ノ實踐ヲ悦バザルニハ非ズトナリ。

誰能出不由戶。何莫由斯道也。

人皆室ヲ出ヅルニハ、其ノ戸ニ由ラザルハナシ。何事モ此ノ如ク其レ相應ノ方法アリ。

人ノ人タル欲望ヲ満足セントスルニハ、其ノ取ルベキ方法ハ、唯、合倫理的心術言行、即チ倫理實踐ノ事アルノミナルニ、何故ニ斯ノ方法ニ由ラザルカトノ意ナリ。

中庸之爲德也、其至矣乎。民鮮久矣。

中庸ノ書第二章ニ云フ、君子之中庸也、君子而時中ト。朱子曰ハク、中者、不偏不倚、無過不及之名。庸、平常也ト。夫レ偏倚セズ、又過不及ナシトハ、何ヲ標準トシテ、何が偏倚セズ、又過不及ナシト言フカ。是レ倫理ヲ標準トシテ人ノ心術言行ガ偏倚セズ、又過不及ナキコトニ外ナラズ。即チ倫理ノ實踐ナリ。而シテ倫理ノ實踐ハ即チ人道ナルガ故ニ、中ハ人道ニシテ、中ストハ人道ヲ全ウスルコトナリ。而シテ時中ストハ日夜一切ノ事ニ於テ倫理ヲ實踐シ、人道ヲ全ウシテ易ラザルコトナリ。此ノ易ラザルコト即チ平常ニシテ庸ナリ。故ニ中庸ハ完全ナル人道、即チ倫理實踐ノ完全ナルモノナリ。是ニ

由リテ之ヲ觀レバ、中庸之爲レ德也トハ、完全ニ倫理ヲ實踐スル能力ハトノ意ナリ。
志レ於レ道、據レ於レ德。

志レ於レ道トハ倫理ノ實踐ニ志スナリ。據レ於レ德トハ倫理實踐ノ能力ニ據ルナリ。
任重而道遠。

此ノ道ハ前途ナリ。道德ノ道ニ非ズ。

篤信好學、守死善道。危邦不入。亂邦不居。天下有道則見。無道則隱。邦有道貧且賤焉
恥也。邦無道富且貴焉恥也。

守死善道ノ四字ハ、守リテ死ストモ道ヲ善クスト讀ムベシ。即チ倫理實踐ノ事ヲ守リテ、
縦ヒ之ガ爲ニ死ストモ、其ノ事ヲ善クストノ意ナリ。有道無道ハ前ニ説キタルニ同シ。
可ニ與共學、未可ニ與適道。可ニ與適道、未可ニ與立。可ニ與立、未可ニ與權。

此ニ人アリ、其ノ人ヤ之ト共ニ倫理實踐ノ事ヲ學ブニ足ルベキモ、未ダ必ズシモ之ト倫
理實踐ノ事ニ適從スベカラズ。又之ト倫理實踐ノ事ニ適從スベキモ、未ダ必ズシモ之ト
倫理實踐上ニ立チテ離ル、コトナキヲ期スベカラズ。又之ト倫理實踐上ニ立チテ離ル、
コトナキヲ期スベキモ、未ダ必ズシモ常例ト異リタル變態ノ事起リタル時、之ト共ニ其

ノ輕重ヲ權リテ常例ニ反シ、變態ニ相應スル倫理實踐ノ事ヲ爲スベカラズトナリ。

子張問善人之道。子曰、不踐迹。亦不入於室。

此ニ稱スル善人ノ善ハ、中庸等ニ稱スル善ト同シカラズシテ、好人物ト稱スル好ノ字ニ
當ル。故ニ問善人之道トハ、好人物ト稱スベキ人ノ倫理ヲ實踐スル狀態如何ヲ問ヘリ
ト言フコトナリ。

所謂大臣者以道事君。不可則止。

大臣ノ大臣タル名ニ相當スル其ノ大臣ハ、大臣ノ大臣タル倫理ヲ實踐シテ君ニ事ヘ、其
ノ事行フベカラザル時ハ、其ノ責ヲ引キテ辭職ス。是レ不以其道、得レ之不處也ニ當ル
モノナリ。

子張問崇德辨惑。子曰、主忠信、徙義、崇德也。愛之欲其生、惡之欲其死。既欲其
生、又欲其死、是惑也。

主ニ忠信ニ徙レ義、崇レ德也トハ、問崇德ニ答ヘタルナリ。夫レ體力ヲ增加スル要項ハ、自
ラ其ノ體力ヲ適當ニ使用スルニ在リ。之ト同シク、倫理實踐ノ能力ヲ發達スル要項ハ、
亦自ラ其ノ能力ヲ適當ニ使用スルニ在リ。其ノ能力ヲ適當ニ使用スルコトハ、即チ倫理

ノ實踐ナリ。所謂徒ノ義ノ義ハ倫理ニシテ、徒ノ義トハ其ノ過ヲ改メテ倫理ニ從フコトナルガ故ニ、徒ノ義ハ即チ倫理ノ實踐ニシテ、倫理實踐ノ能力ヲ發達スル要項ハ亦徒ノ義ニ在リトモ謂フベキナリ。但シ倫理ノ實踐ニハ無論忠信之ガ本トナラザルベカラズ。而シテ倫理實踐ノ能力ヲ發達スルハ即チ德ヲ崇クスルコトナルガ故ニ、主ニ忠信ニ徒ノ義、崇ノ德也ト曰ヘルナリ。

季康子問ニ政於孔子曰、如殺ニ無道、以就ニ有道、何如。孔子對曰、子爲ニ政焉用ニ殺。子欲ニ善、而民善矣。君子之德風、小人之德艸、艸上ニ之風ニ必偃。

善ハ道德ノ形容詞ナリ。故ニ子欲ニ善、而民善矣トハ、季康子ガ其ノ倫理實踐ノ能力ニ據リテ、其ノ倫理實踐ニ志セバ民之ニ應ジテ亦其ノ倫理實踐ノ能力ニ據リテ、其ノ倫理實踐ニ志スニ至ルベシ。何トナレバ、君子ニ於ケル倫理實踐ノ能力ハ風ノ如シ、小人ニ於ケル倫理實踐ノ能力ハ艸ノ如シ。艸ニ風ヲ上フレバ艸必ズ偃スルガ如ク、小人皆君子ノ爲ス所ニ從ヘバナリ。又何ゾ倫理ヲ實踐スルコトナキ無道ナル者アラシヤ。皆能ク倫理ヲ實踐スルコトアル有道ナル者トナルベシ。隨ツテ子ガ政ヲ爲スニ焉ゾ殺ヲ用ヒンヤトノ意ナリ。

樊遲從遊於舞雩之下曰、敢問ニ崇ノ德修ニ惡辨ニ惑。子曰。善哉問。先ニ事後得、非ニ崇ノ德與。攻ニ其惡、無ニ攻ニ人之惡、非ニ修ニ惡與。一朝之忿忘ニ其身、以及ニ其親、非ニ惑與。

子張ノ問ニ答ヘラレタル主ニ忠信ニ徒ノ義ハ、崇德上之ニ加フベキモノナシ。此ノ先ニ事後得ハ崇德中ノ一事ニシテ、獨リ是ノミニ限ラザルナリ。但シ崇德ノ語義ハ彼此相同ジ。不レ恒ニ其德、或承ニ之羞。

不レ恒ニ其德トハ、倫理實踐ノ能力ヲ失ヒテ、倫理ヲ實踐セザルコトアルヲ言フ。憲問ノ恥。子曰、邦有レ道殺、邦無レ道殺、恥也。

邦ニ倫理實踐ノ事採用セラル、コト有ルニ、徒ニ官祿ヲ食スルノミニシテ爲スコト能ハザルハ恥ナリ。又邦ニ倫理實踐ノ事採用セラル、コト無キニ、徒ニ官祿ヲ食シテ辭スルコト能ハザルハ恥ナリト。

邦有レ道、危レ言危レ行。邦無レ道、危レ行言孫。

邦ニ倫理實踐ノ事一般ニ行ハル、時ニハ言ヲ峻クシ行ヲ峻クセヨ。之ニ反スル時ニハ行ヲ峻クシ言ハ卑順ナレトナリ。

有レ德者必有レ言。有レ言者不ニ必有レ德。仁者必有レ勇。勇者不ニ必有レ仁。

有徳者トハ、倫理實踐ノ能力ヲ有スルモノハトナリ。

君子道者三。我無能焉。仁者不愛。知者不惑。勇者不懼。

不愛ハ情感ノ安泰ナリ。不惑ハ智識ノ精明ナリ。不懼ハ意志ノ剛毅ナリ。是レ仁徳知徳

勇徳養成ノ結果ニシテ、之ヲ人道即チ倫理ノ實踐ト謂フベカラズ。但シ其ノ徳ヲ養フテ

此ニ至ラシムルハ倫理ノ實踐即チ人道ナリ。故ニ此ノ如ク言ヘルカ。

驥不稱其力。稱其徳也。

此ノ徳ハ驥ノ徳ナレバ、人ニ於ケル道德ノ徳ト同視スベカラズ。

或曰、以徳報怨何如。子曰、何以報徳。以直報怨、以徳報徳。

此ノ徳ハ恩惠ナリ。

巧言亂徳。

巧言トハ是非得失、正邪善惡ヲ轉倒シテ、人ヲシテ適當ラシク思ハシムル言ナリ。故ニ

巧言ハ人ノ精神ニ在ル倫理實踐ノ能力ヲ攪亂シテ、其ノ倫理實踐ノ事ヲ誤ラシムルナリ

人能弘道。非道弘人。

人ノ人タル所トシテ禽獸ト區別シテ觀ルベキ所ハ、倫理實踐ノ能力即チ徳性アルニ由ル。

故ニ人能弘道ト言ヘバ、此ノ人ニ於ケル倫理實踐ノ能力ガ能ク人道即チ倫理ノ實踐ヲ擴

充スルコトニ當ルヲ以テ、吾其ノ言意ニ通ズ。然レドモ倫理ノ實踐即チ人道ヲ擴充スル

ニ隨ツテ、倫理實踐ノ能力即チ徳性ヲ發達スルガ故ニ、道モ亦人ヲ弘ムト謂ツベシ。而

ルニ非道弘人ト言ヘルニ於テハ、其ノ言意解シ難キナリ。朱子此ニ於ケル人ト道トノ

關係ヲ解キテ曰ハク、人外無道、道外無人ト。是レ徳外無道、道外無徳ト曰フニ同ジ。

何トナレバ、人ノ人タル所以ハ、唯、其ノ徳ニ於テ之ヲ見ルノミナレバナリ。而シテ徳ハ

道ノ體、道ハ徳ノ用ニシテ、道體徳用相待チテ、循環的ニ相弘ムルハ事實ニ非ザルカ。

若シ然ラズンバ、何ニ由リテ徳ヲ發達シ、何ニ由リテ人ヲ完成スルカ。或人曰ハク、道

體即チ徳ハ初ヨリ完成セリ。是ヲ以テ非道弘人ト言ヘルナリト。果シテ然ラバ、徳用

即チ道モ亦初ヨリ完成セリト言ハザルヲ得ザルベシ。何ゾ獨リ人能弘道ト言フベケンヤ

非カ。

師冕見及階。子曰、階也。及席。子曰、席也。皆坐。子告之曰、某在斯。某在斯。師冕出。

子張問曰、與師言之道與。子曰、然。固相師之道也。

師ハ樂師ナリ。冕ハ其ノ名ナリ。當時ノ樂師ハ尊者ナル故ニ、此ニ稱スル道ハ音樂師ニ

對スル道トシテ視ルベキナリ。與レ師言之道與トハ、音樂師ニ對スル倫理ノ實踐カニ同ジ。固相レ師之道也トハ、固ヨリ音樂師ヲ相クル事ニ於ケル倫理ノ實踐ナリニ同ジ。道不レ同不レ相爲謀。

朱子曰ハク、不レ同、如レ善惡邪正之類ト。不同ノ言意果シテ然ルカ。然レドモ人道ニ邪道惡道ト稱スベキコトナキハ既ニ辯シタルガ如キヲ以テ、之ヲ此ノ如ク釋クベカラズ。蓋シ同一ノ事件ニ於テ、之ニ對スル倫理ノ實踐ニ甲乙相反對スベキコトアリ。是レ道不レ同ナリ。此ノ時ニ當リテ、其ノ事件ニ就キテ、甲ハ乙ノ爲ニ謀ラズ、乙ハ甲ノ爲ニ謀ラザルヲ義ト爲ス。是レ不レ相爲謀ト曰ヘル所以ナリ。

遠人不レ服、則脩ニ文德、以來レ之。

文德トハ文事上ニ於ケル倫理實踐ノ能力ナリ。

隱居以求ニ其志、行レ義以達ニ其道。吾聞ニ其語ニ矣。未レ見ニ其人ニ也。

行レ義以達ニ其道トハ、倫理ヲ實踐シテ、以テ其ノ倫理ノ實踐ヲ全ウスト言フニ同ジ。

君子學レ道、則愛レ人。小人學レ道、則易レ使也。

學レ道トハ、倫理實踐上ノ事ヲ學ブナリ。

鄉愿德之賊也。

鄉愿ハ倫理實踐ニ似テ非ナルコトヲ爲シ、人ヲシテ倫理實踐ト誤解セシムルコトアルガ

故ニ、倫理實踐ノ能力ヲ賊スルヲ以テ、此ノ如ク言ヘルナリ。

道聽而途說、德之棄也。

德之棄也トハ、倫理實踐ノ能力ヲ蓄積セザルコトナリ。

執レ德不レ弘、信レ道不レ篤、焉能爲レ有。焉能爲レ亡。

執レ德不レ弘トハ、倫理實踐ノ能力修養ノ範圍狹キヲ言フ。信レ道不レ篤トハ、倫理實踐上

ノ信念堅固ナラザルヲ言フ。

雖ニ小道、必有ニ可レ觀者ニ焉。致レ遠恐泥。是以君子不レ爲也。

此ノ小道トハ小技ヲ指シタルナリ。道德ノ道ニ非ズ。

百工居レ肆、以成ニ其事。君子學以致ニ其道。

致ニ其道トハ、君子ノ君子タル倫理ノ實踐ヲ致ストナリ。

大德不レ踰レ閑。小德出入可也。

朱子曰ハク、大德小德猶レ言ニ大節小節ト。然リ、中庸等ニ云ヘル大德小德ト同ジカラズ

吳氏曰ハク、此章之言不能無弊學者詳之ト。然リ、必ズ弊アラン。

右論語ヨリ引ク

夫レ人ノ道ハ倫理ノ實踐ニシテ、人ノ徳ハ倫理實踐ノ能力ナルコトハ、其ノ定義ノ説ニ於テ既ニ其ノ説ヲ盡セリ。今學府論語ノ三書ニ就キテ之ヲ徵スルニ、一皆當ラザルナキコト實ニ此ノ如シ。而ルニ倫理ト人道トヲ同視シ、甚ダシキハ倫理ト道德トヲ同視スルモノアルハ、誠ニ斯ノ理ト、斯ノ道ト、斯ノ徳トノ明ナラザル所以ナリ。嗚呼、此ノ如クバ何ヲ以テ道德思想ノ基礎堅固ナランヤ。古人多クハ倫理ナル語ヲ用ヒズ。倫理ナル語ハ近來我が國ニ於テ多ク之ヲロニスルニ至リタルノミ。隨ツテ古人ハ明ニ倫理ナルモノヲ知ラザルニ似タリト雖モ、決シテ然ラズ。其ノ之ヲ知ルコト明ナリト雖モ、之ヲ稱スルニ、倫理ナル語ヲ以テセズシテ、概ネ義ト禮トヲ以テセリ。禮義ハ古人之ヲ常言トセルコト、猶ホ今人ガ法律倫理ヲ以テ其ノ常言ト爲スガ如シ。古人豈倫理ヲ明知セザランヤ。學、府、論語中ニ於ケル道ト徳トヲ解スルニ、倫理ノ實踐ト倫理實踐ノ能力トヲ以テシテ、毫モ悞悟ナキニ由リテ視ルモ亦之ヲ證スルニ足ル。凡ソ徒ニ字學語學ヲ爲シテ、名ヲ正サズ實ヲ明ニセザルノ弊ハ時世ノ變遷ト共ニ、其ノ實ハ同ジキモ其ノ名ヲ異ニシテ、異ル文字言語ヲ

用ヒタルヲ見ル時ハ、往往其ノ實ヲモ異ニスト思ヒテ思想ヲ混亂ス。而シテ思想混亂スルヤ。倫理道德ノ如キ三大區別アルモノヲモ同視シテ、遂ニ斯致ノ異同ヲ攪亂スルニ至ル。是レ學バザルト何ゾ擇バン。

第十章 道德ト倫理

既説ノ如ク、倫理ハ人ノ心術言行ニ對スル天然ノ規範的法則ニシテ、人ヲシテ之ニ率ヒ、社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ致サシメンガ爲ニ存在セルモノニシテ、人ノ當ニ實踐スベキ條目ナリ。常則四種、變則四種ノ八大別アルニ過キザルモ、之ヲ舒ブレバ、人ノ身分ノ異ルニ隨ツテ千種萬別ノ分限、即チ本分ト爲ル。而モ之ヲ卷ケバ、權利義務ノ二大目ニ歸シ、更ニ之ヲ卷ケバ、義務即チ義ノ一字ニ藏ル。故ニ倫理即義務、義務即倫理ナリ。孟子之ヲ理義ト曰ヒ、或ハ單ニ理ト曰ヒ、或ハ單ニ義ト曰ヘルハ、能ク倫理ト義務ト名異ニシテ、實同ジキコトヲ認メタリト謂ツベシ。

然レドモ孟子ハ又單ニ義ト曰ヒテ、或ハ義心ヲ指シ、或ハ義行ヲ稱セリ。而シテ告子ガ倫理義務即チ理義ノ意ヲ以テ、義外非内説ヲ唱ヘタルヲ反駁スルニ、義心ノ義ノ意ヲ以テシ

テ、義内非外ト爲セリ。所謂外ハ精神外ニシテ、内ハ精神内ナリ。孟子ガ義字ヲ以テ理義ト義心ト義行トニ用シタルハ可ナリト雖モ、告子ガ理義ノ意ヲ以テ義外也非内也ト言ヒシニ對シテ、孟子ガ唯、義心ノ意ヲ以テ義内説ヲ立テ、之ヲ駁シ、遂ニ人ヲシテ告子ノ義外説ヲ全然否認スルニ至ラシメタルハ、亦孟子ノ缺點ナリ。

夫レ理義即チ倫理ハ、人ノ心術言行ニ對スル天然ノ規範的法則ニシテ、人ヲシテ之ニ率ヒ、社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ致サシメンガ爲ニ存在セルモノニシテ、人ノ當ニ實踐スベキ條目ナルガ故ニ、之ヲ實踐スルモノハ固ヨリ精神内ニ在リト雖モ、此ノ條目ハ精神外ニ在リ。告子能ク之ヲ觀シニ似タルモ、論ジテ正確ナラズ、語リテ精密ナラザリシハ惜ムベシ。

抑、天然ガ人類社會ニ、此ノ倫理ヲ人ノ心術言行ニ對スル規範的法則トシテ設立シタルハ、又天然ガ人ニ德即チ人ノ精神内ニ倫理實踐ノ能力ヲ賦與セル所以ニシテ、斯德アルガ爲ニ倫理アリ、倫理アルガ爲ニ斯德アリテ、内外相待チテ、人道即チ倫理實踐ナルモノアルナリ。故ニ人道ヲ失フトハ、斯德ヲ賊シテ倫理ヲ犯スヲ言ヒ、倫理ヲ犯ストハ、人道ヲ失ヒテ斯德ヲ賊スルヲ言ヒ、斯德ヲ賊ストハ倫理ヲ犯シテ人道ヲ失フヲ言フ。道德ト倫理トノ關係

此ノ如シ。是レ實ニ倫理道德ヲ學ブ者ガ、内ニ對シテ斯德ヲ思ヒ、外ニ向ツテ倫理ヲ思ヒ、而シテ其ノ天然ヲ畏敬シテ人道ヲ尊重スル所以ナリ。

第十一章 道德ノ四面觀

人ノ道ハ倫理ノ實踐ニシテ、人ノ德ハ倫理實踐ノ能力ナリ。而シテ世ノ道德ヲ説ク者、四端ノ方面ヨリ之ヲ言フ。即チ一ハ位置上ヨリ言ヒ、一ハ事柄上ヨリ言ヒ、一ハ形容上ヨリ言ヒ、一ハ本旨上ヨリ言フ。例ヘバ君君、臣臣、父父、子子、タレノ如キハ、位置上ヨリ言ヘルナリ。克己、復禮、反省、改過ノ如キハ、事柄上ヨリ言ヘルナリ。溫和、剛毅、弘量、機敏ノ如キハ、形容上ヨリ言ヘルナリ。良心、仁愛、禪定、信仰ノ如キハ、本旨上ヨリ言ヘルナリ。

第一 位置上ヨリ見タル所ノ道德觀

道ハ一ノミ。即チ倫理ノ實踐ナリ。德モ一ノミ。即チ倫理實踐ノ能力ナリ。然レドモ人人各自ノ位置ニ變化ヲ生ズルト同時ニ、其ノ實踐スベキ倫理ニモ異同ヲ生ズルモノナルヲ以テ、此ノ點ヨリ之ヲ視レバ、倫理ノ實踐即チ人道ノ状態ニ千變萬化アリト爲ス。隨ツテ倫

理實踐ノ能力即チ人徳ノ状態モ亦一様ニ見エヘザルナリ。君道、君徳、父道、父徳ト曰フガ如キ各種ノ名稱ヲ生ズルハ之ニ基ク。先ヅ人道ニ就キテ其ノ凡例ヲ擧グレバ、即チ左ノ如シ。

- 一、君主トシテハ君主トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、臣民トシテハ臣民トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、父母トシテハ父母トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、子女トシテハ子女トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、夫婦トシテハ夫婦トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、婦妻トシテハ婦妻トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、兄弟トシテハ兄弟トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、弟妹トシテハ弟妹トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、朋友トシテハ朋友トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。
- 一、伴侶トシテハ伴侶トシテノ倫理ヲ實踐スルコト。

右凡例十則ハ位置上ヨリ稱スル所ノ人道ニシテ、其ノ能ク之ヲ實踐スル能力ハ人ノ徳ナリ。

農夫トシテノ徳、職工トシテノ徳、商賈トシテノ徳、官吏軍人トシテノ徳ト言フガ如キハ、皆各、其ノ位置ニ於ケル道ヲ全ウスル所ノ能力ナリ。又如何ナル人ニテモ、常ニ同一ノ位置ニ在ル者ナシ。例ヘバ父母ハ其ノ子女ニ對シテ父母タルノミ。其ノ他ニ對シテハ復父母ニ非ズ。子女ハ其ノ父母ニ對シテ子女タルノミ。其ノ他ニ對シテハ復子女ニ非ズ。故ニ子女ニシテ子女ノ道ヲ保チ徳ヲ全ウシ、父母ニシテ父母ノ道ヲ保チ徳ヲ全ウシタリトテ、未ダ人ノ人タル道ヲ保チ徳ヲ全ウシタルモノト謂フベカラズ。是ヲ以テ、人ハ常ニ其ノ位置ノ變化ヲ知ルヲ要ス。倫理ハ人ノ心術言行ニ對スル規範的天則ニシテ、天然ガ人ヲシテ之ニ率ヒ、社會各人全體ノ福祉ヲ致サシメンガ爲ニ社會ニ之アラシムル者ニシテ、人ノ當ニ實踐スベキ條目タルコト、及ビ之ヲ大別スレバ義務權利ノ二者ナル事ハ、既ニ屢述ベタルガ如シ。而シテ其ノ義務及ビ權利ハ、要スルニ人々各自ノ實踐スベキ分限ナル事モ、既ニ述ベタル如キモノナルガ故ニ、所謂條目ハ人々各自ノ位置ニ於ケル分限、即チ本分ナリ。隨ツテ倫理ノ實踐之ヲ人ノ道ト謂ヒ、倫理實踐ノ能力之ヲ人ノ徳ト謂フモ、換言セバ、道ハ本分ノ實踐ニシテ、徳ハ本分實踐ノ能力トモ謂フベキナリ。是ヲ以テ人道ノ凡例トシテ、前ニ列擧シタル十則ヲ換言セバ左ノ如シ。而シテ人ノ徳ハ即チ其ノ能力ナリト謂ツベシ。

- 一、君主ハ君主ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、臣民ハ臣民ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、父母ハ父母ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、子女ハ子女ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、夫婦ハ夫婦ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、婦妻ハ婦妻ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、兄弟ハ兄弟ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、弟妹ハ弟妹ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、朋友ハ朋友ノ本分ヲ盡スコト。
- 一、伴侶ハ伴侶ノ本分ヲ盡スコト。

君主ガ君主ノ本分ヲ盡スハ、其ノ臣民ノ爲ニ之ヲ盡スナリト曰ヒ、臣民ガ臣民ノ本分ヲ盡スハ、其ノ君國ノ爲ニ之ヲ盡スナリト曰フガ如キハ、位置上ヨリ見テ稱スル所ノ普通ナル道德說ナリト雖モ、君主ノ本分ヲ盡スヲ以テ、獨リ其ノ臣民ノ爲ノミニ其ノ本分ヲ盡スベキモノト謂フベカラズ。臣民ノ本分ヲ盡スモ、亦獨リ其ノ君國ノ爲ノミニ其ノ本分ヲ盡ス

ベキモノト謂フベカラズ。父母ノ本分ヲ盡シ、子女ノ本分ヲ盡シ、夫婦ノ本分ヲ盡シ、婦妻ノ本分ヲ盡スモ、兄弟ハ兄弟タリ、弟妹ハ弟妹タリ、朋友伴侶ハ朋友伴侶タリ、以テ各、其ノ本分ヲ盡スモ、獨リ父母ノ爲、子女ノ爲、或ハ舅姑夫婦兄弟姊妹朋友伴侶等ノ爲ノミニ其ノ本分ヲ盡スベキモノト謂フベカラズ。夫レ本分ハ倫理ナリ。而シテ倫理ハ人類社會全體ノ福祉ヲ保有増進センガ爲ニ守ルベキモノナルヲ以テ、君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友等ヨリ、其ノ他其ノ位置ニ於ケル本分ヲ盡スコトハ、皆社會全體ノ福祉ニ一致スルコトナラザルヲ得ズ。故ニ君父ガ君父ノ本分ヲ盡スモ、臣子ガ臣子ノ本分ヲ盡スモ、其ノ君臣父子ノ福祉ヲ計ルト同時ニ、社會全體ノ福祉ヲ計ルガ爲ニ其ノ本分ヲ盡スベキモノト謂ハザルヲ得ズ。彼ノ直接ナル對者ノ爲ノミニ其ノ本分ヲ盡スベキモノト思ヘルハ誤謬ナリ。君臣父子ノ如キ特殊ノ大關係アル相互間ニ於テスラ、尙此ノ如シ。況ヤ其ノ他ニ於テヤヤ。社會人倫上稱スル所ノ善ハ道德ニシテ、惡ハ不道德ナリ。而シテ位置上ヨリ見レバ、道德ノ狀態此ノ如キモノナルガ故ニ、一方ニ對スル善ハ、同時ニ百方ニ對スル善ナリ。一方ニ對スル惡ハ、同時ニ百方ニ對スル惡ナリ。世人動モスレバ、一方ニ對シテ善ナラントスレバ他方ニ對シテ惡ナルコトアリ、忠孝ノ如キモ獨リ日本ノ如キ國體ニ於テ衝突スルコトナ

キノミト曰ヘル者アルハ亦誤テリ。

其ノ二 事柄上ヨリ見タル所ノ道德觀

道ハ倫理ノ實踐ニシテ、徳ハ倫理實踐ノ能力ナルガ故ニ、道ハ徳ノ發動ニシテ、徳ハ道ノ未發ナルモノナレバ、凡ソ徳ハ道ヲ視テ始メテ知ルベキノミ。隨ツテ事柄上ヨリ道德ヲ説クハ、唯、道ヲ示シテ、徳ハ其ノ道ニ由リテ之ヲ推測セシムルニ外ナラス。左ニ其ノ凡例ヲ掲グ。以テ之ヲ徴スベキナリ。

博學審問。 慎思明辨。 學之弗能、弗措也。 問之弗知、弗措也。 思之弗得、弗措也。 辨之弗明、弗措也。 溫故知新。 知之爲知之。 不知爲不知。 多聞闕疑、慎言其餘。 多見闕殆、慎行其餘。 以能問於不能。 以多問於寡。 有若無。 實若虛。 犯而不校。 居敬而行簡。 辭達而已矣。 言顧行。 行顧言。 切磋琢磨。 慎其獨。 如臨深淵。 如履薄冰。 克己復禮。 動容貌、斯遠暴慢矣。 正顏色、斯近信矣。 已欲立而立人。 已欲達而達人。 成人之美。 不成人之惡。 尊賢而容衆。 嘉善而矜不能。 和而不同。 周而不比。 居上不驕。 爲下不倍。 敬事節用。 利用厚生。 素富貴、行乎

富貴。 素貧賤、行乎貧賤。 素夷狄、行乎夷狄。 素患難、行乎患難。 敬始慎終。 反省改過。 自責厚。 責人薄。 遇事不諫。 既往不咎。 所求乎子、以事父。 所求乎臣、以事君。 所求乎弟、以事兄。 所求乎朋友、先施之。 所惡於上、母以使下。 所惡於下、母以事上。 所惡於前、母以先後。 所惡於後、母以從前。 所惡於右、母以交於左。 所惡於左、母以交於右。 己所欲、旅諸人。 己所不欲、勿施於人。 上律天時。 下襲水土。 格物致知。 誠意正心。 脩身齊家。 治國平天下。

凡ソ此ノ如キハ、皆事柄上ヨリ稱スル所ノ道德ニシテ、之ヲ爲スハ人ノ道、即チ倫理ノ實踐ナリ。其ノ能力ハ人ノ徳、即チ倫理實踐ノ能力ナリ。夫レ此ノ徳ハ道ノ向上ニ由リテ發達シ、道ハ徳ノ發達ニ隨ツテ向上シ、徳進メバ道顯レ、道伸ブレバ徳榮ユ。

其ノ三 形容上ヨリ見タル所ノ道德觀

有形物ハ其ノ作用ヲ知ラズトモ、其ノ本體ヲ認メ得ベキモ、無形物ハ先ツ其ノ作用ヲ知ルニ非ザレバ、其ノ本體如何ヲ認ムルコト能ハズ。世人ガ無形物ニ就キテ其ノ本體如何ヲ説クモ、皆或作用ノ迹ヨリ推測シテ認定セルニ外ナラス。徳ハ人道上ノ能力、即チ倫理實踐

ノ能力ニシテ無形物ナリ。故ニ徳ヲ形容シテ明德、和徳、剛徳等ヲ口ニスルモ、畢竟人道ノ迹即チ倫理實踐ノ迹ニ就キテ其ノ能力ヲ推察シテ之ヲ稱美スル形容語タルニ過ギザレバ、徳ノ形容ハ即チ道ノ形容ナリ。故ニ余ハ之ヲ形容上ヨリ見タル所ノ道德觀ト曰フ。

柔順柔和。 溫順溫和。 溫雅溫厚。 敦厚寬厚。 寬裕厚重。 莊重沈重。 沈着堅忍。 忠實信實。 廉潔簡潔。 潔白淡泊。 恢豁濶達。 剛毅健強。 易直峭直。 素朴淳朴。 豪邁機敏。 英敏敏捷。 聰明明晰。 緻密綿密。 周密嚴密。 嚴肅勇猛。 猛烈强悍。 勇壯勇敢。 簡易舒泰。 圓滑婉曲。 無適無莫。 無我無必。

ト曰フガ如キ類是ナリ。然レドモ本來道ハ一アルノミ。即チ倫理ノ實踐ナリ。徳モ一アルノミ。即チ倫理實踐ノ能力ナリ。故ニ此等幾多ノ形容語ハ唯一ノ道德ヲ百方ヨリ見テ、其ノ道德ニ屬スル状態ノ千緒萬端ナルヲ種々ニ形容シタルナリ。是ヲ以テ此等形容語ノ一二或ハ二三ヲ以テ、其ノ人ノ人ト爲リヲ掩言シ得ラルベキ人ハ、道德上頗ル不完全ナル人ナリ。故ニ道德ノ形容上ニ就キテ、道德ヲ修ムル標準ト爲サントスル者ハ、必ズ此等形容語ノ全體ヲ以テ其ノ標準ト爲スヲ要ス。

其ノ四 本旨上ヨリ見タル所ノ道德觀

道德ノ本旨ナリトシテ世人或ハ良心ヲ主張シ、或ハ仁愛ヲ主張シ、或ハ禪定ヲ主張シ、或ハ信仰ヲ主張シテ互ニ相爭フト雖モ、唯其ノ間多少ノ軒輊アルノミニシテ、皆其ノ約ヲ守レリト謂フベキナリ。

其一 良心

心ハ精神ノ内面的作用ナリ。良心ハ其ノ心ノ一状態ナリ。心即チ精神ノ内面的作用ハ知、感、欲望、心術ノ四者ニシテ、精神ノ外面的作用ナル言行ト相關聯シテ離レザルモノナルガ故ニ、良心ヲ明知スルニハ、先ヅ心ヲ明知スルヲ要シ、心ヲ明知スルニハ、其ノ心ト行トノ内外兩作用ヲ爲ス所ノ本體ナル精神ヲ明知スルヲ要ス。

- 一、精神ハ知ル感ズル及ビ欲望心術言行ヲ爲ス所ノ能力ナリ。
- 二、假ニ精神ヲ分チテ三ト爲シ、智情意ト曰フ。故ニ智情意トハ精神ト稱スル唯一ノ能力ヲ假ニ三分シテ、三種ノ能力トシテ見タルモノナリ。
- 三、知ルヲ智的作用ト曰ヒ、感ズルヲ情的作用ト曰ヒ、欲望心術言行ヲ爲スヲ意的作用ト曰フ。

四、又知ヲ智識ト稱シ、感ヲ情感ト稱シ、欲望心術ヲ意志ト稱ス。

- 五、意ト意志トヲ同視スベカラズ。意トハ欲望心術言行ヲ爲ス所ノ能力ノ謂ニシテ、意志トハ欲望心術ノ謂ナリ。
- 六、知感欲望心術ノ四者、即チ智識情感意志ノ三者ヲ心ト稱ス。故ニ心トハ智識情感意志、即チ知ル感ズル及ビ欲望心術ヲ爲スノ謂ニシテ、精神ノ内面的作用ナリ。
- 七、言行ハ精神ノ外面的作用ニシテ、精神ノ内面的作用ナル知感欲望心術ト共ニ、唯一精神ノ作用ナリト雖モ、從來何人モ爾ク説カズシテ、言行ハ心ニ基クト曰ヒ、或ハ意志ニ基クト曰ヘリ。
- 八、精神作用ノ相互關係ハ、知レバ感ジ、感ズレバ知リ、知感結合シテ欲望ヲ生ジ、心術ヲ生ジ、然ル後ニ始メテ言行ヲ爲スニ至ルモノナルガ故ニ、言行ハ心ニ基クト曰フモ一理アリ。
- 九、精神ガ如何ニ能ク知リ且感ズルモ、唯其ノ智識情感ノミニテハ決シテ言行ヲ爲スニ至ラズ。必ズヤ欲望心術、即チ意志ヲ經テ始メテ言行スルニ至ルモノナルガ故ニ、言行ハ意志ニ基クト曰フモ亦一理アリ。
- 此ノ如ク精神ハ其ノ内面的作用ナル智識情感意志、即チ知感欲望心術ト、外面的作用ナル

言行トノ内外兩作用ヲ爲シ、而シテ既ニ屢々述べタル如ク、言行ハ心術ト共ニ欲望ヲ満足セシメントスル所ノ方法ニシテ、欲望ハ心術言行ノ目的ト爲リ、其ノ究竟ノ目的點、即チ欲望結局ノ歸着點ハ諸感ノ調和ニ在リ。而シテ知ルコト晦明如何ハ其ノ心術言行ニ得失ヲ生ズ。蓋シ人ノ精神作用ハ唯、此ノ如キノミ。而シテ其ノ知感欲望心術ノ四者以外ニ人ノ心ナルモノナク、人ノ心ハ此ノ知感欲望心術ノ四者ナリ。古ヨリ此ノ心ノ状態ヲ種々ノ方面ヨリ見テ、各種ノ名稱ヲ加ヘタルモノ枚擧ニ遑アラズ。所謂良心ト稱スルモノモ亦其ノ中ナル一種ノ心状態ニ名ケタルナリ。

良心ノ語ハ孟子ニ始レリ。此ノ語我が國一般ノ人心ニ適シタルニヤ、古來人皆常ニ最モ能ク之ヲ口ニシテ廢セズ。近來倫理學ノ教科書種類多シト雖モ、皆良心ノ語ヲ以テ其ノ樞要ナル題目ト爲ササルハナク、教育ノ普及ト共ニ良心說ハ益々普及セリ。而シテ其ノ所說ニ多少ノ相異アリト雖モ、大體相同ジ。之ヲ古ノ良心說ニ比スレバ、精密且適切ナリ。之ヲ約言スレバ、倫理的智識、倫理的情感、倫理的意志ノ三者ヲ一括シテ良心ト稱セリト謂フベシ。故ニ此ノ三者ノ内容ヲ審ニセバ、所謂良心ナルモノ自ラ明ナルナリ。

一、倫理的智識トハ、倫理的鑑別ノ標準ヲ認有シ、知感欲望心術言行上ニ就キテ、倫理

的鑑別ヲ爲スヲ言フ。是レ良心中ノ良知ナリ。

二、倫理的情感トハ、良知ニ感シテ、欲望心術言行上ニ就キテ倫理的命令ノ感動ト、倫理的賞罰ノ感動トヲ爲スヲ言フ。是レ良心中ノ良感ナリ。

三、倫理的意志トハ、良知良感ノ結合ニ由リテ、倫理的欲望ヲ生ジ、倫理的心術ヲ爲スヲ言フ。是レ良心中ノ良志ナリ。倫理的言行此ニ基ク。

是ニ由リテ之ヲ觀レバ、此ノ良知良感良志即チ良心ニシテ、能ク圓滿ニ興起セバ、隨ツテ必ズ倫理的言行ヲ爲スナリ。而シテ倫理ノ實踐ハ人ノ人タル道ナルガ故ニ、此ノ良心ヲ全ウスルコトヲ務ムルヲ以テ人道ノ本旨ト爲スハ、誠ニ其ノ要ヲ得タリトフ謂ベキナリ。

第二 仁愛

仁愛トハ、良心ガ倫理ヲ知り、倫理ニ感シ、倫理ヲ欲シ、而シテ合倫理的心術言行ヲ爲スニ方リテ、博愛的情感之ガ本トナリテ之ヲ爲スヲ謂フ。故ニ仁愛ハ人道ノ本旨トシテ一層高尚ナルモノナリ。是ニ於テ人道ニ二等ノ階級アルヲ見ル。

- 一、良心ヲ全ウスルコト。
- 二、仁愛ヲ全ウスルコト。

良心ハ主トシテ倫理即チ義務(權利ヲ包含ス)ヲ對象トス。孟子ヲ始トシテ、古來ノ良心說必ズシモ然ラズト雖モ、其ノ平素稱スル所概ネ此ノ如シ。即チ理義ヲ知り理義ニ感シ、理義ノ實踐ヲ欲シテ、之ガ爲ニ心術ヲ盡シ、言行ヲ全ウセントスル心ヲ言フ。故ニ良心ヲハ又或ハ倫理心ト曰ヒ、或ハ義務心ト曰ヒ、或ハ理義心ト曰フ。而シテ人ニ由リテ此ノ心ニ多少厚薄強弱ノ差アリト雖モ、無能力者ニ非ザル以上ハ、全然之ナキ者ハアラザルナリ。孟子曰ハク、口之於レ味也、有ニ同者ニ焉。耳之於レ聲也、有ニ同聽ニ焉。目之於レ色也、有ニ同美ニ焉。至レ於レ心、獨無レ所ニ同然ニ乎。心之所ニ同然ニ者何也。謂、理也義也。聖人先得ニ我心之所ニ同然ニ耳。故理義之悦ニ我心、猶ニ鸞象之悦ニ我口ト程子曰ハク、在レ物爲レ理。處レ物爲レ義。體用之謂也。孟子言、人心無レ不レ悦ニ理義ト。孟子又曰ハク、生亦我所欲也。義亦我所欲也。二者不可得レ兼、舍レ生而取レ義者也。生亦我所欲、所欲有ニ甚レ於レ生者。故不レ爲ニ苟得レ也。死亦我所欲、所ニ惡有ニ甚レ於レ死者。故患有所レ不レ辟也。如使レ人之所欲、莫ニ甚レ於レ生者、則凡可ニ以得レ生者、何不レ用也。使レ人之所ニ惡、莫ニ甚レ於レ死者、則凡可ニ以辟レ患者、何不レ爲也。由レ是則生、而有レ不レ用也。由レ是則可ニ以辟レ患、而有レ不レ爲也。是故所ニ欲有ニ甚レ於レ生者。所ニ惡有ニ甚レ於レ死者。非ニ獨賢者有ニ是心ニ也。人皆有レ之。賢者能勿レ喪耳ト。

此ノ如ク理義心即チ良心ハ、専ラ理義即チ倫理ト死生ヲ共ニセントスル至高至尙ノ心ナリ。而シテ人道ハ倫理實踐ノ謂ナルガ故ニ、苟モ此ノ良心ヲ全ウセバ、人道ヲ全ウセルモノニシテ、復之ニ加フベキモノナキニ似タリ。然レドモ今之ニ加フルニ、社會各人全體ノ愛ヲ愛ヒ、社會各人全體ノ樂ヲ樂シム所ノ博愛的情感ヲ以テセバ、人道上ニ慈悲ノ光明輝キ、更ニ一層ノ精華ヲ認ムベシ。故ニ良心ヲ全ウスルハ仁愛ヲ全ウスルニ若カズ。

第三 禪定

禪定ノ教ハ殆ド佛教ノ特占教ナリ。蓋シ佛教ノ要ハ信仰ト戒定慧トナリ。信仰ハ暫ク之ヲ措キ、戒定慧ニ就キテ之ヲ視ルニ、戒ハ定ノ基礎ニシテ、慧ハ定ノ結果ナリ。故ニ戒定慧トテ三者相并稱スルモ、人ノ務ムベキハ戒ト定トノ二者ニシテ、定ハ戒ニ由リテ成リ、戒ハ定ノ豫備ナリトス。隨ツテ所謂野狐の禪定ハ度外ナリト雖モ、眞人の禪定ニハ必ず持戒ノ伴ヘルモノナリ。但シ持戒者ヲ大別スレバ、良心ヲ全ウセントスル者ト、仁愛ヲ全ウセントスル者トノ二種類アリ。而シテ良心ヲ全ウシテ禪定ニ入ルモ、仁愛ヲ全ウシテ禪定ニ入ルモ、等シク眞人禪ニシテ、共ニ能ク人道ヲ全ウスルモノナリト雖モ、良心ヲ全ウシテ禪定ニ入ルハ、仁愛ヲ全ウシテ禪定ニ入ルニ若カズ。是ニ於テ人道ニ四等ノ階級アルヲ知

ル。

- 一、良心ヲ全ウスルコト。
 - 二、良心ヲ全ウシテ禪定ニ入ルコト。
 - 三、仁愛ヲ全ウスルコト。
 - 四、仁愛ヲ全ウシテ禪定ニ入ルコト。
- 是ニ由リテ之ヲ觀レバ、禪定ノ至レルモノハ仁愛ヨリモ、人道ノ本旨トシテ更ニ一層高尚ナルモノナリ。

第四 信仰

信仰ノ對象一ナラズ。信仰ノ教旨モ亦一ナラズ。就中茲ニ稱スル信仰トハ、社會ニ倫理アリ、精神ニ徳性アリ、以テ人道ナルモノヲ全ウシ得ベキ人類ヲ生シタル神ヲ對象トシテ、其ノ神意ヲ遵奉セントスル所ノ信仰ナリ。故ニ或ハ良心ヲ全ウシ、或ハ仁愛ヲ全ウシ、或ハ禪定ヲ全ウスルコトハ、皆神意ニ適合スルコトニシテ、信仰ノ要ハ此ノ神意ヲ遵奉スル敬意ヲ以テ、良心仁愛禪定ヲ全ウスルコトヲ務ムルニ在リ。而シテ信仰ヲ以テ良心ヲ全ウスルモ、信仰ヲ以テ仁愛ヲ全ウスルモ、將タ信仰ヲ以テ禪定ヲ全ウスルモ、其ノ能ク神意

ヲ奉承セル信仰ヲ有スルモノナルコトハ相同シ。又其ノ能ク人道ヲ全ウスルモノナルコトモ相同シ。然リト雖モ、信仰ヲ以テ良心ヲ全ウスルハ、未ダ信仰ヲ以テ仁愛ヲ全ウスルニ若カズ。信仰ヲ以テ仁愛ヲ全ウスルハ、未ダ信仰ヲ以テ禪定ヲ全ウスルニ若カズ。故ニ信仰ノ最モ高尚ナルモノハ、人道ノ本旨トシテ最モ高尚ナルモノト謂フベシ。是ニ於テ人道ニ八等ノ階級アルヲ認ム。

- 一、良心ヲ全ウスルコト。
- 二、信仰ヲ以テ良心ヲ全ウスルコト。
- 三、良心ヲ全ウシテ禪定ニ入ルコト。
- 四、信仰ヲ以テ良心ヲ全ウシテ禪定ニ入ルコト。
- 五、仁愛ヲ全ウスルコト。
- 六、信仰ヲ以テ仁愛ヲ全ウスルコト。
- 七、仁愛ヲ全ウシテ禪定ニ入ルコト。
- 八、信仰ヲ以テ仁愛ヲ全ウシテ禪定ニ入ルコト。

普通稱スル所ノ人道、即チ倫理ノ實踐ニハ、良心ヲ全ウスルコトト、仁愛ヲ全ウスルコト

トノ二階級アルノミナリト雖モ、此ノ如ク之ニ禪定ヲ加フレバ四階級ト爲リ、又更ニ信仰ヲ加フレバ八階級ト爲ルナリ。而シテ人ノ徳トハ倫理實踐ノ能力、即チ人道ヲ全ウスル所ノ能力ノ謂ナルガ故ニ、人道ニ八階級アレバ、人徳ニモ八階級アリト謂フベキナリ。之ヲ本旨上ヨリ見タル所ノ道德觀ナリトス。

或人曰ハク、禪定信仰等ハ宗教上ノ事ニシテ、道德上ノ事ニ非ズト。是レ俗觀ナリ。宗教モ亦一種ノ道德教ニシテ、道德ノ外ニ宗教ナシ。彼ノ道德ト一致セザルモノニシテ、宗教ト稱セルモノハ、眞個ノ宗教ニ非ズ。冒名ノミ。

第十二章 道德ノ一貫

孔子曰ハク、我道一以貫之ト。所謂道トハ、倫理ノ實踐ナルガ故ニ、是レ猶我が倫理ヲ實踐スルニハ、一以テ之ヲ貫通スルモノアリト曰フガ如シ。而シテ曾子忠恕ヲ以テ之ニ充テ、後儒或ハ以テ其ノ當ヲ得ト爲シ、或ハ以テ其ノ當ヲ得ズト爲セリ。然レドモ孔子自ラ其ノ一ナルモノヲ言明セザリシ故ニ、曾子ノ言ガ孔子ノ意ヲ得タルカ、失ヘルカハ確知スベカラズ。

凡ソ倫理ヲ實踐スルニ、良心ヲ全ウセントスル一念ヲ以テ之ヲ貫通セル者アラン。或ハ仁愛ヲ全ウセントスル一念ヲ以テ之ヲ貫通セル者アラン。或ハ禮定ヲ全ウセントスル一念ヲ以テ之ヲ貫通セル者アラン。或ハ信仰ヲ全ウセントスル一念ヲ以テ之ヲ貫通セル者アラン。其ノ他其ノ人ニ於ケル各自ノ理想ヲ以テ之ヲ一貫セル者アラン。忠ヲ以テセルアラン。孝ヲ以テセルアラン。治國主義ナルアラン。平天下主義ナルアラン。自我實現主義ナルアラン。故ニ何人ガ我が道一以テ之ヲ貫クト曰フモ、自ラ其ノ一ナルモノヲ明言セザル以上ハ、輒ク之ヲ知ルヲ得ズ。且縦ヒ之ヲ知ルモ、是レ其ノ人ニ於ケル倫理實踐ノ一貫ニシテ、何人ニモ通有セル一貫ニ非ズ。故ニ孔子曰ヘル所ノ一貫ハ、孔子ノ一貫ニシテ、古今内外人全體ニ於ケル人道ヲ貫通セルモノニ非ズ。然レドモ余ノ稱スル道德ノ一貫トハ、各人別々ニ一貫ノ主義理想等ヲ操持セルト否トヲ問ハズ、人ノ道德ニ於ケルヤ、何人ヲモ通ジテ自然的ニ其ノ中ニ一貫セルモノアルヲ謂フ。

夫レ人ノ精神作用ハ、内ニ動キテ知感欲望心術ト爲リ、外ニ發シテ言語行動ト爲ル。而シテ内外發動ノ迹ハ千狀萬態ナリト雖モ、要スルニ諸感ノ調和ヲ致サントスル一點ニ歸着スルコト第一篇ニ於テ詳述シタルガ如シ。故ニ如何ナル主義理想ノ下ニ於テ人道ニ志セル者

モ、理想ナク主義ナクシテ人道ニ志セル者モ、結局諸感ノ調和ヲ致サントスルニ非ザルハナシ。故ニ人道即チ倫理ノ實踐ヲ一貫セルモノハ、諸感ノ調和ヲ致サントスル一念ナリ。而シテ倫理ヲ實踐スル力、即チ人道ヲ全ウスル力ハ人ノ徳ナルガ故ニ、其ノ道ヲ貫通セルモノハ、亦其ノ徳ヲ貫通セルモノナルコト明ナリ。之ヲ道德ノ一貫ト謂フ。

抑、諸感ノ調和ヲ致サントスル一念ハ、無道ノ事ヲ爲ス時ニモ必ず之ヲ一貫セリ。換言スレバ、邪惡ヲ爲ス時モ、正善ヲ爲ス時ト等シク、諸感ノ調和ヲ致サントスル一念ノ爲ニ之ヲ爲セルナリ。而モ獨リ有道ヲ正善トシテ之ヲ尊ビ、無道ヲ邪惡トシテ之ヲ卑ム所以ハ、倫理即チ人倫ノ理法ガ、人ト共ニ天造セラレタルモノニシテ、人ノ必ず實踐セザルベカラザル規範的天則ナルト、其ノ之ヲ實踐スル能力即チ徳性ガ、其ノ倫理ヲ實踐セシメンガ爲ニ天ヨリ人ニ賦與セラレタルト、人生究竟ノ目的點タル諸感ノ調和ハ、如何ニシテモ倫理ノ實踐即チ人道ニ非ザレバ決シテ之ヲ保ツコト能ハズシテ、人道ハ實ニ諸感ノ調和ヲ致スニ必須ノ方法ナルト、殊ニ之ト同時ニ其ノ人道ガ社會各人全體ノ福祉ト爲リテ、社會各人全體ノ諸感ヲモ調和スルニ與リテ力アルトニ由ルナリ。是レ道德的ナル人モ、不道德的ナル人モ、共ニ覺悟スベキ所ナリ。

第十三章 道德ノ兩極

現人ハ社會ノ創始者ニ非ズ。社會ハ現人ノ生前ヨリ在リ。現人突如トシテ來リテ其ノ籍ニ載セラレヌ。今溘焉トシテ逝キテ其ノ籍ヲ削ラル、モ、社會ハ依然トシテ現人ノ死後ニモ在ラン。故ニ現人ハ亦社會ノ結末者ニモ非ズ。誰カ此ノ社會ヲ創始シタル。誰カ此ノ社會ヲ全終セントスル。進化論アリ。神意説アリ。其ノ孰レニシテモ社會ハ社會ノ社會ナリ。而シテ社會ニハ社會全體ノ福祉ヲ全ウセンガ爲ニ、社會各人ノ守ルベキ規範的天則アリ。名ケテ倫理ト曰フ。現人突如トシテ來リテ社會ニ入り、又溘焉トシテ社會ヲ去リテ、唯リ社會ヲシテ長ヘニ存在セシメントスル者。豈倫理ヲ實踐セズシテ可ナランヤ。其ノ能ク之ヲ實踐スルヲ人ノ人タル道ト曰ヒ、其ノ實踐スル能力ヲ人ノ人タル徳ト曰フ。故ニ道德ナルモノハ、社會全體ノ福祉ニ一致スベキモノニシテ、社會ノ福祉ニ一致セザルモノハ道德ニ非ズ。而シテ個人各自ノ福祉ハ、此ノ道德ニ違ハザル範圍ニ於テ、之ヲ收得保有スベキノミ。

斯ノ倫理ニ千種萬別アルト同時ニ、斯ノ道德ガ千狀萬態トナルハ、既ニ屢々述べタルガ如シ。就中彼ハ此ヨリモ大ナリ、此ハ彼ヨリモ本ナリト言フガ如キ比較ヲ爲シテ、其ノ大小本末ヲ區別スル觀念ハ、何人モ有スル所ナリ。何ヲバ其ノ最モ大ナルモノナリト謂ヒ、何ヲバ其ノ最モ本ナルモノナリト謂フベキカ。道德ノ兩極トハ其ノ極大極本ナルモノヲ稱ス。苟モ社會ノ一員タル面目ヲ全ウセントスルニハ、又人ノ人タル資格ヲ保タントスルニハ、須ク先ヅ之ヲ知ルベキナリ。

夫レ團體ニハ必ズ統一者アルヲ要ス。統一者ナキ團體ハ健全ナラズ。而モ人類社會ト云フ一大團體ニハ、古來未ダ嘗テ統一者アラズシテ、無數ノ部落ニ割據シ、無數ノ會長ニ依リテ各個ニ統一セラレ、世ノ進ムト共ニ、多數ノ部落會長ハ消滅シテ、少數ノ國家君主ト爲リ、君主ハ各、其ノ國家ヲ統一シテ、以テ其ノ國家ノ福祉ヲ擴充シ、而シテ互ニ力ヲ協セテ社會全體ノ福祉ヲ完成スベキ位置ニ立テリ。是ヲ以テ、國君統一ノ理想ニ一步近ケバ、國家ノ福祉ニ一步ヲ進ムルト同時ニ、社會ノ福祉ニモ亦一步ヲ進メ、之ニ反スレバ、國家ノ福祉ヲ害スルト同時ニ、社會ノ福祉ヲモ害スルモノナリ。此ノ故ニ國民トシテ社會全體ノ福祉ヲ計ル要方ハ、國君統一ノ理想ニ一致スルコトヲ努力スルニ在リ。是レ所謂堯舜ノ民ハ堯舜ノ心ヲ以テ其ノ心ト爲スモノナリ。倫理ノ實踐即チ個人各自ノ本分ヲ盡スノ事タルヤ

社會全體ノ福祉ヲ計ルニ在ルガ故ニ、社會全體ノ福祉ヲ計ル要方此ノ如クナル以上ハ、衆庶ノ倫理即チ本分トシテ最モ大ナルモノハ、國君統一ノ理想ニ一致スベキコトヨリ大ナルヘナシ。此ノ本分之ヲ臣民ノ本分ト曰フ。而シテ愛君敬王ノ至誠ヲ以テ、能ク此ノ本分ヲ盡スヲ臣民タルノ道ト曰ヒ、其ノ能力ヲ臣民タルノ徳ト曰ヒ、更ニ此ノ臣道民徳ヲ名ケテ忠君ト曰フ。是ヲ以テ臣民ノ本分ヲ盡スト曰ヒ、臣民ノ道徳ヲ全ウスト曰ヒ、又能ク君ニ忠ト曰フモ、異名同實ニシテ、其ノ事ハ國君統一ノ理想ニ一致シテ、社會全體ノ福祉ヲ計ランガ爲ニ、人間一切ノ道徳ヲ全ウスルコトヲ務ムルニ在リ。故ニ道徳ノ極大ナルモノハ忠君ニシテ、忠君ハ道徳事項一切ヲ歸納ス。伯夷叔齊萬世ノ爲ニ生ヲ捨テ、之ヲ主張シ、周武ニ反對シテ首陽ニ餓死シ、而シテ悔イズ。余嘗テ水戸徳川公ノ小石川ノ舊邸ニ入り、孔子ノ廟ト共ニ二子ノ廟アルニ感シ、低徊シテ去ルコト能ハズ。私ニ思ヘラク、誠ニ忠道忠徳ノ内容全體ヲ知ラント欲セバ、先ヅ水戸公ノ特ニ二子ヲ祀レル所以ヲ知ルヲ要スト。今伯夷叔齊ノ意ヲ察スルニ、臣民ハ必ず君主統一ノ理想ニ一致スベシ。君主統一ノ理想ニ一致スルニハ、君主ヲ擁護スルヲ以テ大綱ト爲ス。紂王ノ如キ暴君ニ對シテモ、斷ジテ不臣タルノ倫義ナシ。必ず之ニ相應スル臣民タル倫理アリ。之ヲ守リ之ニ率ヒ、以テ忠君ノ道

ヲ盡シ、以テ天下ノ患ヲ救フベシ。如何ナル事アリト雖モ、忠君ノ徳ヲ賊シテ、絶對ノ大義ヲ忘レ、無雙ノ大倫ヲ破ルベカラズ。是レ人類ニ對スル天則ノ第一條ナリト言フニ在リ。此ノ如キハ世界萬邦ニ於ケル臣子民庶ニ通ジテ適用セラルベキ公範ニシテ、道徳上忠君ヨリ大ナルモノナキ所以此ニ存ス。殊ニ我が國ノ如キ國體ト 君恩トノ下ニ生息スル臣民ニ於テハ、忠君ヲ以テ道徳ノ極大ナルモノト爲スベキコト、豈唯此レノミノ爲ナルベケンヤ。』若シ夫レ孝道孝徳ハ如何。曰ハク、道ハ徳ニ據リテ修メラレ、徳ハ道ニ志シテ養ハル。即チ倫理ノ實踐ハ倫理實踐ノ能力ニ基キテ興起シ、倫理實踐ノ能力ハ倫理ヲ實踐スルニ隨ツテ増加ス。故ニ徳全ケレバ道全ク、道全ケレバ徳全シ。抑能ク道ヲ修メ徳ヲ養フノ本ハ、能ク親ニ事フルニ在リ。名ケテ孝親トス。古人曰ハク、孝ハ百行ノ本ナリト。何ヲ以テ孝ハ百行ノ本ナルカ。夫レ孝ノ要ハ親心ニ一致スルコトヲ爲スニ在リ。親心トハ父母ノ有スル一切ノ心ナルニ非ズシテ、其ノ子女ノ爲ニ慮リテ、其子女ガ完全ノ者トナランコトヲ希望スル心ノ謂ナルガ故ニ、親心ニ一致スルコトヲ爲スノ要ハ、自己ノ完全ヲ計ルニ在リ。而シテ自己ノ完全トハ、即チ自己ニ於ケル道徳ノ完全ナルコトナルガ故ニ、父母ニ孝ナラントスルニハ、其ノ親心ヲ思ヒテ道ヲ修メ徳ヲ成スヲ要ス。是ヲ以テ兄弟ニ友ニシテ。其ノ

親心ニ一致スルヲ思ヒテ喜ブハ父母ニ孝ナリ。夫婦相和シ、朋友相信シテ、其ノ親心ニ一致スルヲ思ヒテ喜ブハ父母ニ孝ナリ。天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼シ奉リ、以テ忠君ノ大道ヲ全ウシテ、其ノ能ク親心ニ一致スルヲ思ヒテ喜ブハ父母ニ孝ナリ。凡ソ我ヲ思フコト最モ切ナルハ親心ニシテ、世界ノ人舉ツテ我ヲ思フトモ、親ガ子ヲ思フ一心ニ若カズ。故ニ子ニシテ其ノ親心ニ報イントスル誠ナク、其ノ親ヲ思フコト少カランニハ、復與ニ道德ヲ語ルニ足ラズ。之ニ反シテ、苟モ親ヲ思ヒ、親心ニ一致セント務ムル者ハ、自ラ一切ノ道德ヲ全ウスルコトヲ務メザラントスルモ能ハザルベシ。故ニ能ク其ノ親心ヲ思ヒテ、親心ニ一致スルコトヲ務ムレバ、百行ノ本此ニ樹立シ、一切ノ道德此ニ由リテ發達セン。是レ孝親ハ道德ノ極本ナリト爲ス所以ナリ。

斯ノ如ク道德ノ大ナルモノヨリ言ヘバ、忠君ハ道德ノ極大ナルモノナリ。道德ノ本ナルモノヨリ言ヘバ、孝親ハ道德ノ極本ナルモノナリ。之ヲ道德ノ兩極ト爲ス。而シテ臣民ニシテ國君統一ノ理想ヲ標準トシテ、其ノ臣民タル本分ヲ盡スコトモ、子女ニシテ父母思子ノ親心ヲ標準トシテ、其ノ子女タル本分ヲ盡スコトモ、畢竟人ノ人タル道德ヲ全ウスルニ在ルヲ以テ、忠孝ハ一途ニシテ、又一切ノ道德ト一致ス。我が國忠孝ヲ以テ教育ノ要旨ト爲

シ、立國ノ基礎ト爲セルモ、獨リ我が國ニ於テ然ルベキノミノモノニ非ズ、世界萬邦皆然ルベキナリ。

第十四章 倫理道德ト孔佛基三教

孔子ノ教ヲ毀ル者ニ就キテ、孔子ノ教ヲ問フニ善ク孔子ノ教旨ヲ知レル者ナシ。孔子ノ教ヲ譽ムル者、未ダ必ズシモ孔子ノ教旨ヲ知ル者ナラズト雖モ、善ク孔子ノ教旨ヲ知レル者ハ、孔子ノ教ヲ毀ラズ。佛陀ノ教ヲ毀ル者ニ就キテ、佛陀ノ教ヲ問フニ、善ク佛陀ノ教旨ヲ知レル者ナシ。佛陀ノ教ヲ譽ムル者、未ダ必ズシモ佛陀ノ教旨ヲ知ル者ナラズト雖モ、善ク佛陀ノ教旨ヲ知レル者ハ、佛陀ノ教ヲ毀ラズ。基督ノ教ヲ毀ル者ニ就キテ、基督ノ教ヲ問フニ、善ク基督ノ教旨ヲ知レル者ナシ。基督ノ教ヲ譽ムル者、未ダ必ズシモ基督ノ教旨ヲ知ル者ナラズト雖モ、善ク基督ノ教旨ヲ知レル者ハ、基督ノ教ヲ毀ラズ。何ニ由リテ然ルカ。其ノ然ル所以ハ之ヲ問フヲ要セズ。事實固ニ此ノ如キヲ認メバ、隨ツテ自ラ其ノ然ル所以ヲ知り得ベキナリ。

昔孔教弘布ノ時ヨリシテ孔子ノ教ヲ毀ル者多カリキ。今モ亦同シ。昔佛教弘布ノ時ヨリシ

テ佛陀ノ教ヲ毀ル者多カリキ。今モ亦同シ。昔基督教弘布ノ時ヨリシテ基督ノ教ヲ毀ル者多カリキ。今モ亦同シ。百方ヨリ誹毀攻撃セラル、中ニ在リテ、幾千歳ノ久ニ亘リ、其ノ教ノ嚴然トシテ宇内ニ存立シ得ルハ何ゾヤ。善ク其ノ教旨ヲ知リテ、之ヲ譽メ之ヲ守ル者モ、亦多ケレバナリ。

凡ソ倫理道德上ノ教ヲ布キテ、此ノ如ク毀譽褒貶ノ燒點ニ立テルモノ、古來三教ニ匹儔スルモノナシ。然レドモ其ノ之ヲ毀ルハ、其ノ善ク其ノ教旨ヲ知ラザルガ爲ニ毀ルモノニシテ、善ク其ノ教旨ヲ知レル者ハ、之ヲ毀ラザルコト果シテ事實ナル以上ハ、若シ善ク之ヲ知ラバ、復毀ラズシテ必ず譽ムル者ト共ニ譽ムルナラン。故ニ三教ハ人善ク其ノ教旨ヲ知ラバ、天下共ニ譽メントスル所ノ教ナリト謂ツベシ。豈漫ニ之ヲ毀ルベケンヤ。必ず悔イルコトアラン。

夫レ人類社會ニハ、人人必ず社會ノ福祉トナルコトヲ爲スベキ人人各自ノ本分アリ。倫理ト曰フ。而シテ人ニハ皆倫理實踐ノ能力アリ。徳性ト曰フ。是ヲ以テ、人能ク倫理ヲ實踐スルナリ。人道ト曰フ。何ノ教カ最モ能ク人ヲ教ヘテ之ヲ知ラシムル。孔佛基三教ニ若クハナシ。倫理ノ晦明。道德ノ興廢ハ、懸リテ三教ノ盛衰ニ在リト謂フベキナリ。

是ニ由リテ之ヲ觀レバ、孔教ヲ奉ズル者ニシテ、佛陀ト基督トノ教ヲ毀ル者ハ、又自ラ其ノ奉ズル所ノ孔教ヲ毀ル者ナリ。佛教ヲ奉ズル者ノ孔子ト基督トノ教ヲ毀ルニ於ケル、基教ヲ奉ズル者ノ佛陀ト孔子トノ教ヲ毀ルニ於ケル、亦皆各自ラ其ノ奉ズル所ノ教ヲ毀ル者ナリ。若シ相毀ルコトナカランカ、倫理ノ昭明、道德ノ興隆ニカアリテ、各其ノ奉ズル所ノ教旨ニ副ハン。況ヤ其ノ能ク相譽ムルニ於テヤ。

然レドモ孔佛基三教ト三教ヲ奉ズル者ノ教トハ、必ずシモ相同ジカラズ。何トナレバ三教ハ倫理ノ昭明、道德ノ興隆ニカアリト雖モ、三教ヲ奉ズル者ノ教ハ必ずシモ然ラザレバナリ。或ハ時ニ其ノ教旨ヲ誤リテ人ヲ惑ハスコトナキヲモ期シ難シ。是レ互ニ相正スベシ。阿附雷同ハ亦各其ノ奉ズル所ノ教旨ニ副ハザルナリ。

之ヲ要スルニ、三教ヲ奉ズル者ノ教ニ非ナル所アルガ爲ニ、三教ヲ毀ルベカラズ。又三教ヲ譽メントスルガ爲ニ、三教ヲ奉ズル者ノ教ニ雷同スベカラズ。且三教ト雖モ、其ノ缺點ハ之ヲ補ヒ、其ノ短所ハ之ヲ足シ以テ三教ヲ大成シ、以テ道德ヲ興隆スベキナリ。

第二篇 孔佛基三教ノ統一

第一章 孔佛基三教ノ鼎立ト精神

知ルモノハ精神ナリ。感ズルモノモ精神ナリ。欲望心術言行ヲ爲スモノモ亦精神ナリ。人ノ精神ハ唯、此ノ知感欲望心術言行ノ五種作用ヲ爲スノミ。而シテ其ノ作用スル順序ハ常ニ一定シテ毫釐ノ差錯ナシ。即チ知レバ感ジ、感ズレバ知リ、知感結合シテ欲望生ジ、欲望生ジテ心術生ジ、言行生ズ。且其ノ關係モ亦常ニ一定シテ毫釐ノ差錯ナシ。即チ心術言行ハ欲望ヲ満足セントスル所ノ方法ト爲リ、欲望ハ心術言行ヲ作ス所ノ目的ト爲リ、而シテ其ノ如何ナル目的ニテモ、究竟歸着スル最後ノ目的ハ、諸感ノ調和ヲ致サント欲スルニ在リテ、其ノ之ヲ致サンガ爲ニ必要ナル心術言行上ノ事物理法ハ、智ニテ之ヲ知ル。故ニ精神ノ極致ハ諸感ノ調和ニシテ、諸感ノ調和ハ精神ノ本領ナリトス。

諸感調和ノ要素トナルモノハ社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ニシテ、而シテ社會各人ニハ其ノ各人自他ノ福祉ヲ致サンガ爲ニ、各人ノ實踐スベキ天然ノ法則アリ。又

之ト同時ニ、人ノ精神ニ之ヲ實踐シ得ル所ノ能力アリテ、其ノ能力ハ日ニ之ヲ實踐スルコトヲ務ム。前者ハ即チ倫理ニシテ、後者ハ即チ道德ナリ。孔佛基三教ハ此ノ道德ヲ支持發達セシメンガ爲ニ鼎立ス。是ヲ以テ三教ノ要ハ人ヲシテ外社會自他ノ福祉ヲ計リ、内諸感ノ調和ヲ致シ、以テ精神ノ完全ヲ期セシメントスルニ在リ。

說文ニ云ハク、鼎ハ五味ヲ和スル寶器ナリト。今五福ヲ五味ニ譬ヘ、道德ヲ鼎ニ譬フレバ、孔教ノ仁愛ヲ説クト、佛教ノ禪定ヲ説クト、基督教ノ信仰ヲ説クトハ、以テ鼎ノ三足ニ譬フベシ。三足アリテ鼎傾カズ。五味覆ラズ。三教アリテ道德甫メテ樹立シ、五福隨ツテ熟成ス。之ヲ三教ノ鼎立ト謂フ。

噫、三教アリテヨリ、歲月短カラズト雖モ、其ノ教旨未ダ天下ニ明ナラズ。我が國ノ如キハ、幸ニ 皇祖 皇宗國ヲ肇メ給ヒシコト宏遠ニ、德ヲ樹テ賜リシコト深厚ナルト、明治二十三年十月三十日、教育ニ關スル 勅語ヲ下シ賜リシトニ頼リテ、國民其ノ道ニ迷ハズト雖モ、天下ニ於ケル道德ノ未ダ興起セズシテ、社會ニ於ケル五福缺乏シ、四海同胞ノ間ニ、人ヲシテ屢、長大息スルニ至ラシムルコトヲ發生スルハ、偶然ニ非ザルナリ。

第二章 孔教ト仁愛

孔教ニ於テ、道德ヲ説クコト高麗ナリト雖モ、之ヲ約スルニ仁ノ一字ニ歸ス。故ニ仁愛ノ内容ヲ知ルハ、孔教ニ從ツテ道德ヲ學ブ者ノ要點ナリ。

仁愛ノ内容ヲ審ニセントスルニハ、先ヅ自利利他ノ何タルカラ研鑽スルヲ要ス。從來自利利他ヲ説ク者、其ノ標準トスル所一ナラズト雖モ、普通一般ニ稱スル所ノ自利トハ、自己ノ健康長壽富裕光榮自由ヲ致スニ利アルコトヲ爲シテ、害トナルコトヲ爲ササルヲ謂ヒ、利他トハ他人ノ健康長壽富裕光榮自由ヲ致スニ利アルコトヲ爲シテ、害トナルコトヲ爲サザルヲ謂フ。而シテ社會各人全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ全ウセンコトヲ務ムルハ、精神ノ極致タル諸感調和ノ要素ヲ具備セントスルモノナルガ故ニ、此ノ自利利他ヲ計ルハ、人ノ人タル所ヲ全ウセントスル所以ナリ。

然レドモ人ノ社會ニ在ルヤ、自利ト利他トハ兩全シ易カラズシテ、自利セントスレバ利他スル能ハズ。利他セントスレバ自利スル能ハザルコトアリ。又利他中ニ於テモ、甲ヲ利セントスレバ乙ノ害ト爲リ、乙ヲ利セントスレバ甲ノ害ト爲ルコトアリ。甚ダシキハ其ノ利

スル所唯社會ノ一小部分ニシテ、之ガ爲ニ社會大部分ノ害ト爲ルコトアリ。嗚呼、自利利他ノ方法兩ナガラ其ノ宜ヲ得タル結果トシテ、社會全體ノ福祉致スベク、社會全體ノ福祉ヲ致シタル結果トシテ、甫メテ諸感ノ調和致スベキノミナルニ、自利利他ノ事相衝突シテ兩ナガラ其ノ宜ヲ得ザルコト、果シテ此ノ如クンバ、社會全體ノ福祉終ニ望ムベカラズ。諸感ノ調和決シテ求ムベカラザルカ。蓋シ能ク之ヲ全ウスルモノハ仁愛ナリ。

夫レ仁愛ハ社會全體ノ福祉ヲ愉快ニ感シ、殃禍ヲ不快ニ感ズル所ノ情感ガ、其ノ禍福ヲ知リ得ル所ノ智識、又ハ其ノ禍福ニ對スル適當ノ處置ヲ知り得ル所ノ智識ニ結合シテ、此ノ知感ノ結合ガ動機ト爲リテ其ノ禍ヲ除キ、福ヲ致サント欲スル所ノ欲望ヲ興起シ、隨ツテ其ノ之ヲ計ル所ノ心術ヲ生ジ、而シテ其ノ之ヲ成遂スル所ノ言行ヲ爲ス是ナリ。故ニ古來仁愛ノ説多シト雖モ、要スルニ仁愛トハ、博愛ヲ主旨トシ、倫理ヲ規矩トシ、毫モ心ニ自己ト他人トノ區別ヲ立テズ、社會全體ノ福祉上利益ト爲ルコトニ一致スル範圍内ニ於テ、自利利他ヲ爲スヲ曰フ。之ヲ細別スレバ左ノ如シ。

一、自利シテ社會全體ノ害ト爲ラザルコト。

一、自利シテ社會全體ノ利ト爲ルコト。

- 一、利他シテ社會全體ノ害ト爲ラザルコト。
- 一、利他シテ社會全體ノ利ト爲ルコト。

是レ仁愛的心術言行ガ能ク自利ト利他トヲ爲シ、又能ク自利ト利他トノ衝突ヲ裁制シテ、社會全體ノ福祉ヲ致ス所以ナリ。精神ノ極致、諸感調和ノ要素タル社會全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福ヲ保全増進スルモノハ、唯、此ノ仁愛アルノミ。仁愛ハ諸感調和ノ大綱ナリ。

抑、仁愛ハ一切ノ道德事項ヲ歸納ス。而シテ其ノ内容ヲ概言セバ、此ノ如ク博愛ヲ主目トシ、倫理ヲ規矩トシ、毫モ心ニ自己ト他人トノ區別ヲ立テズ、社會全體ノ福祉上利益ト爲ル事ニ一致スル範圍ニ於テ、自他ノ利益ヲ爲スコトナリト雖モ、第二篇第十三章ニ説ケル如ク、道德ノ極本ナルモノハ孝親ニシテ、道德ノ極大ナルモノハ忠君ナルガ故ニ、苟モ仁ニ志ス者ハ、忠孝ヲ以テ博愛の事項ノ中心ト爲シ、如何ナル愛モ、君ト親トニ對スル愛ニ比ブベキモノアルベカラズ。若シ心此ニ至ラザレバ、未ダ誠ナラザル者ト自覺スルヲ要ス。然レドモ其ノ愛ヤ亦合理的ナラザルベカラズ。如何ニ君ヲ愛シ親ヲ愛スルモ、之ガ爲ニ倫理ニ違フコトヲ爲スハ、眞實ノ忠孝ニ非ズ。眞實ノ忠孝ハ必ず倫理ト一致スルモノナリ。

隨ツテ如何ナル事アリトモ、君ニ叛キ親ニ叛キテ道德ニ合フコトアラズ。眞實ノ道德ハ必ず忠孝ト一致スルモノナリ。是ニ於テ、仁愛トハ又忠孝ヲ中心トシテ、忠孝ニ一致スル範圍ニ於テ、自利利他ヲ爲スモノナリトモ謂フベシ。

此ノ如ク孔子教フル所ノ道德ノ歸納的名稱ナル仁トハ、其ノ内容ヲ約言セバ、單ニ忠君孝親トモ謂フベク、將タ合倫理的博愛トモ謂フベキナリト雖モ、孔子ハ專ラ忠孝ヲ主トシテ其ノ仁即チ道德ヲ致ヘタリ。何トナレバ、道德ノ本ナルモノ立タズシテ、道德ノ興ルベキ理由ナク、道德ノ大ナルモノ保タレズシテ、道德ノ隆ナルベキ理由ナク、之ヲ事實ニ徵スルモ、亦未ダ此ノ如キコトアラズ。且忠君ハ道德ノ極大ナルモノニシテ、孝親ハ道德ノ極本ナルモノタルノミナラズ。苟モ忠孝ヲ全ウセントセバ、必ず合倫理的博愛、即チ道德事項一切ヲ全ウセザルベカラザルガ故ニ、縦ヒ博愛ヲ主張セザルモ、能ク博愛ヲ致シ、而シテ如何ナル事アリトモ、君ニ叛キ親ニ叛キ、以テ社會ノ大倫ヲ破リ、國家ノ安寧ヲ害スルガ如キ狂態ヲ演ズルコト、決シテ之ナケレバナリ。

或人曰ハク、人苟モ忠孝ニ志シ、合倫理的博愛ヲ爲サバ、孔子ノ教旨ニ一致シテ、仁愛ハ即チ全カラン。而モ仁ナラバ必ず社會全體ノ健康長壽富裕光榮自由ヲ保全増進スルニ與リテ

カアルカ。曰ハク然リ、何トナレバ、其ノ害アリテ利ナキコトハ仁ナラザレバナリ。曰ハク仁ヲ爲セバ其ノ爲シタル度ニ準シテ、能ク社會ノ福祉ヲ致スト雖モ、世人ガ不仁ヲ爲スニ當リテ、己獨リ仁ヲ守ルモ、自他ノ利益弘メ難ク、社會ノ殃禍救ヒ難ク、到底諸感ノ調和保チ難カルベシ。曰ハク然リ、而モ其ノ之アルガ爲ニ、己モ亦不仁ヲ爲ストナラバ、諸感ノ調和益、保チ難カラシ。亦以テ仁愛ハ諸感調和ノ大綱タルヲ知ルベキナリ。且人類アリテヨリ、未ダ不仁ノミノ人アラス。所謂不仁者ト稱セラル、人モ、唯、比較的の不仁ノ事多キノミニシテ、尙能ク仁ヲ爲セリ。況ヤ常人以上ニ於テ、毫モ仁ヲ爲サル者アラシヤ。智者モ千慮一失アリ。愚者モ千慮一得アリ。善人モ惡ヲ爲スコトアリ。惡人モ善ヲ爲スコトアリ。而シテ惡人或ハ化シテ善人ト爲リ、善人或ハ化シテ惡人ト爲ルコトアリ。假ヒ自己ニ善多ク、他人ニ惡多キモ、將來如何ニ變化スルカ測ラレザルノ身ヲ以テ、唯リ既往ニ徵シテ一概ニ自己ヲ善視シ、他人ヲ惡視スベカラズ。況ヤ現在ニ於テモ、自他ノ善惡仁不仁ノ分量輒ク斷定スベカラザルニ於テヲヤ。是ヲ以テ所謂仁者モ不仁ノ事ナキヲ期シ難キハ、恰モ強者ノ無病ヲ期シ難キガ如シト雖モ、仁者ハ唯仁ヲ求メテ仁ヲ爲サントシ、世人ノ仁不仁ヲ問ヒテ、其ノ心ヲ二三ニセザルナリ。

或人又曰ハク、物皆一氣ヨリ生ジテ一氣ニ歸ル。人モ亦物ナリ。何ゾ區區トシテ仁愛ヲ事トスルヲ要センヤ。且人ハ生物ナリ。須ク生物一般ノ天則ニ從ヒ、生存競争ニ力ヲ盡シテ、優勝劣敗ノ自然ニ一任スベキナリト。是レ唯、物質ノミヲ研究シ、又唯、生物ノミヲ研究シタル者ノ言ナリ。即チ生物中有スル所ノ一種特別ナル人性ニ就キテハ、深ク研究セザルニ基ケル偏見ニシテ、世人ヲ蠱惑シ、社會ヲ害スルコト焉ヨリ大ナルハナシ。凡ソ人ハ三面ヨリ觀ルヲ得、物質觀、生物觀、人性觀是ナリ。若シ單ニ物質上ヨリ觀レバ、人モ宇宙ノ萬有ト等シク、唯元素ノ塊團ノミ。仁愛ヲ事トスル者ノ如キハ、固ニ區區トシテ齷齪スルガ如ク見ユルナラン。又單ニ生物上ヨリ觀レバ、人モ一切衆生ト等シク、弱肉強食シテ生活ス。隨ツテ同類相爭ヒ、骨肉相食ムガ如キコトアルモ、固ヨリ咎ムベキニ非ズシテ、仁愛ヲ口ニスルハ、實ニ腐儒ノ廢語トモ聞ユルナラン。然レドモ仁愛ノ效ハ人性觀ニ基ケリ。物質上又ハ生物上ノ智識アリト雖モ、人性ニ通ゼザル者ノ得テ與リ知ル所ニ非ズ。故ニ人性ト仁愛トノ關係ヲ審ニスルハ、孔子ノ教旨ヲ知ルニ最モ必要ナリトス。

一、人性ノ人性タル所ハ、其ノ形骸上ニ在ラズシテ、其ノ形骸ニ於ケル生活作用ヲ爲ス中ニ於テ、之ヲ發見スベキノミ。

二、人ノ生活作用ヲ大別スレバ二トナル。一ハ食物ノ消化、血液ノ循環、大氣ノ呼吸、老廢物ノ排泄等ノ類ニシテ、一ハ知感欲望心術言行ヲ爲ス是ナリ。而シテ消化循環呼吸排泄等ハ本ニシテ、知感欲望心術言行ハ末ナリ。何トナレバ、人ニシテ消化循環呼吸排泄等ノ作用廢止スレバ、知感欲望心術言行モ亦止ムベケレバナリ。然レドモ知感欲望心術言行ハ主ニシテ、消化循環呼吸排泄等ハ從ナリ。何トナレバ、人ニシテ知感欲望心術言行ヲ要セザルニ至レバ、復消化循環呼吸排泄等ノ必要ヲ認メザレバナリ。故ニ人性ノ人性タル所ハ、其ノ消化循環呼吸排泄等ノ中ニ在ラズシテ、知感欲望心術言行ノ中ニ在リ。即チ精神作用ノ中ニ在リ。

三、精神作用ノ相互關係ヲ視ルニ、知感結合シテ欲望ヲ生ジ、而シテ欲望ニ千種萬別アリト雖モ、其ノ究竟ノ目的ハ唯一ニシテ、諸感ノ調和ヲ得ント欲スル一點ニ歸着ス。而シテ心術言行ハ智識光明ノ下ニ欲望ヲ満足セントスル方法トシテ之アルニ外ナラザルガ故ニ、諸感ノ調和ハ精神ノ極致ニシテ、人性ノ人性タル所ハ、能ク諸感ノ調和ヲ致スニ在リ。

四、諸感ノ調和ハ、諸感調和ノ要素ヲ具備スルコト多キニ隨ツテ、能ク之ヲ致スベキノ

ミ。而シテ其ノ要素ハ、社會全體ノ健康長壽富裕光榮自由ノ五福具備ニ在ルガ故ニ、諸感調和ノ方法トシテ爲スベキコトハ、專ラ社會全體ノ福祉ヲ計ルニ在リ。

五、社會ヲ大別スレバ。自他ノ二トナル。故ニ社會ノ福祉ヲ計ルトハ、自己ノ健康長壽富裕光榮自由ヲ致スニ利トナルコトヲ爲シテ、害トナルコトヲ爲ササル所ノ自利ナルモノト、他人ノ健康長壽富裕光榮自由ヲ致スニ利トナルコトヲ爲シテ、害トナルコトヲ爲ササル所ノ利他ナルモノトノ二者ヲ全ウスルコトヲ務ムルニ外ナラズ。人ニハ皆此ノ能力アリ。他物ニハ此ノ能力ナシ。其ノ縦横之アルモ極メテ少シ。且人ニ於ケル此ノ能力ハ養成スルニ隨ツテ發達スルモ、他物ニ在リテハ、決シテ然ラザルナリ。若シ人ニ此ノ能力アラザレバ、特ニ人性トシテ他性ト區別シテ視ルベキ所ナシ。

六、自他ノ利害ニシテ相衝突抵牾スルコトナケレバ可ナリト雖モ、動モスレバ自利ノ事ト利他ノ事ト相衝突スルノミナラズ、利他中ニ於テモ、甲ノ利ヲ計ラントスレバ乙ノ害ト爲リ、乙ノ害ヲ去ラントスレバ丙ノ不利ヲ醸ス等ノ如キ衝突アリテ、之ガ爲ニ社會ニ軋轢爭亂ヲ生ジテ、諸感調和ノ要素タル社會全體ノ福祉計リ難シ。而モ能ク其ノ衝突スル所ヲ裁制シテ、相抵牾スルコトナカラシメ、以テ社會全體ノ福祉ヲ致スモノハ

仁愛ナリ。其ノ説既ニ之ヲ盡セル如シ。人能ク此ノ仁愛ヲ全ウスル者アリ。是レ善ク養成シテ大ニ發達シタル人性ヲ有スル者ト謂フベシ。

仁愛ト人性トノ關係此ノ如シ。孔子曰ハク、仁ハ人ナリト。是ヲ以テナリ。而シテ之ヲ始ムルニ孝ヲ以テシ、之ヲ終フルニ忠ヲ以テスルハ、道德ニ對スル孔子畢生ノ教ナリ。故ニ曰ハク、孔教ニ於テ道德ヲ説クコト萬端ナリト雖モ、之ヲ約スレバ仁ノ一字ニ歸ス。仁愛ノ何タルカヲ知ルハ、孔教ニ從ツテ道德ヲ學ブ者ノ要點ナリト。

嗚呼、人性觀ニ通ゼザレバ、仁愛ノ面目ヲ知ルヲ得ズ。殊ニ人性ヲ僻觀シ、或ハ物質觀、生物觀等ヲ以テ、妄ニ他ヲ非リ、仁愛ヲ口ニスルヲ腐儒者ノ嚙語ト爲シ、仁愛ヲ事トスルヲ區區者ノ齷齪ト爲スガ如キ者ハ、縦ヒ他ノ事物ニ對シテ聰明ナルモ、人ノ人タル仁愛ニ對シテハ盲聵ナリ。孔門ノ教大ナリト雖モ、得テ聞見スベカラズ。況ヤ其ノ微妙變通ノ機ニ於テヲヤ。

第二章 佛教ト禪定

仁愛ハ諸感調和ノ要素タル社會全體ノ福祉ヲ致ス所以ニシテ、諸感調和ノ大綱ナリト雖、

圓滿ナル諸感ノ調和ハ未ダ以テ俄ニ望ムベカラズ。何トナレバ、圓滿ナル諸感ノ調和ハ諸感調和ノ要素タル社會全體ノ福祉完備ノ結果ニシテ、而モ其ノ完備ハ社會各人舉ツテ各、其ノ仁愛ヲ全ウスルニ非ザレバ、此ノ諸感調和ノ要素タル社會全體ノ福祉完備セザルベケレバナリ。

孟子曰ハク、仁ハ人ノ安宅ナリト。孔子曰ハク、仁者ハ愛ヒズト。若シ唯、此ノ言ヲ以テ之ヲ視レバ、苟モ其ノ仁愛ヲ全ウスル人ハ、心常ニ安ラカニシテ愛ナク、即チ諸感常ニ調和スト言フニ似タリト雖モ、孔孟ノ書全篇ヲ參酌シテ之ヲ考フルニ、仁ノ至極ニ達シタル者ハ忠君愛國、孝親博愛ノ心切ナルガ故ニ、自己一身上ノ事ニ關シテハ、更ニ愛フル所ナク、苟モ其ノ仁ヲ全ウセバ、身死セントスルモ、心安ラカナリト言フニ止ル。若シ夫レ君父子孫、國家社會ノ事ニ關シテハ、仁者ト雖モ憂心忡忡トシテ安ラカナラザルモノ少カラザルベシ。孔子曰ハク、伯夷叔齊仁ヲ求メテ仁ヲ得タリ。又何ゾ怨マント。余思ヘラク、夷齊ノ一身上ニ關シテハ、固ヨリ夷齊ノ怨ミザル所ナランモ、而モ夷齊ノ心中ニハ、古殷湯夏王ヲ伐チテ大倫ヲ破リ、今周武之ニ倣ヒテ、殷王ヲ伐チテ大逆ヲ極メ、益、萬世ニ大惡例ヲ垂ル、ナリトシテ、悲憤ニ勝ヘザルモノアリシコトハ、其ノ逸詩ヲ以テ見ルモ明ナリ。曰

ハク、登^三彼西山^一兮、采^三其薇^二矣。以^レ暴易^レ暴兮、不^レ知^三其非^二矣。神農虞夏忽焉沒兮、我安適歸矣。于嗟徂兮、命之衰矣ト。是^レ怨ヲ吞^レテ死シタリト謂^フツベシ。焉^レ安^二心ナルモノアラン。孟子曰ハク、舜ハ父母ニ順ナラザルガ爲ニ、窮人ノ歸スル所ナキガ如ク、旻天ニ父母ニ號泣セリ。天下ノ士悦^レヲ得、堯帝ノ二女ヲ妻トシ、富ハ天下ヲ有^テ、貴ハ天子ト爲リタルモ、而モ以^テ愛ヲ解クニ足ラザリキト。又顔淵死シテハ孔子慟哭シ、齊ヲ去リテハ孟子不豫ノ色アリタリ。故ニ仁愛ハ諸感調和ノ大綱ナリト雖モ、社會ノ人舉^ツテ誠意正心ト爲リ、能ク其ノ身ヲ修メ、家ヲ齊ヘ、而シテ完全ノ治國、而シテ圓滿ノ平天下ヲ致スニ至ルマデハ、縦ヒ完全ナル仁者モ、圓滿ナル諸感ノ調和ヲ望ムベカラズシテ、或ハ其ノ煩悶ニ勝ヘザルコトアラン。況ヤ其ノ仁心義氣ノ未ダ熟成セザル者ニ於テヤ。此ノ時ニ方リテ、能ク其ノ苦痛ヲ平治シテ、一ハ益、仁心義氣ヲ作興シ、一ハ其ノ安息快樂ヲ感ゼシムルモノハ、佛教ノ特長ナル禪定ノ力ナリ。

禪定ノ要ハ、禪ニ據リ定ニ入り、相ヲ離レテ空ヲ守リ、以^テ煩惱ヲ破壊シ、六塵ヲ拂拭シ、以^テ諸感ノ不調和ヲ根鋤スルニ在リ。都テ諸感ノ人ニ於ケルヤ、相ニ接スレバ生ジ、相ヲ離ルレバ滅ス。而シテ禪定ハ離相ノ妙術ナリ。是ヲ以^テ、禪ニ據リ定ニ入レバ、六塵一時ニ

消散シテ、煩惱即チ菩提ニ化シ、耳ニ隻手ノ聲ヲ聞キテ、身ハ火中ノ蓮ト爲リ、如何ナル諸感ノ不調和モ、之ガ爲ニ自ラ清空ニ歸ス。故ニ人ニシテ仁ヲ成シ、尙且心ニ不調和ヲ感ズルコトアルニ方リテ、能ク之ヲ平治シテ、其ノ仁心義氣ヲ沮喪セシメザルモノハ、禪定ニ若クハナシ。禪定モ亦諸感調和ノ大綱ナリ。

然レドモ是^レ唯、禪定ノ消極的の功益ニシテ、其ノ積極的の功益ハ更ニ是^{ヨリ}大ナルモノアリ。他ナシ。人苟モ自在ニ相ヲ離レテ空ト爲リ得ルニ至レバ、所謂一行三昧ト爲ルコトモ亦自在ナリ。一行三昧トハ事ニ當リテ餘念ヲ起サズ、雜念ヲ生ゼズ、其ノ一事ニ精神一到スルヲ謂フ。古人曰ハク、精神一到何事不成ト。自利以^テ成スベク、利他以^テ成スベク、仁愛以^テ成スベキナリ。諸感調和ノ大綱トシテ、禪定ノ功益最モ大ナル所此ニ在リ。

抑、禪定ガ此ノ如ク消積兩極ノ大功益ヲ奏スルハ、主トシテ修禪者其ノ人ノ性格ガ仁愛的ナルニ基ク。若シ修禪者其ノ人ノ性格ガ仁愛的ナルニ非ザレバ、禪定モ亦必ズシモ此ノ如キ功益ヲ奏セズ。要ハ道器如何ニ在リトス。

室内ノ氣出サレバ新氣入ラズ。井中ノ水汲マザレバ新水湧カズ。舊心去リテ新心生ズ。能ク新心ノ生ズルハ、能ク舊心ノ去ルニ由ル。老子曰ハク、既知其母、復知其子。既知

其子、復守ニ其母ト。所謂母トハ心ノ虛無ニシテ、子トハ心ノ發動ナリ。禪定ノ妙用ハ、専ラ奮心ヲ洗除シテ、一旦心中ヲシテ清空ナラシムルニ在リ。四相ヲ離レ、五趣ヲ離レ、眼上ニ君父ナク、眼下ニ妻子ナク、眼中ニ國家ナク、社會ナク、萬有ナク、神佛ナキニ至リテ止ム。住セズ、拘セズ、執着セズ、無念無想、無憶ト爲リ、利害得失、是非善惡、坦然トシテ一無字ニ歸スルコト、眠リタルガ如クナラシムルヲ要ス。而モ眠リタルト同シカラズ。最モ能ク覺メタルナリ。即チ此ノ身ヲシテ太初ノ大氣時代ニ歸ラシメ、悠悠トシテ大氣ト同化シ、優游トシテ心母ト和樂休息スルニ在リ。人苟モ心ヲシテ虛無清空、悠悠優游ナラシムルコト、能ク此ノ如クナレバ、其ノ必然ノ結果トシテ、自ラ新心迸發シテ生氣アリ。即チ四相五趣、利害得失、是非善惡ニ對スル智知情感再ヒ雲ノ如ク滿腔ニ漲リ、君父アリ妻子アリ、國家アリ、社會アリ、萬有神佛アリ、意志内ニ興起シ、言行外ニ活動シ、雷ノ如ク電ノ如ク盛ナルベシ。是レ實ニ禪定妙用ノ靈驗ナリ。然レドモ瓜ノ蔓ニ茄子ヲ結バズ。茹ノ枝ニ瓜子ヲ垂レズ。室外ノ氣汚レタルトキハ、室内ニ入りテ舊氣ニ代ルモ、依然トシテ穢汚セリ。泉下ノ水濁リタルトキハ、井中ニ湧キテ新水ト爲ルモ、依然トシテ混濁セリ。人心ニ於ケルモ亦然リ。縦ヒ定ニ入りテ舊心去リ、定ヲ出デ、新心生ズルモ、若

シ其ノ人ノ性格ニシテ、仁愛的素養ナカラシニハ、其ノ新心ノ活動スルニ隨ツテ、不仁不義ノ事益、多ク且甚ダシキニ至ルヲ免レズ。之ニ反シテ、若シ其ノ人ノ性格ニシテ、仁愛的素養アランニハ、新心ノ活動スルニ隨ツテ、益、能ク其ノ義ヲ行ヒ仁ヲ成スニ至ルベシ。故ニ正成行ヲシテ禪ヲ修メシメバ、最モ能ク正成行タル所ヲ發揮シ、玄坊道鏡ヲシテ禪ヲ修メシメバ、更ニ愈、玄坊道鏡ノ玄坊道鏡タル所ヲ助長セン。而シテ一ハ外社會國家ヲ害シ、内諸感ノ調和ヲ失フニ至リ、一ハ外社會國家ヲ利シ、内諸感ノ調和ヲ全ウスルニ至ルベシ。故ニ禪定ノ功益ハ固ヨリ大ナリト雖モ、獨リ仁愛的性格ノ素養アル人ニ取リテ能ク然ルノミ。

禪ニ野狐禪アリ。真人禪アリ。野狐禪ハ禪ニ據リテ不仁ヲ逞シクシ、真人禪ハ禪ニ據リテ仁愛ヲ全ウス。然レドモ本來禪定ニ此ノ如ク二種ノ相異ルアルニ非ズ。其ノ禪ヲ修メ定ニ入ルニ方リテハ、兩者トモ一ニシテ毫モ異ル所ナシト雖モ、其ノ之ヲ修ムル者ノ性格ニ仁愛的ナルト、不仁的ナルト二種アルニ因リテ、其ノ定ヲ出ヅルヤ、忽チ此ノ如キ雲泥ノ相異ヲ發現スルニ至ルナリ。所謂禪ニ五等ノ階級アリトスルガ如キモ、皆修禪者ノ性格上ヨリ區別シタルナリ。故ニ禪定ハ固ニ人ノ人タル精神ノ極致、諸感調和ノ大綱ナリト雖モ、不仁

的性格ノ人之ヲ修ムレバ、唯、一時其ノ不仁不義ヨリ招ク所ノ苦痛ヲ消滅シテハ、又更ニ不仁不義ヲ逞シクシテ、外ハ益、社會國家ヲ害シ、内ハ自ラ諸感ノ調和ヲ賊スルノミ。基督教ハ懺悔ヲ重シ、佛教モ懺悔ヲ重シ。先ヅ其ノ不仁ヲ懺悔シ、回心以テ仁愛的性格ヲ養成シテ、禪教ヲ修ムルニ非ザレバ、禪定ノ禍ヲ爲スコト此ノ如キモノアリ。鎌倉幕府以來我ガ士道ノ發揮シタルハ、禪教ニ因ルモノ極メテ大ナリト雖モ、其ノ古ヨリ 皇祖 皇宗 仁徳ヲ以テ民ヲ化シ給ヒ、之ニ加フルニ、應神天皇而還、列朝孔教ヲ以テ之ヲ培養シ、江戸幕府後、益、カヲ孔教ニ用ヒテ、其ノ仁愛的性格ヲ養成シタルモノ之ガ素地ト爲リタルニ由ル。方今禪教ヲ修ムル者日ニ多キハ、誠ニ慶ブベキコトナリト雖モ、其ノ是アルコトヲ忘レテ、漫ニ禪ヲ修ムルナランニハ、寧ロ憂フベキナリ。支那印度等以テ鑑ト爲スニ足ラン。

今支那ニ就キテ之ヲ按ズルニ、彼ノ土ニ於ケル仁心義氣ハ。堯舜禹二帝一王ノ時ニ當リテ最モ其ノ善美ヲ極メ、殷湯周武ノ二賊夏桀殷紂ノ二王ヲ亡ボシ、暴ヲ以テ暴ニ易ヘ、仁義ノ根軸ナル忠道ヲ懷リ、忠徳ヲ覆シ、ヨリ、縦ヒ一時文物ノ盛大ヲ致シ、モ、國民ノ仁心義氣ハ漸ク古ニ及バズ。孔子ノ大聖ヲ以テ之ヲ鼓舞セシニモ係ラズ、終ニ挽回スルコト能ハズ。

春秋ノ世ハ遂ニ戰國ノ世トナリキ。然レドモ春秋戰國ノ時ニ於テハ、尙仁義ノ教アリテ。仁心義氣ヲ作興シ、仁愛的性格ヲ養成スルコト少カラザリシガ、秦漢以後ニ至リテハ、唯、仁義ニ關スル字學語學等ノ教トナリテ、仁義ノ眞教ハ殆ド其ノ跡ヲ絶ツト共ニ、國民ガ仁愛的性格ヲ失ヘルコト久シ。故ニ梁ノ時ニ及ンデ、菩提達磨入來セシト雖モ、惜イカナ、支那ニ在リテハ彼ノ妙教モ以テ世道ヲ益スルニ足ラズ、反テ人心ノ萎靡ヲ助クル具トナリタリ。唐朝ノ時禪教ノ盛ナルニ當リテ、五祖大師ト六祖大師ト、衣鉢授受ノ際ヲ以テ之ヲ視ルモ思半ニ過グルモノアリ。當時五祖ノ門下ニ集ル禪徒千ヲ以テ數フ。六祖亦往キテ參禮ス。五祖一見シ、其ノ言ヲ奇トシテ與ニ語ラント欲セシモ、徒衆ノ左右ニ在ルヲ以テ、遂ニ語ラズ。退キテ作務セシメ、後一日、潛ニ見テ曰ハク、吾思フニ汝ノ見用フベシ。惡人ノ汝ヲ害センコトヲ恐レテ、遂ニ汝ト言ハザリキト。六祖曰ハク、弟子モ亦師ノ意ヲ知リテ、敢テ堂前ニ行キ至ラズ、人ヲシテ覺ラザラシメントセリト。噫、兩祖ノ徳ヲ以テスルモ、其弟子伴侶ハ皆兩祖ノ敵ナリキ。當時支那人既ニ大ニ仁愛的性格ヲ失ヒ、參禪禮拜者ト雖モ、如何ニ仁心義氣ニ乏シカリシゾ。又一日五祖門人ヲ集メテ曰ハク、各、一偈ヲ作り來リテ吾ニ看セシメ。若シ大意ヲ悟リタランニハ、衣法ヲ付シテ第六代ノ祖ト爲サント。神

秀上座先ツ菩提樹ノ偈(身是菩提樹。心如明鏡臺。時時勤拂拭。勿使惹塵埃。)ヲ作ル。六祖之ヲ駁スルニ、菩提無樹ノ偈(菩提本無樹。明鏡亦非臺。本來無一物。何處惹塵埃。)ヲ以テシテ、五祖ノ心ヲ得タリ。徒衆モ亦驚ク。五祖人ノ六祖ヲ害センコトヲ恐レ、詐リテ曰ハク、未ダ見性セズト。衆喜ブ。是レ學校ニ於テ、教師ガ或生徒ノ答案ヲ可トスレバ、他ノ生徒之ヲ妬ミ。不可トスレバ之ヲ喜ブガ如シ。此ノ一喜一妬ハ何ニ由リテ生ズルカ。全ク仁心義氣ノ素養ナク、妄ニ仁義ノ外ニ立チテ競争スル所アルニ由ラズンバアラズ。次日五祖潛ニ往キテ。六祖ガ米ヲ舂ツケルヲ見テ曰ハク、米熟スヤ未ダシヤト。六祖曰ハク、米熟スルコト久シ。猶篩ヲ缺グアリト。五祖杖ヲ以テ確ヲ擧チ三下シテ去ル。六祖即チ其ノ意ヲ會シテ、即夜三更五祖ノ室ニ入ル。五祖袈裟ヲ以テ遮圍シテ人ヲシテ見セシメズ、爲ニ金剛經ヲ説キ、便チ竊ニ頓教及ビ衣鉢ヲ傳ヘテ、第六代ノ祖ト爲シ、曰ハク、汝速ニ去ルベシ。恐クハ人汝ヲ害セント。即夜保護シテ自ラ送り、山ヲ越ヘ川ヲ渡リ、別ニ臨ンデ曰ハク、宜シク速ニ説クベカラズ。佛法難起ラント。噫、兩祖ノ徳ヲ以テ、尙且此ノ如キ奇策ヲ運シ、權道ヲ執リテ、其ノ弟子伴侶ニ對スルノ止ヲ得ザルニ至ラシムルモノハ、畢竟四衆參禪者ニ仁愛的性格缺乏シテ、不仁不義ノ行爲ヲ逞シクスル者多キニ由ラズンバ

アラズ。當時頗ル文物ノ見ルベキモノアリテ、我ガ國ノ如キハ、多ク其ノ文物ヲ學做セルコト宛モ明治維新來歐米ニ對スルガ如クセシ唐朝ノ時ニ際シテ、而モ猶此ノ如シ。亦以テ支那人心ノ如何ニ益々頹廢セルカハ、推シテ知ルベキナリ。六祖既ニ黃梅ヲ去リ、南走兩月大庾嶺ニ至ル。果シテ後ヲ追フ者數百人アリ。六祖僅ニ難ヲ免レ、曹溪ニ至ル頃、再ビ又追フ者ニ迫ラレ、乃チ四會ニ於テ、獵人ノ隊中ニ入りテ隠ル、コト、凡ソ十五年ナリト云フ。噫、當時禪教ノ盛ナルニ際シ、殊ニ達祖正系ノ衣鉢ヲ襲ギタル黃梅ノ門下ニ於テ、尙且此ノ如シトセバ、其ノ支那ニ於ケル禪教ハ、其ノ世道ヲ益スルニ足ラズ、反テ人心ヲシテ益々腐敗セシメタルコト推シテ知ルベキナリ。夫レ五祖大師ノ門下ニ六祖大師ノ在リシコトハ、孔門ニ於ケル顏淵ニシテ、固ヨリ餘人ノ及バザル所ナルベシト雖モ、神秀上座ヨリ以下ノ徒衆モ禪道ニ於テハ、豈無修無學ノ比ナランヤ。縱ヒ彼等ガ六祖大師ノ如ク、明ニ宗旨ノ玄奧ニ達セザルトモ、良將ノ下ニ弱卒ナキガ如ク、五祖大師ノ門下ニ在リタル者ハ皆多少ノ禪機ヲ有シ、定味ヲ得ザリシ者ナカルベシ。而モ其ノ恩師ヲシテ常ニ法難疑懼ノ憂ヲ懷カシメ、益友ヲ嫉視シテ、競名ノ爲ニ生命ヲモ奪ハントスル者、數百人ノ多キニ至レリ。是レ支那ニ於ケル仁義ノ教衰ヘテ、國民ガ仁愛的性格ヲ失ヘル結果ニシテ、隨ツテ

同一釋尊達祖ノ妙法靈教モ、彼ノ國ニ在リテハ、我が國ニ於ケルガ如ク、世道人心ニ益スルコト能ハザルノミナラズ、寧ロ是ニ由リテ益、其ノ不仁不義ヲ逞シクシ、或ハ枯木死灰ノ活氣ナキガ如クナリタルノ迹、歴歴トシテ史ニ明ナルモノアリ。余少時韓退之ノ論佛骨表ヲ讀ミテ、頗ル其ノ言ヲ淺薄ナラザルカト疑フ所アリシト雖モ、當時彼ノ士ニ在リテハ、誠ニ頂門ノ一針タリシナリ。又柳子厚ノ曹溪第六祖賜諡大鑒禪師碑ヲ讀ミテ、六祖ノ徳ノ大ナルヲ想ヘリト雖モ、遂ニ當世ノ士氣ヲ振興スルコト能ハザリシヲ憾ミ、又是レ六祖ノ徳足ラザルニ非ズシテ、其ノ徒數千ノ多ナルモ、概ネ皆雕朽ヲ加フベキ道器ヲ有セザルコト、亦黃梅ノ門下ニ於ケル徒ト相異ル所ナキヲ哀メリ。要スルニ、支那國民ノ士氣長ヘニ散漫懈惰シテ、之ニ禪ヲ教フレバ、益放縱ニ流レテ、教ノ施ス所ナキニ至レルナリ。其ノ後宋朝明朝ニ及ンデ、漢唐ノ訓詁學一變シテ、所謂理學氣學ト稱スルモノ起ルニ至リテ、稍仁義ノ教復舊スルニ至リタリト雖モ、暫時ノ泡影ニシテ、是レ亦終ニ一種ノ字學語學トナリ了リス。清朝考證學起ルニ及ンデハ、再ビ純然タル字學語學トナリテ、益、其ノ混雜ヲ極ムルニ止リ、仁義ノ眞教ハ遂ニ其ノ跡ヲ絶チタリ。故ニ將來ハ知ルベカラザルモ、今日マデノ支那人民ノ仁心義氣ハ、古ニ溯ルニ隨ツテ厚ク、後世トナルニ隨ツテ薄シ。支那人動モ

スレバ燒季ヲロニシ、一モ二モナク古代ヲ尙フ所以ノモノ、洵ニ故アルナリ。惜イカナ彼ノ國民ニ在リテハ、實ニ我が國人ノ日ニ新ニ仁愛的性格ノ益、發達シタルガ爲ニ、一世ハ一世ヨリ大ニ禪定ノ功益ヲ收メ、以テ能ク人ノ人タル精神ノ極致、諸感ノ調和ヲ全ウスル航路ヲ取リテ進ミ來リシモノト相反セリ。今吾人彼ノ爲ニ之ヲ惜ム。我が國民タル者他日彼ヲシテ我が爲ニ惜マシムルコトアルナキヲ期セザルベカラザルナリ。

印度ニ至リテハ、固ヨリ支那ノ比ニ非ズ。支那ハ縱ヒ字學語學的ニモ、孔教ヲ修ムルコト數千歲、綿綿トシテ殆ド自然的ニ其國教ト爲シ、日夜訓詁考證論議講究スルコトヲ忘レズ。而シテ其ノ問學スル所、皆仁義忠孝ヲ卷舒博約スル事ニ非ザルハナシ。是ヲ以テ、彼ノ如キ齋國ニシテ、全ク仁愛的性格ヲ失フニ至ラズ。眼ニ一丁字ナキ下流者ハ論ズルニ足ラズト雖モ、中流以上ニ於テハ、時々復興シテ生意アリ。且佛教ヲ以テ頗ル其ノ學中ニ同化セリ。朱學王學ノ如キハ、最モ能ク妙和シテ殆ド其ノ痕迹ヲ存セズ。故ニ清朝ノ考證學ノ如キ、縱ヒ進徳ノ實學ニ遠シトスルモ、決シテ告朔餼羊ノ類ニ非ズ。告朔ノ餼羊スラ、孔子ハ之ニ忠孝可復ノ望ヲ屬セリ。況ヤ其ノ餼羊以上ナルニ於テヤ。支那國民ノ畏敬親愛スベキハ此ニ在リ。他ノ國民ガ此ノ文字アル中流以上ノ支那人ヲ輕視シテ、彼倨傲ナリト言

フ者アリト雖モ、安ゾ知ラン、此ノ光輝アル文字ヲ有スルガ故ニ、其ノ心自ラ高尚ニシテ其ノ輕視ニ反應スルモノ、乃チ倨傲ノ如ク見ユルニ非ザルカヲ。又安ゾ知ラン、彼果シテ倨傲ナルモ、其ノ之ヲ輕視スル倨傲ハ、更ニ彼ヨリ甚ダシキニ非サルカヲ。然レドモ釋尊達祖ノ郷國タル印度國民ガ、長ヘニ沈淪シテ奮ハザル所以ハ、全ク仁義ノ教興ラズ、國民ノ仁心義氣大ニ乏シカリシガ爲ニ、佛教ノ濟度アリタルモ、其ノ國民ノ子孫ヲシテ今日ノ印度人タラシムルヨリ外ナキニ因ル。豈哀マザルベケンヤ。抑、亦以テ禪定ノ功益ハ、修禪者ニ仁愛的性格アルニ由リテ、始メテ能ク其ノ功ヲ奏スルモノナルヲ知ルベキナリ。

從來佛教ニハ戒律ノ教アリテ、仁心義氣ノ修養モ亦忽ニセザル所ナリト雖モ、而モ力ヲ修禪與信ノ二面ニ注ギタルヲ以テ、仁義ノ教ハ固ヨリ孔門ノ專攻ナルニ若カザルナリ。故ニ孔教ニ藉リテ仁義忠孝ノ徳ヲ養成セルコト、我が國人ノ維新前マデニ於ケルガ如キニ非ザレバ、禪教ニ於ケル功益ヲ收メンコト、決シテ望ムベキニ非ズ。抑、仁義ノ教アリト雖モ、禪定ノ教之ニ加ルコト、鎌倉幕府以來ノ如クナルニ非ザレバ、亦何ヲ以テカ能ク我が國民ノ如キ徳ヲ養ヒ道ヲ成スヲ得ンヤ。孔門仁義ノ真教ト佛門禪定ノ妙教トハ、益、研鑽修學ヲ要スルコト明ナリ。然レドモ我が國兩門ノ二教ガ、假ニ昔日ヨリ衰ヘズトスルモ、他ノ學

術藝能ノ教大ニ進歩シタルニ後ル、コト千里モ管ナラザルニ似タリ。若シ果シテ然ランニハ、日ニ世情現象ノ非ナルモノ益、多カルベキハ、必然ノ勢ナリ。

學術藝能ハ孔門ニ於テモ重ンズル所ニシテ、彼ノ六藝ハ文武備上大切ナル課目トセリ。佛門多能ノ徒アルヲ以テ見ルモ、亦藝術ハ其ノ重ンズル所ナリ。是ヲ以テ今ノ世ニ生レテ今ノ術藝ヲ學ブハ、實ニ孔佛兩門ノ要件ナリト雖モ、二教ノ術藝ニ於ケルヤ、道德ヲ全ウセンガ爲ニ要スル技能トシテ之ヲ務メ、道德ノ學習ニ最モ力ヲ用ヒテ、其ノ餘力ヲ以テ藝術ヲ修ムルコト、シ、如何ナル術藝モ皆之ヲ道德内ニ發揮シテ、如何ナル事業モ皆道德上ノ花實タラシメンコトヲ期セリ。我が國民ノ徳性ハ固ヨリ 皇祖 皇宗ノ徳ニ基キテ發達セリト雖モ、千年以上ノ久シキ間、孔佛二教ノ之ヲ餌養セルコト與リテカアリ。就中、孔子ノ徳教ハ忠孝博愛ノ專攻ニシテ、格物致知、誠意正心ヨリ、修身齊家、治國平天下ニ至ルマデ、其ノ主要ナル徳性ヲ發育スベキ教ナルヲ以テ、教育ニ關スル 勅語ニ仰セ給フ所ノ道ヲ修メテ、聖意ニ副ヒ奉ラントスル徳ヲ養フニハ、蓋シ孔教ニ若クハナシ。應神天皇而還、我が國民ノ徳性ヲ餌養スル主食トシテ、列朝之ヲ採用セラレテ、年々其ノ問學講習ノ發展ヲ圖リ、千數百年ノ久ニ亘ルモ、其ノ進ヲ勵シ其ノ退ヲ警メ給フコト一日ノ如クナ

リシ所以モ、亦此ニ存スルカ。然レドモ此ノ歴史アルニモ關ラズ、近來國民ノ儒學ニ對スル心ハ、他學ニ對スル心ヨリ衰ヘタルニ似タルモノアラザルカ。若シ衰ヘタリトセバ、之ニ代リテ 勅語ノ 聖意ニ副ヒ奉ラントスル徳性ヲ養フ主食トシテ、盛ナル餌力アルモノハ何ゾヤ、若シ儒學日ニ衰ヘ、而モ之ニ代リテ餌力盛ナルモノナカラシカ、徳性ノ營養足ラザルガ爲ニ、徳性衰弱シ、不徳其ノ隙ニ乘ジテ精神内ニ増長シ、加之、誘惑強迫等ノ不徳外界ヨリ侵入シ、内外相應シテ徳性ヲ亡滅セズンバ止マザルベシ。而シテ此ノ如キ者禪學ヲ修ムレバ、其ノ結果皆野狐禪タルベシ。何トナレバ、禪定ノ道ハ、譬ヘバ強壯劑ノ如キモノナルガ故ニ、仁義的徳性乏シキ者之ヲ修ムレバ、其ノ不徳益強壯ナルベケレバナリ。實ニ禪教ハ天下ノ妙教ナリト雖モ、亦危険ナルカナ。抑、是レ禪教ノ罪ニ非ズ、未ダ其ノ禪學ヲ修メザルニ先チ、不徳其ノ内ニ充實シテ、狐憑ノ如クナリタル者ニ非ズンバ、何ヲ以テカ此ニ至ラン。彼ノ野狐禪アルガ爲ニ禪教ヲ害トスルハ、猶放蕩兒アルガ爲ニ蓄財ヲ毒トスルガ如キナリ。禪教ナシト雖モ、野狐天下ヲ蹂躪セン。

夫レ身體強壯ニ向ハバ、身ニ病アリト雖モ、自然ノ生理作用ニテ、病魔ヲ除治シテ、身體益健康ト爲ル。之ニ反シテ、身體羸弱ニ向ハバ、宿病内ニ増長シ、且諸病外ヨリ侵入シ、

内外相呼應シテ、其ノ身ヲ殺サントス。強壯劑アリト雖モ、其ノ天壽ヲ全ウスルコト能ハザルベシ。而モ其ノ初、身體ヲシテ羸弱ニ向ハシムルモノハ何ゾヤ。第一營養ノ不良ト、第二病魔ノ宿在トヲ等閑ニ附置シタル結果ナリ。人ノ人タル徳性ノ強弱死生相岐ル、所以ハ、噫亦之ニ似タリ。

第四章 基教ト信仰

基督教ノ要ハ、神ヲ認メテ神ニ對スル信仰ヲ全ウセシメントスルニ在リ。其ノ説ク所多端ナリト雖モ、眼目ハ左ノ二項ナリトス。

第一、神ハ人ニ對シテ罪惡ヲ悔改シ、正善ヲ全ウスルコトヲ要求ス。人ハ當ニ神ヲ信ジテ神意ニ副フベキナリ。

第二、神ハ神意ニ副フ者ヲバ助ケテ天國ニ入レ、永生ヲ授ケ、神意ニ副ハザル者ヲバ斥ケテ地獄ニ投ジ、絶滅セン。人ハ當ニ神ヲ信シテ天國ニ入り、永生ヲ受クベキナリ。右二項ノ外、新約書所傳ノ條項ヲ數ヘ舉グレバ、許多アリト雖モ、基督教ノ根本ニ非ズシテ、皆末節枝葉ナリ。末節枝葉ニハ基督ノ旨趣ニ非ザルベシト疑ハレ、往往其ノ意ヲ得ザ

ルモノアリ。然レドモ是レ何ゾ獨リ新約書ニ限ランヤ。孟子曰ハク、盡ク書ヲ信ゼバ、書ナキニ如カスト。之アルガ爲ナリ。左ニ神ト人ノ題目ノ下ニ第一項ヲ論ジ、天國ト永生ノ題目ノ下ニ第二項ヲ論ジ、信仰ト基督ノ題目ノ下ニ第一第二兩項ヲ結論シ、以テ信仰ノ基礎ヲ立テ、次ニ辯妄解惑論弊ノ題目ノ下ニ信仰上ノ妄ヲ辯ジ、惑ヲ解キ、及ビ其ノ弊害ヲ論ジ、以テ信仰ノ益、堅固ニシテ、殊ニ眞實ナランコトヲ祈ル。

其ノ一 神ト人

曰ハク神アリ、曰ハク神ナシトテ、神ノ有無ヲ論ズル者、上世ニ於テハ殆ド絶無ニシテ、後世漸ク盛ナリ。基督ノ時、其ノ教ヲ沮害シタル者多シト雖モ、未ダ一人モ無神論ヲ唱ヘテ、根柢ヨリ其ノ教ヲ顛覆セントシタル者アラザリキ。後世唱フル所ノ無神論ノ如キハ、基督教ニ害アルコト、豈當時基督ニ反對シタル者ノ比ナランヤ。若シ基督ヲシテ今日ニ生レシメバ、其ノ云爲スル所果シテ如何ゾヤ。然レドモ吾人ハ無神論ニテモ、有神論ニテモ、其ノ教ノ眞實無妄ニシテ、吾人ヲ満足セシムル所ノモノナランニハ、崇拜シテ之ニ從ハント欲スル者ナリ。縱ヒ無神論全勝シ、有神論全滅シ、天下ノ對神的信仰ノ教悉ク跡ヲ絶ツニ至ルト雖モ、憾ム所ナシ。況ヤ獨リ徒ニ基督教ノ存亡ヲ憂フル者ナランヤ。

有神論者曰ハク、神アリ天ニ在リ、地ニ及ビ六合ニ亘リ、宇宙ヲ監シ、萬有ヲ主宰スト。而シテ無神論者之ヲ一笑ニ附シテ顧ミズ。何ヲ以テ然ルカ。曰ハク、凡テ人ハ感ズレバ知リ、知レバ感ジ、知感互ニ相前後シテ結合ス。而シテ色聲嗅味觸ニ對スル知感ノ作用ハ、感先ニシテ知後ナルコトアリト雖モ、無色無聲無嗅無味無觸ニ對シテハ、先ヅ之ヲ認知スルニ非ザレバ、何ノ感應ヲモ爲サズ。必ズ先ヅ知リテ後ニ感ズルコトアルノミ。基督稱スル所ノ神ハ無色無聲無嗅無味無觸ナリ。所謂神ノ聲ヲ聽キ、神ノ形ヲ視ルトハ、無形ニ其ノ形ヲ視、無聲ニ其ノ聲ヲ聽キ、無嗅無味無觸ニ其ノ神意ヲ知ルコトニシテ、物質ノ聲ヲ聞キ、物質ノ形ヲ見ルノ類ニ非ズ。故ニ情ガ、其ノ神ナルモノニ、感ズルニハ、先ヅ智ガ之ヲ知リタル後ナラザルヲ得ズ。是ヲ以テ、無神論者ガ人智ニ於テ、認識シテ合理的ニ説明シ得ザル以上ハ、縱ヒ有神論者ガ神アリト絶叫スルモ、迷ナリト言ヘルノ當然ナルニモ係ラズ、或有神論者ハ、之ニ對シテ合理的の説明ヲ與ヘズ、而シテ毎ニ譬喩ヲ以テ之ヲ言ヒ、曰ハク、譬喩ニ非ザレバ論シ難シト。往古愚昧ナル時ト近世ニテモ愚昧ナル人トニ於テハ、乃チ其ノ譬喩ノ巧ナルモノニ服スルモ、本來譬喩ハ實相ニ非ズ。實相ヲ知ラシメンガ爲ニ用フル便方ノミ。神ノ存在ニ就キテ、合理的の説明ヲ求ムル如キ者ニ對シテ、到底譬

喩ヲ以テ當リ得ベキニ非ズ。是レ無神論者ノ嗤笑スル所以ナリ。且基督ノ常言ニ曰ハク、神ヲ視ヨ、神ヲ知レト。皆之ヲ人ノ智識ニ向ツテ望メリ。而シテ無神論者ガ、本來神ナルモノナキヲ以テ之ヲ知リ之ヲ視ルベキ理由ナシトシテ、攻撃難駁セルニ、或有神論者曰ハク、神ハ唯、情以テ感ズルニ非ザレバ、到底神ヲ知ルコト能ハズト。結局合理的の説明ヲ與ヘズ。是レ全ク無色無聲無嗅無味無觸ニ對スル情感ハ、夢中ニ於テ感ズルコトニテモ、智ガ先ツ何カ認知スルニ非ザレバ、決シテ發動スルモノニ非ザル所ノ心理ヲ知ラザル者ノ言ニシテ、取ルニ足ラザルナリ。蓋シ此ノ如キ言ヲ立ツル有神論者モ、嘗テ何カ深ク感ズル所アリテ、其ノ感シタル對象ヲ以テ神ト信ズルニ先チテ、何カ不可思議ノ事ヲ認知シテ、其ノ認知シタル所ニ感動シタルヤ明ナリ。抑、其ノ不可思議ノ事ヲ認知シテ、之ニ感動シタルガ爲ニ、茲ニ神アリトスルハ、智識足ラザル者ガ、怪物ヲ見怪談ヲ聞キテ、此ニ神アリト叫ブト何ゾ擇バンヤ。若シ又吾何ノ不可思議ヲモ認知セズ、唯、神ニ感シタリト曰ハンカ。是レ其ノ感ズルニ先チテ、何カ認知シタル所アリテ之ガ原因トナレルヲ自識セザルカ。或ハ忘却シタルナリ。何トナレバ、人ハ無色無聲無嗅無味無觸ニ對シ、何ノ認知スル所ナクシテ感動スルコトハ、心理上絶無ノ事ナレバナリ。而シテ其ノ認識ニ錯誤アレバ、如何ニ深ク感動シテ

神ノ存在ヲ信ズルモ、其ノ信仰ハ盲信ニ非ザレバ、迷信ナリ。其ノ神ノ存在説トシテ價値ナキコト、不可思議ニ驚キテ神アリト言フガ如キモノト逕庭ナシ。況ヤ合理的の説明ヲ爲ス能ハズシテ、唯リ情以テ感應セリト言フニ於テヤ。又或ハ盲信ニテモ、迷信ニテモ、信仰アルハ信仰ナキニ優レリ。殊ニ愚夫愚婦ニ取リテノ信仰ハ、最モ必要ナリト曰フ者アリト雖モ、神ノ有無ヲ論ズルニ方リテハ、是レ問題外ニシテ、此ノ如キコトヲ曰フハ、神ノ存在ヲ説クニ、其ノ立言ヲ亂ルノミニシテ、何ゾ益セン。噫、宇宙ニ萬有ヲ司ル所ノ唯一ノ神ナルモノ果シテ無キカ。

無神論者曰ハク、有神論者ガ其ノ所謂神ニ就キテ、合理的の説明ヲ満足ニ與ヘザル以上ハ、如何ニ宇宙ニ神アリテ、萬有ヲ司レリト言フモ、決シテ信ズルコトヲ得ズト。其ノ有神論ノ缺點ヲ非難スル論鋒實ニ鋭シト雖モ、然レドモ神ノ存否問題ト有神論ノ得失トハ別事ナリ。即チ有神論者ノ立言ガ其ノ當ヲ得ルヲ待ツテ、始メテ神アルニ至ルベキニ非ズ。又其ノ立言ガ當ヲ失ヒタリトテ、終ニ神ナキニ至ルベキニモ非ズ。故ニ有神論者ガ合理的の説明ヲ爲サル以上ハ、宇宙ニ萬有ヲ司レル所ノ神アラズト言フガ如キハ、是レ亦不合理ノ斷定ナリ。故ニ無神論者タルモノハ、唯、有神論者ノ説明不合理ナル所ヲ攻撃スルノミヲ以テ

能事ト爲サズシテ、須ク無神ノ事實ヲ明ニシテ、世人ニ満足ヲ與フベキナリ。或人曰ハク、萬有ハ皆一定ノ法則ニ遵ツテ變化セリ。故ニ萬有ハ法則ニ支配セラル、ノミニシテ、法則ノ外ニ萬有ヲ支配スルモノナキハ、明ナル事實ナレバ、又別ニ神ナルモノアリテ、萬有ヲ司レリト思フハ妄想ナリト。然リ、萬有ハ各、一定ノ法則ニ遵ツテ動作スト雖モ、凡テ動作セシムルモノハカナリ。然レドモ法則ハ理ナリ。何ノカヲモ有セズ。故ニ法則ガ萬有ヲ支配セリト思フハ誤謬ノ最モ甚ダシキモノナリ。宋儒ニ理氣ノ說アリ。先ヅ理アリテ後ニ氣アリ。理ハ氣ヲ制シ、氣ハ理ニ致サル、ナリトセリ。法則ガ萬有ヲ支配セリトスル所ノ觀念ハ、頗ル宋儒理氣ノ謬見ニ似タリ。夫レ法則ハ萬有中ニ行ル、所ノモノナリ。人能ク萬有ガ其ノ動作スルカヲ以テ、千變萬化ノ現象ヲ呈出スル迹ニ就キテ、各、一定ノ條理アルヲ發見シ、名ケテ法則ト云ヘルノミ。豈條理ト云ヒ、理法ト云ヒ、法則ト云フモノニ一物ヲモ支配スルカアランヤ。蓋シ法則ガ萬有ヲ支配セリト思フ所以ハ、萬有ニ於ケルカト萬有ガ其ノカヲ以テ動作スル法則トヲ混同視スルニ由ル。即チ物ガ其ノ物ニ有スル物カヲ以テ、其ノ物ニ存スル物理ニ由リテ動作スルヲ見テ、物理ガ動作セシムルモノト信シタル顛倒的錯誤ノ觀念ニ基ケルナリ。而シテ直ニ此ノ錯誤ノ觀念ヲ根據トシテ、宇宙ニ萬有ヲ司レル

神ナシト曰フハ不合理ノ斷定ナリ。或人又曰ハク、萬有ノ現象ハ萬有自ラ之ヲ爲セリ。復何ゾ神ナルモノアリテ關スル所アラント。然リ、萬有ノ現象ハ萬有自ラ之ヲ爲セリ。然レドモ宇宙萬有中ノ細小物タル人體ニ於テスラ、尙且精神アリテ統一自治スルコトヲ務ムルニ係ラズ、唯、萬有ノ現象ハ萬有自ラ之ヲ爲セリトノ故ヲ以テ、其ノ萬有ヲ以テ構成セル宇宙ニ、其ノ自ラ萬有ヲ司レル所ノ統一的神靈ナシト曰フガ如キハ、亦不合理ノ斷定ナリ。況ヤ萬有ハ其ノ太初宇宙唯一ノ氣體ニシテ、此ノ氣體ヨリ生シタルモノト認メラル、ニ於テヤ。或人又曰ハク、苟モ宇宙ニ統一的神靈アラバ、能ク宇宙ヲ統一シテ宇宙ニ變亂ナク、萬有皆其ノ所ヲ得ベキニ、實際然ラザルヲ以テ之ヲ視レバ、其ノ神靈ナキハ明ナリト。然レドモ國家完全ニ治ラザルガ爲ニ國家ニ統一者ナク、心身完全ニ治ラザルガ爲ニ人ニ統一性ナシト言フベカラザルコトハ、誰モ皆認ムル所ナリ。而ルニ獨リ宇宙ニ變亂アルノ故ヲ以テ、宇宙ニ統一的神靈ナシト云フハ、益、不合理ノ斷定ナリ。且人ヨリ視テ宇宙ノ變亂ト稱スルモノ、之ヲ宇宙ノ神靈ヨリ視レバ、反テ其ノ統一的方法ナルカモ未ダ知ルベカラザルナリ。

余ノ寡聞ヲ以テスルニ、有神論者ノ說モ明確ナラズ、無神論者ノ說モ明確ナラザルコト此

ノ如シ。基督言フ所ノ如キ神果シテ無キカ。神果シテ有ルカ。吾人ハ有耶無耶、半信半疑ノ間ニ迷ヘルコト久シ。近來衆物進化ノ研究益、精密ニシテ考證愈、確實ナルニ至リ、無神論者ハ此ニ據リテ一層無神説ヲ主張シ、有神論者モ此ニ據リテ一層有神説ヲ主張ス。然レドモ進化説ハ未ダ以テ無神トモ有神トモ断定シ得ベキ材料ト爲スニ足ラズ。唯、此ニ由リテ、無神論者ト有神論者トガ、各、其ノ立言ニ一步ヲ進メタルコトヲ見タルノミニテ、尙雲霧ニ遮ラル、ノ感アリ。

抑、吾人退キテ吾人ノ身ヲ顧ミルニ、罪惡ト正善ト相對峙スルヲ認ム。吾人深ク其ノ知ル所ニ感ズルト同時ニ、罪惡ヲ改メ正善ヲ全ウセンコトヲ願フ。何モノカ此ノ知感欲望ヲ爲ス。由來之ヲ精神ニ於ケル徳性ノ爲ス所ト云フ。然リ徳性之ヲ爲ス。然レドモ其ノ徳性ノ然ル所以ノ又然ル所以ヲ究メ、其ノ本ノ又本ヲ尋ヌルニ、畢ニハ自ラ其ノ然ル所以ヲ知ラズ。誰カ人ノ精神ニ此ノ徳性ナルモノヲ存在セシメテ、能ク此ノ如ク然ラシムルカ。必ズ然ラシメントスルモノナキヲ得ズ。而モ亦得テ知ルベカラザルナリ。吾人知ラザルモノ多シ。就中此ノ得テ知ルベカラザルモノニシテ、吾人ヲシテ其徳性ニ據リテ能ク此ノ如ク然ラシメントスル偉大ノ力ヲ有スルモノアルヲ知ル。是レ人ノ精神ニ徳性ヲ賦與シタルモノナラザルヲ

得ズ。而シテ人ノ徳性ハ之アルヲ知リテ之ニ感ジ、之ヲ畏レ、之ヲ敬シ、之ヲ愛シテ之ヲ神ト曰フ。新約書ニ於テ吾人ノ教ヘラル、神ナルモノハ是ナリ。然レドモ是レ人ノ精神ニ於ケル徳性上ヨリ推シテ、人ノ精神以外ニ別ニ神靈ノ存在スルコトヲ認メタルノミ。若シ萬有ニ對スル神ノ能力果シテ如何ナルカハ。吾人其ノ説ヲ知ラズ。乃チ説ヲ知ラズト雖モ、能ク人ニ對シテ其ノ作用ノ此ノ如キ偉大ナルモノアルヲ認ムル以上ハ、所謂宇宙ノ氣體時代ヨリ、既ニ宇宙ヲ統一スル神ナルモノアリテ萬有ヲ化成シ、而シテ之ヲ主宰セリトノ教、亦決シテ疑フコト能ハズ。蓋シ人ハ多ク之ヲ論ズルヲ以テ急務ト爲サズ。須ク先ツ己ノ罪惡ト正善トヲ認メ、罪惡ヲ悔改シ、正善ヲ全ウセントスル所以ノ根源ヲ考ヘ、以テ人ニ對スル神意ノ在ル所ヲ知ルベキナリ。基督ノ常言ニ、神ハ人ニ對シテ罪惡ヲ悔改シ、正善ヲ全ウスルコトヲ要求スト曰フ所以ノモノ此ニ在リ。所謂信仰トハ篤ク之ヲ信シテ感ハズ、其ノ神意ニ順ハンガ爲ニ心術ヲ盡シ、言行ヲ盡シ、力盡キテ我が事畢リ、斃レテ後ニ止マントスル是ナリ。

其ノ二 天國ト永生

基督ノ所謂天國ハ永生ノ在ル所ニシテ、永生ハ天國ニ於ケル靈ナリ。故ニ天國ノ門ハ永生

之ヲ開キ、永生ノ靈ハ天國之ヲ承クルモノト謂ツベシ。言高クシテ旨深ク、其ノ味限リナシ。抑、迷信ノ起ル所以モ亦此ニ在リ。

夫レ人ノ精神作用ニ、或ハ善ナル時アリ、或ハ惡ナル時アリ、或ハ善惡對立スル時アリテ、善惡ノ兩作用雜糅セリ。是レ唯一個ノ精神ナリト雖モ、其ノ中ニ善作用ヲ爲スモノト、惡作用ヲ爲スモノトノ兩性ナキヲ得ズ。荀子ノ性惡説ト、孟子ノ性善説トハ、各、其ノ一方ヲ取リテ、之ヲ人性トシテ主張シタルナリ。基督稱セル所ノ天國ト永生トヲ知ラントスルニハ、先ヅ精神ニ於ケル此ノ兩性質ヲ審ニスルヲ要ス。

既説ノ如ク、人ノ精神トハ知感欲望心術言行ヲ爲ス能力ノ謂ナリ。然レドモ此ノ能力ハ禽獸モ亦之ヲ有シ、能ク知ルアリ。感ズルアリ。欲望心術言行ヲ爲スアリ。其ノ言語語義ハ吾人會スル能ハズト雖モ、其ノ音調ト舉動トヲ見聞シテ、其ノ同類間ニハ必ず相通ズル所ノ言語アルヲ認メ得ラル、ナリ。其ノ知感欲望行為等ニ至リテハ、更ニ確認シ得ベキモノアリ。随ツテ之ニ相應スル心術ヲ有スルコトモ、亦推察スルニ難カラズ。故ニ唯、知感欲望心術言行ヲ爲スト謂フノミノ點ヨリ之ヲ視レバ、其ノ性質ハ人類ニ於ケル精神モ、獸類ニ於ケル精神ト相異ル所ナシ。而ルニ同一食色ニ於テモ、禽獸ニ就キテハ其ノ善惡ヲ問ハズシ

テ、獨リ人ニ於テノミ其ノ善惡ヲ議スルコトアルハ何ゾヤ。是レ禽獸ハ人倫ノ理法ヲ以テ論ズベキ性質ヲ有セザルニ由ル。抑、牛馬街衢ニ尿洩シ、或ハ田野ヲ走り、米麥ヲ害スルモ、是ヲ以テ、其ノ性ノ善惡ヲ論ズル者ナキガ如ク、稚兒堂上ニ放尿シ、或ハ障子ヲ破リ、器物ヲ毀ツモ、是ヲ以テ、其ノ性ノ善惡ヲ論ズル者ナキハ何ゾヤ。是レ幼稚ニシテ未ダ倫理ヲ知り、倫理ニ感ジ、倫理ニ從ハント欲シテ、倫理ニ一致スル心術言行ヲ爲シ得ル能力ノ開發スベキ年齢ニ達セザレバナリ。然レバ人性ノ獸性ト異ル所ハ、其ノ徒ニ知感欲望心術言行ヲ爲スニ在ラズシテ、其ノ長ズルニ随ツテ漸々倫理ヲ知り、倫理ニ感ジ、倫理ニ從ハント欲シテ、合倫理的心術言行ヲ爲ス能力ノ開發スルニ在リ。如何ニ數理物理、天文地理、技術工藝等ノ學ヲ知り、其ノ學ニ感ジ、其ノ學ヲ欲シ、其ノ學ニ從ツテ如何ナル事ヲ考へ、如何ナル業ヲ爲スモ、此ノ如キハ獸性的知感欲望心術言行ノ發達シタルニ過ギス。故ニ人ノ精神ニハ禽獸ト同ジキ性質ト異ル性質トヲ兼有スト謂ツベシ。随ツテ獸性ト區別シテ、特ニ人性ト稱スベキモノハ、專ラ此ノ合倫理の知感欲望心術言行ヲ爲ス所ノ能力ナラザルヲ得ズ。即チ如何ナル學ヲ知り、學ニ感ジ、學ヲ欲シ、其ノ學ニ從ツテ如何ナル事ヲ考へ、如何ナル業ヲ爲スモ、皆倫理ノ範圍内ニ於テ之ヲ爲ス所ノ能力ニシテ、所謂德性はナリ。

荀孟果シテ此ノ如ク視テ其ノ説ヲ立テタルカ否ヤハ、知ルベカラズト雖モ、荀子ノ性惡説ヲ推究セバ、人ノ精神ニ固有スル此ノ獸性ニ當リ、孟子ノ性善説ヲ推究セバ、亦人ノ精神ニ固有スル此ノ徳性ニ當ルナリ。

荀孟二子ノ人性觀ハ此ノ如ク善視スルト惡視スルトノ相異アリテ、黑白相反スト雖モ、其ノ善惡ヲ論ズル標準ハ、同ジク倫理ニシテ、倫理ニ合フヲ善トシ、倫理ニ差フヲ惡トセリ。故ニ荀子ガ人ニ於ケル獸性ヲ惡トセルハ可ナリト雖モ、人ニ此ノ獸性アルヲ以テ、直ニ人ノ性ハ惡ナリト言フハ誤レリ。何トナレバ人ニ獸性アリト雖モ、獸性ハ禽獸ノ性ト同類ナレバ、特ニ之ヲ人性ト謂フベカラズ。特ニ人性ト稱スル以上ハ、全ク獸性ト相反シテ、且人ノ特有スル性質ニシテ、相類スル所ナキモノナラザルベケレバナリ。而シテ若シ禽獸ニ少シナリトモ、此ノ人性ニ類スルモノアラバ、之ヲ禽獸ニ於ケル人性ト言フベキハ、猶人ノ有スル禽獸的性質ヲ人ニ於ケル獸性ト稱スルガ如クナルベキナリ。蓋シ荀子ハ人ノ幼稚ニシテ人性未ダ發芽セズ、其ノ云爲スル所、禽獸ト相異ラズ、又其ノ年齢既ニ長ズルモ、教養宜シカラズシテ人性發達セザルガ爲ニ、唯、獸性ノ自然ノ盛ナルヲ視テ、之ヲ倫理ニ考フルニ惡ナラザルナキヲ以テ、人ノ性ハ惡ナリト謂ヘルナランモ、其ノ人性觀ハ根本ヨ

リ誤レリ。而シテ此ノ誤認ニ由リテ、其ノ害毒ヲ後世ニ流シタル弊ハ極メテ大ニシテ、今尙其ノ餘毒アリ。然レドモ荀子ハ是ヲ以テ其ノ教ヲ立テ、思ヘラク、人ヲシテ善ナラシムルコトハ、即チ倫理ヲ實踐セシムルコトハ、人性ノ自然ニ背キ本能ニ違フコトナルガ故ニ、嚴ナラザルベカラズト。以テ風教ニ益セントセリ。人ニ人ノ人タル人性、即チ徳性アルモ、人類ノ未ダ全ク徳性化セズシテ、尙獸性アル間ハ、其ノ獸性ニ對シテ、自己ニモ他人ニモ相當ノ嚴ヲ要スルガ故ニ、其ノ嚴必ズシモ不可ナラズト雖モ、而モ其ノ根本ヲ誤リタルガ爲ニ、反テ風教ヲ害セリ。況ヤ近來稱スル所ノ自然主義、本能主義ニ於テヤ。是レ全ク人ニ於ケル獸性ノ發揮主義ニシテ、人性ニ基ケル人ノ人タル自然主義ニ非ズ。人ノ人タル本能主義ニ非ズ。盡ク人ノ人タル自然的本能ノ徳性ヲ賊シテ、其ノ獸性ニ從ヒ、人ヲシテ禽獸ナラシメズンバ止マザラントスルモノナリ。嗚呼、善言ヲ爲スモ善行之ニ伴ヒ易カラズ。何ゾ惡言ヲ以テ惡行ヲ獎勵スルカ。是レ人性觀誤認ノ結果ナリ。

夫レ人ハ生レナガラニシテ、此ノ獸性ト異ル人性ト稱スベキモノ即チ徳性ヲ有ス。是レ其ノ初ハ、此ノ獸性中ニ其ノ種子トシテ存在シ、年齢ノ長ズルニ隨ツテ、漸々萌芽成育發達シ、之ト同時ニ獸性ヲ消滅シ得ル自然的本能ヲ有スルモノナリ。即チ禽獸ト同様ナル知感欲望

心術言行ヲ爲ス能力中ニ、禽獸ト同様ナラザル所ノ合倫理的知感欲望心術言行ヲ爲シ得ル能力ヲ含有シテ生レ、其ノ成長スルニ隨ツテ、此ノ能力開發シ、明ニ倫理ヲ知リ、深ク倫理ニ感シ、而シテ切ニ倫理ニ從ハント欲シテ、倫理ニ一致スル心術言行ヲ爲スニ至ルト同時ニ、不合理ノ知感欲望心術言行消滅スルニ至ルベキ天稟ノ特質ヲ有スルモノナリ。若シ然ラズンバ、人類ト禽獸ト區別スベキ所ナシ。彼ノ衣食住ノ美ヲ稱スルモ、是レ人ト人トノ間ニ於テ、相互ニ美トスベキノミ。禽獸ニ對シテハ及バサル所多シ。如何ニ盛裝スルモ、虎豹ノ皮、孔雀ノ尾、鴛鴦ノ羽毛ニ勝ルコト能ハズ。如何ニ美食スルモ衆生ノ各、其ノ口ニ適スルニ勝ルコト能ハズ。寧ロ人ハ其ノ口ニ適スルモノヲ得ル能ハズシテ、幽谷ノ小禽ヨリモ哀レナルモノアルニ非ズヤ。如何ニ大厦高樓ニ起臥スルモ、鴛鷹ノ巖居川觀スル壯風ニ勝ルコト能ハズ。潛航艇ヲ發明スルモ、魚ニ勝ル能ハズ。飛行機ヲ創作スルモ、鳥ニ勝ル能ハズ。蓋シ勝ルモノアラシモ、亦及バサルモノ多シ。故ニ特ニ人トシテ稱スベキノモノハ、其ノ徳性即チ人ノ人タル人性ニシテ、若シ人ノ精神ヨリ此ノ人性ヲ除去セバ、殘ル所ノモノハ唯、獸性ノミ。是ヲ以テ、苟モ人ノ精神ニ此ノ獸性ト人性トヲ并存スルヲ認メバ、方今稱スル所ノ自然主義、本能主義ハ、人ノ精神内ニ在ル固有性發揮主義タルコトハ誤ラ

ズト雖モ、幼稚者、未開者、愚人蠻人等ニ於テ、最モ能ク發揮セラル、獸性ノ自然主義、本能主義ニシテ、人ノ人タル人性即チ徳性ノ自然主義、本能主義ト謂フベカラザルコトモ、又荀子稱スルガ如キ人ノ性ハ惡ナリト謂フベカラザルコトモ、自ラ明ナルベシ。

子思曰ハク、天命之謂性。率性之謂道ト。所謂率性トハ、此ノ人性ニ率フコトニシテ、徳性ニ率フト云フニ同シ。而シテ徳性ハ合倫理的能力、即チ倫理ヲ實踐スル能力ナルガ故ニ、率性トハ倫理ヲ實踐スルヲ謂フ。孟子ハ子思ノ教ヲ受ク。故ニ其ノ性善説ハ蓋シ此ニ原ケリ。基督稱スル所ノ人ノ生命ト云ヒ、靈ト云フニ當ルモノハ、此ノ人性即チ徳性ナリ。然レドモ基督ハ之ト同時ニ、人ノ精神内ニ獸性アリテ、人性ヲ含有シ、人性ノ萌芽成育發達スルニ隨ツテ、獸性消滅スルモノナルコトヲモ認メ、此ノ人性ヲ人ノ生命ト稱スルニ對シテ、此ノ獸性ヲ惡魔ト稱セリ。陽明所謂心中之賊モ、此ノ獸性ガ人性ノ發達活動ヲ害スルヲ以テ之ヲ指シテ賊トセルナリ。

抑、基督ハ博愛的ニシテ一視同仁ナルガ故ニ、此ノ人性即チ徳性即チ人ノ生命ヲ視ルニモ、社會全體ノ精神上ヨリ之ヲ視テ、其ノ教ヲ立テタルナリ。細言セバ社會各人ヲ一體視シ、其ノ各人ノ精神ヲモ一體視シ、而シテ其ノ一體的精神ヲ生命即チ徳性ト、惡魔即チ獸性ト

ニ區別シ、此ノ一體的精神即チ社會全體ノ精神ヨリ、惡魔ヲ撲滅シ、人ノ生命即チ道德的生命ノミヲ存立セシメントシテ、其ノ教ヲ弘メタルナリ。故ニ所謂永生ハ、社會ニ於ケル道德的生命ノ永生ナリ。然レドモ社會ニ於ケル道德的生命ハ、個人ニ於ケル道德的生命ノ總體ニシテ、個人ニ於ケル道德的生命ハ、社會ニ於ケル道德的生命ノ一部分ナルガ故ニ、個人ニ於ケル道德的生命ハ、社會ニ於ケル道德的生命ノ永生ト共ニ永生タルベキヲ以テ、其ノ之ヲ說クヤ、個人ノ永生ヲ唱ヘ、各人ヲシテ各、其ノ道德的生命ヲ全ウシテ、以テ社會ノ道德的生命ヲ全ウセシメントセリ。故ニ基督ノ稱スル永生ハ、孔子ノ教フル仁愛ノ結果ナリ。奇ナルカナ、基督ハ常ニ仁愛ノ結果ナル永生ヲ說キ、嘗テ仁愛ノ内容ヲ細論セズ。孔子ハ專ラ永生ノ原因タル仁愛ヲ說キ、嘗テ永生ノ状態ヲ語ラズ。蓋シ兩端相應ズルモノカ、故ニ誤ラズンバ歸スル所ハ一ナリト雖モ、永生ノ說ハ高遠ナリ。誤ルコトナケレバ幸ナリ。況ヤ之ヲ教フルニ多ク譬喩ヲ以テセルニ於テヤ。

基督ハ固ク信ゼリ。必ズ我方教ニ依リテ、社會各人能ク其ノ道德的生命ヲ全ウスルコトヲ務メ、而シテ其ノ生命ヲ害スル惡魔ニ克チ、能ク德性化する人類ガ長ヘニ存在シ、其ノ惡魔ニ克チテ德性化する能ハザル人類ハ、遂ニ社會ニ消滅スルニ至ルベシト。是レ基督ノ理想

ニシテ、所謂天國ハ此ノ理想トセル社會ヲ指シタルナリ。而シテ所謂地獄ハ此ノ理想的天國ノ實現セラレントスルニ際シテ、尙且德性化するコト能ハザル者ヲ概括シテ、一團視シタル所ノ名稱ニ外ナラズ。故ニ完全ニ天國ノ實現セラル、時ハ、惡魔消滅シ、地獄其ノ迹ヲ絶チ、而シテ獨リ人ノ人タル生命、即チ人性、即チ德性ヲ全ウシ得ル者ノミ永ク社會ニ生存セントスルナリ。基督ガ常ニ天國ト永生トヲ號唱シテ、木鐸ヲ振ヒタル所以ノモノ、實ニ此ニ在リ。故ニ博愛ニシテ、上ハ國家ノ祖先ヲ思ヒ、社會ノ祖先ヲ思ヒ、下ハ國家ノ子孫ヲ思ヒ、社會ノ子孫ヲ思ヒ、以テ倫理ヲ實踐シ、以テ神意ニ適應セント欲シ、而シテ悔改シ、而シテ遷善スル者ニ非ザレバ、誰カ之ガ爲ニ蹈舞センヤ。

是ニ由リテ之ヲ觀レバ、基督ノ所謂天國ハ、假ニ社會ヨリ其ノ精神ニ於ケル獸性的惡作用ヲ除去シテ見タル所ノ謂ニシテ、地獄ハ社會ヨリ其ノ精神ニ於ケル人性的善作用ヲ除去シテ見タル所ノ謂ナリ。而シテ善事ハ社會ノ福祉ヲ増進シ、惡事ハ社會ノ福祉ヲ蹂躪スルモノナルガ故ニ、天國ハ福祉ヲ以テ謳歌スル社會ニシテ、地獄ハ災禍ヲ以テ呻吟スル社會ナリト謂ツベシ。然レドモ社會ハ未タ曾テ天國トモナラズ、地獄トモナラズ、善惡雜糅、禍福糾纏シテ、天國ト地獄トノ中間ニ在リト謂ツベシ。將來果シテ天國ヲ實現スルカ、將タ地

獄ヲ構成スルカ、抑、今日マデノ如ク依然トシテ其ノ中間ニ在ルナランカ。
蓋シ基督以爲ラク、人ノ精神ニハ本來善惡ノ兩性質ヲ具備シ、習慣ニ由リテ善ニ向ヒ易クナレルモノアリ。惡ニ傾キ易クナレルモノアリ。是ニ於テ善ニ志ス者アリ。惡ニ志ス者アリ。而シテ惡者ハ善者ヲ引キテ惡ニ同化セシメントシ、善者ハ惡者ヲ引キテ善ニ同化セシメントス。乃チ善者ニシテ惡ニ變化セラル、者アリ。惡者ニシテ善ニ變化セラル、者アリ。而モ終ニハ如何ニシテモ善ニ變化セラレザル惡者ト、惡ニ變化セラレザル善者トヲ生ズルコト多ク、且其ノ子孫モ亦善ニ變化セラレザル者ト、惡ニ變化セラレザル者トノ別ヲ生ジ、善者ハ善者ト一團ト爲リ、惡者ハ惡者ト一團ト爲リ、善惡兩者各、分立シテ、到底相容ル、コト能ハザルニ至ルベシ。即チ一定ノ期間マデノ社會ハ、善惡混合ノ一大社會ナランモ、漸ク分裂シテ、終ニハ劃然タル二大派トナルベシ。何人ノ子孫惡派ニ屬シ、何人ノ子孫善派ニ屬スルモノナランカ。善者モ或ハ惡者ニ同化シ、惡者モ或ハ善者ニ同化スル時代ニ在リテハ、人ノ殃慶禍福常ナカルベシト雖モ、人ノ善惡ガ各、固定シテ、子孫孫相同化スルコト能ハザル時期到來シ、一旦劃然トシテ善惡ノ二大派ニ分裂スルニ及ンデハ、一ハ永久ニ福祉ヲ保チ、一ハ無限ノ災禍ニ陥ラントスル情態ヲ現出スベシ。是レ一方ニ天國ヲ實

現スルト同時ニ、一方ニ地獄ヲ形成スルモノナリ。

蓋シ基督又以爲ラク、他日地獄ヲ形成シタル惡者ノ爲ニ、天國ヲ實現シタル善者ハ、尙其ノ福祉ヲ侵害セラル、所アリテ、社會ニ於ケル地獄ノ惡者ガ消滅セザル以上ハ、未ダ完全ナル善者ノ天國ト謂フベカラズト雖モ、終ニハ惡者亡滅シテ、完全ナル天國トナルベシ。夫レ社會ニ於ケル惡者ニシテ、縱ヒ一時其ノ勢ヲ逞シクスルコトアルモ、從來惡者ハ惡者ト戰ヒ、又善者ト戰ヒ、之ニ反シテ、善者ハ惡者ト戰フモ、善者ハ善者ト戰ハズ、善ニ敵少ク、惡ニ敵多シ。未來ニ於ケル地獄ノ惡者ト天國ノ善者トニ於テモ、亦此ノ如クナルベキハ必然ノ勢ニシテ、地獄ノ惡者縱ヒ天國ノ善者ニ敵セントスルモ、惡者ハ自暴自滅ノ内鬩ヲ爲シ、善者ハ億兆心ヲ一ニシテ之ヲ掃蕩スルガ故ニ、歲ヲ閱シ世ヲ累ヌルニ隨ツテ、惡者遂ニ亡滅シテ、地獄自ラ其ノ迹ヲ絶タン。是ニ至リテ社會ハ始メテ完全ナル天國ヲ實現シテ、人ノ人タル生命獨リ長ヘニ生存スルナラン。而シテ本來社會ノ精神ハ永久無限ニシテ、個人ノ精神ハ之ヲ其ノ生前ノ社會ニ由リテ分賦セラレ、之ヲ死後ノ社會ニ依リテ同存スルモノナルヲ以テ、人苟モ善ヲ爲サバ、其ノ個人ノ精神ハ天國ニ入リテ永生ヲ保ツベシ。是ヲ天國ハ永生ノ在ル所、永生ハ天國ニ於ケルノ靈、而シテ天國ノ門ハ永生之ヲ開キ、永生ノ

靈ハ天國之ヲ承クト謂フ。故ニ仁ニ志シ改過遷善ヲ務ムル者ニ非ズシテ、吾神ヲ敬ヒ神ヲ愛シ、其ノ信仰ニ由リテ天國ニ入り、永生ヲ樂マント言ハ、其ノ迷信ノ程度測リ知ルベカラザルナリ。

吾人既ニ神ヲ認メ、又神ハ人ニ對シテ罪惡ヲ悔改シ、正善ヲ全ウスルコトヲ要求スルモノナリト曰フノ不當ニ非ザルヲ認ム。而シテ改惡遷善シテ神意ニ副ヘバ、天國ニ入り、永生ヲ保チ、然ラザレバ地獄ニ入り、苦痛ヲ極メ、絶滅ニ歸スルコト明ニ此ノ如キモノアル以上ハ、之ヲ神ノ賞罰ト曰フモ、亦其ノ不當ニ非ザルヲ認ム。基督動モスレバ神賞神罰ヲ口ニセシ所以ノモノ、豈深ク視ル所ナカラシヤ。蓋シ獨リ此ノ終局ニ於ケル最後ノ大賞罰アルノミナラズ、平素ニモ亦之アリト謂フベキカ。神ハ實ニ善ヲ喜ビ惡ヲ疾ムモノナルコトヲ疑ハザル以上ハ、彼ノ惡心惡行ノ爲ニ憂苦スルハ、皆神罰ナリト思ハザルヲ得ズ。隨ツテ其ノ一時成功シテ喜ブコトアルハ、僥倖ニシテ神罰ヲ免レタルモノト謂ツベシ。速ニ其ノ罪ヲ謝シ、之ヲ償フニ善ヲ以テセズンバ、他日必ズ其ノ罰アルベシ。償フ所ノ善足ラスンバ、其ノ足ラザル所ヲ罰セラルベシ。且其ノ責或ハ子孫ニモ及ブベシ。況ヤ現在ノ一族ニ於テヤ。一族將タ子孫之ヲ償ハズ、更ニ罪ヲ犯サバ、其ノ罰益、重カルベシ。而シテ其ノ罰

科ハ健康長壽富裕光榮自由ノ五福中或ハ其ノ一ヲ奪ヒ、或ハ其ノ二三ヲ缺ギ、或ハ一切ノ禍ヲ以テ其ノ福ニ代ヘ、而シテ諸感不調和ノ裡ニ葬リ、復之ヲ慰ムルナカルベシ。之ニ反シテ、其ノ善心善行ノ爲ニ安樂スルモノハ神賞ナリ。但シ心ヲ盡シ行ヲ勵ミテ、善ヲ爲セルニモ係ラズ、災難アリ、或ハ他人ノ惡言惡行ノ爲ニ、己ノ善言善行ヲ沮害セラレテ苦メラレ、或ハ其ノ善言善行ノ爲ニ、福祉ヲ犠牲ニ供スル等ノ事アリテ、神ノ救アラザルガ如キ時ナキニ非ズト雖モ、神ハ最モ之ヲ哀ミテ、其ノ善ヲ賞スルニ特殊ノ方法ヲ以テスルニ似タリ。即チ彼ノ善人ノ苦ムヤ、其ノ將ニ死ナントスル時ニ於テモ、惡ノ爲ニ苦ミ、惡ノ爲ニ死スル者ヨリモ慰安多クシテ、自ラ咎ムル所ナキ等ハ、亦一種ノ神賞ナルベシ。且神ノ人ニ對スルヤ、一ニ其ノ善ヲ喜ビテ、其ノ惡ヲ疾ムガ故ニ、善惡相戰フニ當リテハ、神ハ常ニ善ニ應援シ、縦ヒ一時善斃レ惡勝チテ、神ノ援助ナキガ如ク見ユルコトアルモ、神ハ早晚其ノ惡ヲ罰シテ、善ノ素志ニ酬ユルコトアルベシ。何ゾ必ズシモ善ニ福スルノミヲ以テ、天道無レ親。常與ニ善人ト謂フベケンヤ。天網恢恢、粗而不漏モ、亦善人ニ與スル所以ナリ。且善ハ善ト戰ハズ、唯、惡ニ敵スルノミナルニ、惡ハ善ニ敵スルノミナラズ、又惡ト戰ヒ、兩惡相賊害スルヲ以テ視ルモ、神ノ善ヲ助ケテ惡ヲ夷滅セントスルニ急ナルヲ知ルベキナリ。

是ニ由リテ之ヲ觀レバ、所謂神意ニ副フ者ヲバ、天國ニ入レ、永生ヲ授クルコトヲ爲サントハ、神能ク其ノ神意ニ副フ者ヲ助ケテ、人ヲシテ自ラ其ノ社會ヲ開キテ天國ト爲シ、自ラ其ノ天國ニ入りテ、永生ヲ全ウセシメントスルコトアルヲ謂フナリ。而モ人類未ダ天國ヲ開起セザルヲ以テ、未ダ曾テ所謂天國ナルモノアラズ。其ノ古來實ニ之アル如クニ言ヒシモノハ理想的天國ナリ。故ニ忠臣孝子、仁人義士、凡ソ道德的生命ヲ全ウシテ逝去シタル者ノ精神ハ、皆此ノ理想的天國ニ入りテ、其ノ永生ヲ有スル靈トナレルナリ。隨ツテ他日此ノ理想的天國ノ實現セラル、時ハ、此ノ靈ハ其ノ實現的天國ノ靈トナルベシ。何トナレバ、第一篇第五章ニ於テ述ベタル如ク、人類死後ノ精神ハ人類社會ニ憑リテ存スルモノナルヲ以テ、其ノ人類社會開化シテ天國トナラバ、其ノ社會ニ於ケル靈モ亦隨ツテ其ノ天國ノ靈トナラザルヲ得ザルベケレバナリ。人苟モ之ヲ知ラバ、未ダ天國ヲ實現セザル社會ヲシテ、天國タラシメントスルニハ、必ズ忠臣孝子、仁人義士ノ靈ヲ承ケテ、以テ益、仁義忠孝ノ永生ヲ全ウスルコトヲ要スルナラン。何トナレバ、我が國民ノ如キハ無論、我が國體ト同ジカラザル列國ノ人民ト雖モ、仁義忠孝ノ外ニ其ノ永生ヲ全ウシ得ベキモノナク、仁義忠孝ハ人類社會全體ノ道德的生命ナレバナリ。而シテ宇宙萬有ヲ司治セル唯一ノ神ノ人ヲ愛

シテ、人ニ要求スル所モ亦此ニ在リテ、其ノ善ヲ助ケ必ズ之ヲ成サシメントセルナリ。是ノ故ニ神ニ對スル眞實ノ信仰ハ、國家社會ノ爲ニ道德的生命ノ永生ヲ期シ、仁義忠孝維レ務メ、改過遷善維レ勵ミ、以テ理想的天國ノ實現ニ與リテカアルコトヲ爲シ、以テ神ノ人ニ對スル愛的要求ニ應ゼントスルモノナラザルベカラズ。若シ然ラズンバ、何ヲ以テ堅固ナル信仰ニ至ラン。

然レドモ、世界ニ於ケル古來ノ基督教徒ニシテ、天國ト永生トニ對スル觀念果シテ此ノ如キモノ多キヤ否ヤ。開明國ト未開國トニ由リテ同ジカラザルベシト雖モ、蓋シ大部分ハ、地球ニ於ケル人類社會ノ外ニ天國ナルモノアリトシ、人苟モ善ヲ爲サバ、縱ヒ現生ニ於テ苦ムモ、死後ハ人類社會以外ノ天國ニ至リテ、現生ニ於ケルト同一ナル自己ノ資格ヲ以テ、長ヘニ樂シムコトヲ得ベシト、兒童ノ想像スル如キ妄想ヲ有スルナリ。佛門ニ在リテ極樂ヲ説クヤ、之ヲ聽ク者亦此ノ如ク思ヘル者多シ。人知漸ク開發スルニ隨ツテ、此ノ迷信漸ク減少スルハ慶スベシト雖モ、迷信ニ據リテ善ヲ爲セル者ハ、其ノ迷ヲ悟リテ其ノ信仰ヲ失フニ至ラバ、惡ヲ爲シテ憚ラザラントスル者多カラザルヲ得ズ。縱ヒ然ラザルモ善ヲ爲ス者必ズ少カラントスルヲ免レズ。堅固ナル信仰ヲ起サシムルノ教ヲ要スルコト急ナルカ

ナ。

其ノ三 信仰ト基督

基督教ノ眼目ハ、第一神ハ人ニ對シテ罪惡ヲ悔改シ、正善ヲ全ウスルコトヲ要求ス。人ハ當ニ神ヲ信ジテ神意ニ副フベキナリ。第二神ハ神意ニ副フ者ヲバ助ケテ天國ニ入レ、永生ヲ授ケ、神意ニ副ハザル者ヲバ斥ケテ地獄ニ投ジ、之ヲ絶滅セン。人ハ當ニ神ヲ信ジテ天國ニ入り、永生ヲ受クベキナリト曰フニ在リ。是ヲ以テ、所謂天國ニ入り、永生ヲ受クルト否トハ、改過遷善スルト否トノ結果ナリ。苟モ改過遷善セバ、自ラ天國ニ入り、永生ヲ受ケン。何ゾ必ズシモ豫メ天國ト永生トヲ知ルヲ要セン。而モ豫メ其ノ結果ヲ示スハ、此ニ由リテ信仰ヲ起シ、以テ其ノ原因タル所ノ改過遷善ヲ爲サシメントスルノミ。故ニ起信ノ要ハ豫メ此ノ結果ヲ知ルニ在リ。成信ノ要ハ務メテ此ノ原因ヲ行フニ在リ。而シテ其ノ能ク之ヲ知リ之ヲ行フハ、畢竟神ノ然ラシメントスルニ由ルモノナルコトヲ悟リテ、惑ハズ、誇ラズ、倦マザルハ信仰ノ至レルモノナリ。

抑、所謂天國ハ理想ノ天國ニシテ、基督以爲ラク、神ハ人類社會ニ此ノ天國ヲ實現セシメントセリ。社會各人ノ改過遷善ハ、之ヲ保全スル所以ナリト。何ニ由リテ基督ノ教旨此ノ如シトスルカ。新約書ヲ閱讀スルニ、其ノ言意此ニ歸着スルヲ以テナリ。之ヲ神ハ人ニ對シテ罪惡ヲ悔改シ、正善ヲ全ウスルコトヲ要求シ、其ノ神意ニ副フ者ヲバ助ケテ天國ニ入レ、永生ヲ授クト謂フ。而シテ明ニ其ノ神意ノ必然ヲ知リテ之ヲ疑ハザルハ、信仰ノ存スル所ナリ。又既ニ此ノ神意必然ヲ疑ハザル以上ハ、其ノ神意必然ノ結果トシテ、社會ニ永生ノ堅固ニ保全セラレ、天國ノ圓滿ニ實現セラル、時期近ヅクニ隨ツテ、改過遷善セザル者ハ、漸ク世ニ立ツ能ハズ、悉ク皆悶死スルニ至ルベシト信ゼザルヲ得ザルベシ。之ヲ神ハ神意ニ副ハザル者ヲバ斥ケテ地獄ニ投ジ、之ヲ絶滅スト謂フ。是レ基督ノ信仰ニシテ、世人ガ基督ノ教ヲ見ルコト此ノ如クナラザル者アルハ、迷信ノ由リテ起ル所以ナリ。

夫ノ迷信ニ陥ル者ハ、智識開發スルニ隨ツテ、其ノ迷タルコトヲ知ルヤ、復神ヲ信仰セズ。神ヲ信仰セザルガ故ニ、其ノ罪ヲ悔謝セズ。其ノ罪ヲ悔謝セザルガ故ニ、改過遷善誠ナラズ。改過遷善誠ナラザルガ故ニ、善ノ惡ニ苦シメラル、ヲ見バ、己モ亦惡ニ與セントス。是レ迷ヨリ出デ、更ニ迷ニ入ルナリ。且前ニハ迷ノ爲ニ善ニ志シ、後ニハ迷ノ爲ニ惡ニ

志ス。寧ロ前迷ノ醒メザルニ若カズ。而モ人知開發シテ、自然ニ覺醒スルヲ如何セン。人知漸ク開ケ、迷信漸ク醒メントスルニ方リテハ、實ニ堅固ナル信仰ヲ起サシムルコト急務ナリト謂ツベシ。

凡ソ善ハ惡ノ敵、惡ハ善ノ敵ナルガ故ニ、神能ク人ニ由リテ、悉ク邪惡ヲ地獄ニ投滅シ、人類ニ邪惡ナク、社會ニ地獄ナク、獨リ道德ノ永生ヲ保全シ、理想ノ天國ヲ實現セラル、ニ至ルマデハ、社會ニ善惡ノ衝突戰鬪間斷ナク、大戰小鬪社會ニ流行シ、何人モ鬪争ノ渦中ニ出沒スルコトヲ免レズ。是ヲ以テ堅固ヨリ苦シムト雖モ、善モ亦太ダ苦シメラレ、而シテ惡多大ナルバ多大ナルニ隨ツテ、益、大ニ苦シムト共ニ、善モ多大ナルバ多大ナルニ隨ツテ、益、大ニ苦シメラレ、堅固ヨリ之ガ爲ニ斃ル、者多シト雖モ、善モ亦斃ル、者少カラズ。堅固ナル信仰アルニ非ザレバ、何ヲ以テ永ク之ニ堪ヘン。

然レドモ能ク神ヲ知り、又能ク神意ヲ知り、天國ヲ知り、永生ヲ知り、其ノ知其ノ極ニ達スレバ、感亦極リテ、勃然トシテ一大信仰ヲ生ジ、縦ヒ水火ノ中ニ立テテ悲惨ノ苦痛ヲ嘗ムト雖モ、必ズ神意ヲ成スノ慰安アリ、必ズ天國ニ入ルノ喜悅アリテ、其ノ苦痛ノ爲ニ其ノ志ヲ奪ハレザルベシ。嗚呼、信仰モ亦諸感調和ノ大綱ニシテ、且人意ヲ強クスルコト之

ニ勝ルモノナシ。神意加ハルヲ以テナリ。而シテ其ノ信仰基督ノ如クニシテ、其ノ極ニ達シタルモノト謂フベキカ。

夫レ身體ハ精神ノ家屋ナリ。縦ヒ基督ノ如ク德性化シタル精神ト雖モ、豈自ラ其ノ身體ヲ愛セザランヤ。寧ロ他人ノ自ラ其ノ身體ヲ愛スルヨリモ甚ダシキモノアタテ、之ヲ毀傷スルコトハ、其ノ最モ悲シシ所ナラン。何トナレバ、其ノ自重自尊スルコト、他人ヨリ勝ル所ノ精神ヲ寓シタル家屋ナンバナリ。然レドモ其ノ身體ヲ愛スルガ爲ニ、其ノ道德的生命ヲ毀傷セズ。道德的生命ノ永生ヲ全ウセンガ爲ニハ、其ノ生命ノ家屋タル身體ヲ粉塵スト雖モ願ミザリシハ、是レ其ノ信仰ノ然ラシメタルナリ。古ヨリ身ヲ殺シテ仁ヲ成シタル者少カラズト雖モ、布教上ニ於テ、悲惨ヲ極メ、而シテ仁ヲ成シ以テ其ノ信仰ヲ世界ニ弘ムルニ至レルコト、基督ノ如キ者ハ未ダ之アラズ。是レ基督教ノ功ハ孔佛二教ノ功ニ讓ラザル所以ナリ。

其ノ四 辯妄

盡ク書ヲ信ゼバ、書ナキニ如カザルコトハ、獨リ武成ノミナラズ。孔佛基三教ノ書ニ於テモ亦然リ。就中宗教ニ於テハ、信仰心ヲ起サシメントシテ怪ヲ語ルコト多シ。所謂奇蹟ハ

一概ニ無視スベカラズト雖モ、之ニ加フルニ怪ヲ以テスルニ至リテハ、奇モ亦妄ニシテ、
 縦ヒ古其ノ教ニ利アリシトスルモ、今其ノ教ニ害アルコト甚ダシ。又佛教ニ譬喩多キガ如
 ク基督教ニモ譬喩多シ。之ガ爲ニ佛教ノ悟リ難キガ如ク、基督教モ悟リ易カラズ。十二使徒ト
 雖モ、或ハ基督ノ真意ヲ誤解シ、或ハ自己ノ妄想ヲ交ヘテ、相傳フルコト少カラザル所ア
 ルニ似タリ。而シテ其ノ教旨極メテ崇高ナルガ故ニ、其ノ傳導ヲ受クル者、一旦妄想ニ陷
 レバ、其ノ禍千切ノ高ニ登リテ、萬丈ノ深ニ墜ツルガ如キモノアリ。且基督教ノ律法典禮ハ、
 猶佛教ノ律、孔教ノ禮ニ於ケル如キモノニシテ、是レ亦其ノ時處位ニ相當シタル倫理ナリ
 ト認メタルモノヲ擧ゲテ制定シタルモノナラザルベカラザルガ故ニ、其ノ大綱ハ時ト處ト
 位トノ異同ニ關スルコトナク、必ズ率由セザルベカラズト雖モ、其ノ細目ハ時ト處ト位ト
 ノ異同ニ隨ツテ、必ズ損益取捨セザルベカラザルモノアルベキ道理ナルヲ以テ、一概ニ之
 ヲ墨守スベキニ非ズ。一概ニ墨守スレバ、倫理ニ違ヒ、反テ其ノ教旨ニ戾ルコト多シ。而
 ルニ一ニ其ノ律法ヲ守リ、悉ク其ノ典禮ニ從ハザレバ、信心篤カラズト爲ス者アリ。是レ
 妄ニ強フルモノナリ。

世人或ハ基督教ヲ侮リテ、其ノ教義ヲ根本ヨリ覆シ、其ノ律法典禮ヲ全然無視セントスル
 者アルハ、主トシテ此ノ如キ妄アルニ由ルナラン。近來泰西ノ學者中、或ハ基督ノ存在ヲ
 非認セントスル者アリト云フ。是レ徒ニ當時ノ歴史家ニ基督ノ傳ヲ記シタル者ナシト曰フ
 ガ如キニ因リテ起見シタルニ非ズシテ、其ノ主因ハ新約書ニ妄多キガ爲ナルベシ。蓋シ如
 何ナル教旨ナリトモ、新教ヲ起スニ際シテハ、多クノ反對アリテ甚ダ困難ナルヲ常トス。
 基督布教ノ初ニ於テモ亦然リ。其ノ使徒ノ歐洲大陸ニ布教スルニ及ンデモ、固ヨリ俄ニ盛
 ナラズ。且新約書成ルニ及ンデハ、又別ニ基督ニ就キテ傳ヲ立ツル必要ナク、殊ニ當時ノ
 歴史家ガ後世ノ如ク基督ヲ重視セザリシコト等ノ爲ニ、之ヲ其ノ筆ニ載セザリシカモ未ダ
 知ルベカラザレバ、單ニ當時ノ歴史家ガ之ヲ記シタルモノナシトノ故ヲ以テ、直ニ基督ヲ假
 設的人物ト斷定スルノ輕卒ナルハ、言ヲ待タザルナリ。然レバ泰西ノ學者ニ基督非認說、基
 教排斥論ヲ提起スルモノアリト云フハ、必ズ新約書ニ妄多キガ爲ナリト推測セザルヲ得ズ。
 況ヤ彼亦之ヲ口ニスト云フニ於テヤ。然レドモ新約書ニ此等ノ妄アルガ爲ニ、其ノ教義
 ヲ根本ヨリ覆シ、其ノ律法典禮ヲ全然無視セントスルニ至リテハ、其ノ妄更ニ大ニシテ、
 寧ロ鼻ト謂フベキナリ
 霜ヲ履ンデ堅氷至ル。基督非認說、基教排斥論、嗚呼、是レ泰西人心一變ノ兆カ。而シテ